

ぼちぼちいにかっ！

1999

10月からゆーたは学校に行かなくなりました。

この年、6年生のクラスで学級崩壊が起きました。2学期のことです。PTAの役員になり、学校によく顔を出すようになり、雰囲気がとても重苦しくなっているのを感じました。先生達の顔がとってもぴりぴりしているのです。

そんな雰囲気は5年生にも広がっていったのではないのでしょうか？

次第に学校の中から、おっとりとした空気が消えていったような気がします。

ゆーたは多くの優しさに支えられてこそ、成長していける子どもです。学校の中に、ゆーたのいる場所がなくなってしまったのかもしれません。

- 目次 -

1999年1月	5
家族写真 -1999/01/02(土) Vol.35-	5
釣り、そして温泉 -1999/01/03(日) Vol.36-	5
伊豆高原 -1999/01/04(月) Vol.37-	7
家族そろって -1999/01/05(火) Vol.38-	8
いよいよ新学期 -1999/01/06(水) Vol.39-	9
さよなら正月！ -1999/01/07(木) Vol.40-	10
雪だぁ！雪だぁっ！ -1999/01/09(土) Vol.41-	10
パパ、怒ってる？ -1999/01/10(日) Vol.42-	11
僕って一体？ -1999/01/12(日) Vol.43-	12
悪知恵 -1999/01/13(水) Vol.44-	13
号外 -1999/01/14(木)-	14
粗大ゴミ -1999/01/14(木) Vol.45-	16
Be Free! -1999/01/15(木) Vol.46-	17
「インフルエンザ」 -1999/01/16(土) Vol.47-	18
熱、再上昇！ -1999/01/17(日) Vol.48-	19
お墨付き、GET！？ -1999/01/18(月) Vol.49-	20
続・インフルエンザ -1999/01/26(火) Vol.50-	21
続々・インフルエンザ -1999/01/28(木) Vol.51-	22
1999年2月	23
ぼちぼちいけなくて -1999/02/15(月) Vol.52-	23
『...というわけで』 -1999/02/16(火) Vol.53-	24
絶交 -1999/02/17(水) Vol.54-	25
三寒四温 -1999/02/18(木) Vol.55-	27
ダッチオープン教室 -1999/02/20(土) Vol.56-	28
舟釣り計画 -1999/02/21(日) Vol.57-	29
1999年3月	31
卒業 -1999/03/01(月) Vol.58-	31
短縮授業 -1999/03/02(火) Vol.59-	32
どうしてお前ら来るんだぁ？ -1999/03/03(水) Vol.60-	33
我が家を逃げ出す(笑) -1999/03/04(木) Vol.61-	34
国家・国旗 -1999/03/05(金) Vol.62-	35
おやつなし！ -1999/03/06(土) Vol.63-	36
小さな冒険？ -1999/03/07(日) Vol.64-	37
薫製の作り方 -1999/03/09(火) Vol.65-	38
4年生終了 -1999/03/18(木) Vol.66-	38
液晶ディスプレイGETお～！ -1999/03/22(月) Vol.67-	39
結婚記念日 -1999/03/29(月) Vol.68-	40
1999年4月	42
新学期スタート！ -1999/04/07(水) Vol.69-	42
新学期 -1999/04/016(金) Vol.70-	43
いやぁ、なんて書いたら -1999/04/19(月) Vol.71-	44
あぁ、PTA -1999/04/21(水) Vol.72-	44

夜 8 時 -1999/04/22(木) Vol.73-	45
『少年 A』この子を生んで -1999/04/23(金) Vol.74-	47
クレヨンしんちゃん -1999/04/26(月) Vol.75-	47
ゆーたよスマン! ~ 自己嫌悪 ~ -1999/04/27(火) Vol.76-	48
校外学習出発 -1999/04/28(水) Vol.77-	49
無事帰還! -1999/04/29(木) Vol.78-	50
ためしてガッテン -1999/04/30(金) Vol.79-	52
1999年5月	52
もう、うるさいったら ~ -1999/05/04(火) Vol.80-	53
ピュリッツァー賞写真展 -1999/05/07(金) Vol.81-	53
はちみつしぼり -1999/05/010(月) Vol.82-	54
生徒憲章 -1999/05/11(火) Vol.83-	55
誰かの意見を聞きたくて -1999/05/13(木) Vol.84-	56
責任感 -1999/05/19(水) Vol.854-	57
ゆーた君がいると負けるから -1999/05/20(木) Vol.86-	58
勝ち負けよりもみんなで走ろう! -1999/05/21(金) Vol.87-	59
バトンをわざと投げ捨てる -1999/05/26(水) Vol.88-	60
運動会終了! -1999/05/31(木) Vol.89-	63
1999年6月	65
ズル休み -1999/06/02(水) Vol.91-	65
京都にて -1999/06/11(金) Vol.92-	66
今度は金曜日から来よう! -1999/06/14(月) Vol.93-	67
Happy Birthday U-ta! -1999/06/16(水) Vol.94-	69
参観会 & 荒れる学級懇談会 -1999/06/17(木) Vol.95-	70
身体のしくみ ~ 保健の授業 ~ -1999/06/23(水) Vol.96-	72
最近、楽しそうだねっ -1999/06/27(日) Vol.97-	73
「見つけたよ」 -1999/06/28(火) Vol.98-	73
算数ドリル -1999/06/29(水) Vol.99-	74
サッチーも、ヒロスエも君が代も -1999/06/30(水) Vol.100-	75
1999年7月	76
「最近、疑問に思うんだ」 -1999/07/01(木) Vol.101-	76
教科書って面白い -1999/07/02(金) Vol.102-	77
ウチのは教えるのが好きだから -1999/07/05(月) Vol.103-	77
誕生日 -1999/07/06(火) Vol.104-	78
自分のこと、好き? -1999/07/12(月) Vol.105-	79
不覚っ! -1999/07/13(火) Vol.106-	81
小児神経 -1999/07/16(金) Vol.107-	81
小さいのち -1999/07/19(月) Vol.108-	82
夏休みモード -1999/07/26(月) Vol.109-	83
1999年9月	84
低空飛行 -1999/09/01(水) Vol.110-	84
牛乳 -1999/09/02(木) Vol.111-	85
生命保険 -1999/09/03(金) Vol.112-	85
肥満児 -1999/09/04(土) Vol.113-	86
P T A 球技大会 -1999/09/05(日) Vol.114-	87
おばあちゃん -1999/09/06(月) Vol.115-	87

歩く	-1999/09/08(水) Vol.116-	88
子ども病院	-1999/09/09(木) Vol.117-	90
ナンバーディスプレイ	-1999/09/10(金) Vol.118-	90
飲み会・カラオケ	-1999/09/12(日) Vol.119-	91
調べもの	-1999/09/13(月) Vol.120-	93
拷問?	-1999/09/14(火) Vol.121-	94
笑い声	-1999/09/16(木) Vol.122-	95
スキューバダイビング	-1999/09/17(金) Vol.123-	96
テレビゲームと癒し	-1999/09/18(土) Vol.124-	97
ゲーム取り上げ!	-1999/09/22(水) Vol.125-	98
乱高下 (;_;))	-1999/09/29(水) Vol.126-	100
1999年10月		101
登校拒否	-1999/10/12(火) Vol.127-	101
P T Aの仕事	-1999/10/13(水) Vol.128-	102
体力づくり	-1999/10/16(土) Vol.129-	103
1999年11月		104
酸素が吸えない	-1999/11/12(金) Vol.130-	104
時速11km	-1999/11/22(月) Vol.131-	106
お邪魔女ドレミ	-1999/11/29(月) Vol.132-	107
1999年12月		108
田沼意次ファミリーマラソン	-1999/12/01(火) Vol.133-	108
子ども達は無条件に可愛い	-1999/12/04(土) Vol.134-	109
お買い物...(^^)	-1999/12/06(月) Vol.135-	111
「あ、あの家は今晚カレーだね」	-1999/12/13(月) Vol.136-	112
歩いていれば	-1999/12/30(木) Vol.137-	113

1999年1月

家族写真 -1999/01/02(土) Vol.35-

正月の二日。朝、浜松を出て、沼津の女房の実家に行く。

沼津インターを降りて、実家に行く途中に、毎年、3人で写真を撮っていく。

この写真屋さんは、沼津の教員時代、学校の卒業アルバムやら何やらで、学校に出入りしていた所。とっても気さくな人で、沼津を離れた後も、より続けている。

ゆーたが生まれてから、一度だけ行かなかったときがあるが、毎年、毎年飽きもせずに行くものだと、我ながら感心している。

写真屋さんは僕たちの写真をカレンダーにして、送ってきてくれる。

今朝、出がけに去年の正月の写真を見ながら、

「あ、去年と同じ服だ！」

と女房と笑いあった。

ゆーたは毎年毎年、服が違うが、僕たちはほとんど代わり映えがない。

もちろん、ネクタイ、背広なんかでは取らない。

でも、この日ばかりは、普段化粧をしない女房も、顔を白く塗りたくる。

ゆーたと二人で

「あ、ママ顔、白いやあ〜」

とからかう。

写真屋さんに行くと必ず

「ホント一年って、あっという間ですね」

という言葉が出てくる。

ホントにそうだ。

一年一年が、あっという間に過ぎていく。

女房がポツンと

「いつまでここで写真を撮るんだろうね……」と言った。

数年前、義母はガンの手術を受け、その後、精神的にかなり減入ってしまっている。

義父は元気に船を出していると言っても、もう70歳だ。

「最近は、しんどいわ」

とよく口にする。

いつまでもみんなが元気で！

そう願ってはいても「老い」は確かに忍び寄ってきているのだ……。

富士山の雪は、今年は少ないです。

明日は、釣りに出ます。

釣り、そして温泉 -1999/01/03(日) Vol.36-

今日は、義父に船を出してもらい、釣りに出かけた。

浜松から知人が七名、朝の五時に集まってやってきた。
一人をのぞき、みんな素人。海釣りは初めてとのこと。

女房と結婚する前は、釣りなどやったことはなかった。
いや、小さい頃、一度だけハゼ釣りに行ったことがある。
もがき苦しむハゼの口から針を引っ張り出すのがイヤで、以来、釣りなぞやろうとも思わなかった。

女房の父親は、沼津で小さな釣り船屋を営んでいる。
目の前は海。

最初はボートをつないである筏から、ゆーたを膝に抱え、小さな魚を釣っては、喜んでいた。次第に義父
が出してくれる、一五人乗りの船に乗り、沖で釣るようになった。

釣れることも楽しいが、釣れたての魚を刺身にしたり、煮付けにしたりする……。それがうまいのなん
の！

かわいそう、なんて気持ちはいつしか消え失せてしまっていた。

正月の3日には、大体船を出してもらっている。

風が強くなければ、とても一月と思えないほど、海の上は静かで暖かい。
目の前には、富士山がくっきりとした姿を現す。

さて、本日の釣果……。
カサゴが大きいのが釣れた。
浜松から来た、七人も一人一匹は釣っていった。

ただ、いかんせん初めての面々。
アジとかサンマとかのオーソドックスなものが魚とばかり思っている彼らにしてみれば、カサゴなど初
めて見る魚。つり上げた魚がいかにおいしいかを知らないのが悲しい。

しかも、アチコチで地球は釣るし、つり上げたはいいいけれど、針はとれないし、おまけに「可哀想！」と
……。(--;)

：*：*！° 。 .：*：*！° ° '！*：*.. .：*：*！° 。 .：*：*！*：*

三時間ほど釣りをして、その後は、近くに海鮮料理を食べに行き、その後は温泉へ。
船の中であちこち動き回ったせいか、温泉がとっても気持ちがよい。

温泉なんて、じじくさい、などと以前は思っていたが、これがどうしてどうして……。最近では、すっか
り気に入ってしまっている。

ゆーたも、あそこの温泉が良い！などと言う。

のんびりのんびりと温泉に浸かり、帰ってきてからは、昼寝。
目が覚めたら、夕飯の時間だった……。

う～ん、正月だ！

【杉本釣り船センター】

詳しくは <http://www.osamu.net/famiyl/numadu.html>

貸しボート 1人3000円。1人増500円 です。 (^)

今日は、伊東の南、伊豆高原に足を延ばした。
十年ほど前、熱海に住んでいた頃、よく出かけた。

その頃は、若者向けのペンションが建ち並ぶところ、という記憶が強く、正直あまり気乗りがしなかった。
「まあ、しゃーないなあ」と実家を出発。

1時間もかからずに伊豆高原に到着。驚いた。(@_@)

いやあ、昔ながらのペンションもあるが、「～博物館」「～美術館」と言った類が随分とできているではないか.....。

してやったり、という顔を女房がする.....。(;)

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.'° .:*.:'° 。.:*...*:

「ガラス工房」

最初は女房のお目当てのガラス細工の体験ができる「ガラス工房」へ。

ガラス吹き体験をすることにした。

ゆーたはコップを、女房は寝酒用(笑)のぐい呑みをつくることに。

形、模様、模様の付け方等を自分で選び、工房の人のいわれるがままに、ガラスに息を吹き込んだりしていくのだった。

ガラスって溶けるんだなあ.....。

こうやって形をつくっていくのかあ.....、と側で見ながらただただ感心していた。

女房は宅急便で送られてくるのを楽しみにしている。

ゆーたは.....・「熱かったから、いやだった」と.....。

「アンモナイト博物館」

なんてのをめざとく見つけたゆーた。

「行ってみたい!」と。

小さな博物館には、アンモナイトの化石が並んでいる。

その一角には、化石の入ったままの石が置いてあり、自由に削って持って行ってよいと言うコーナーがあった。

ゆーたは興味を持って始めたが、これが結構大変。挫折!

僕も挑戦。でも、面倒くさくなってやめた。

女房が.....最後まで頑張って、一つ化石をもらってきた。(;)

「ワイルドスミス美術館」

絵本作家、ワイルドスミスの原画を展示してある小さな美術館。

マザーグースの挿し絵でも有名だそう。

それに石坂浩二がマザーグースの訳をつけたのが、出版されている。

マザーグースファンには、ウキウキするところだろうが、僕は、もう一つマザーグースがわからない。でも、絵本は好き。ゆっくりゆっくり時間をかけ眺めていた。

女房とゆーたはさっさと回って、僕が一階の半分も見えていない頃に、二階もまわり、「さ、帰ろう！」

.....だから、こーゆーところに、女房と来るのはイヤなんだ。(--;

そんな声を無視して、二階に上がっていった。

ゆーたが来たので、絵本の面白いところを説明した。

「こーやって読んで行くんだよ」と。

意味がわかったゆーたはゲラゲラ笑い転げていた。

どーゆー見方をしているんだ..... > 二人

他にも「からくり人形館」「蠟人形館」「オルゴール博物館」等々、魅力的なところがたくさんあった。けれど、ゆーたが大分眠そうにしているので、例によって例のごとく、温泉に立ち寄って、伊豆高原を後にした。

帰りは、静岡インター付近で15km以上の渋滞。

高速道路を降りて、国道一号線に。

自宅に帰ってきたのは、8時過ぎ、だった。

.....ゆーたの冬休みも、後2日となった。

【明日の予定】

お年玉をたくさんもらった、ゆーたと町へ出て、買い物。

チョコQのパーツを買うんだそうだ、ヤツは。(^^)

家族そろって -1999/01/05(火) Vol.38-

僕は二人姉弟。二つ上に姉がいる。

今日は、姉貴の家族が我が家にやってきての夕食となった。

姉貴夫妻は共に小学校の教員。中二の女の子と、小六の男の子がいる。

同じ市内に住んでいるため、しょっちゅう泊まりに来たりしているが、義兄も一緒に食事となると、結構珍しい。

子どもたちはコタツで食事。

大人たちは食卓で食事をしながら、ひとしきり教育談義、というか小学校と高校の情報交換といったところだろうか.....。

学級定員を少なくする、という論議が出ているが、姉夫婦の勤めている小学校は共に市街地にあり、ドーナツ減少が進んでいる地域にある。1クラスの生徒数は、なんと15名。今年の1年生などは、ぬわんと、7名、という話にはビックリ！

今、小学校では、生徒減少期の波のまっただ中にあり、若い教員は採用したくても、できない状態にある、とのこと。

TT (TeamTeaching) をしたりして何とか仕事を見つけている、と言う側面もあるそうだ。

今後、小学校の統廃合も進んでいくかも知れない、ということだった。

う~ん.....。(;)

.:*.!° 。.:*.!° ° !.:*:. .:*.!° 。.:*...*:

さて、難しい話をしているも子ども達が待ってられない。
姉、義兄、姪、ゆーた、おじいちゃんの五人で人生ゲームを。
僕と女房とおばあちゃんと従兄は、ジェンガでひとしきり楽しんだ。
女房とおばあちゃんは片づけもあり、ジェンガでは僕と甥の二人で何度も勝負を続けた。甥っこも結構熱くなり、最後にはかなりコツをつかんできて、高く積み上げられるようになった。
「また勝負だ!」と言って、九時前、帰っていった。

.:*.!° 。.:*.!° ° !.:*:. .:*.!° 。.:*...*:

チョロQコースをGET
ゆーたはお年玉で、チョロQのパーツを買いに行った。
そこで見つけたのが、チョロQのコース。
うーん、ミニ四駆のコースを思えば随分と小さいものだ!
「これがおもしろそうだね」
「ウン」
ということで、持っていった予算3000円以内に納めたゆーた、明日は朝からコースを組み立てる、と張り切っている。
僕もついついチョロQを1台買ってしまったのだった.....。(^^ゞ

いよいよ新学期 -1999/01/06(水) Vol.39-

明日はとうとう新学期。
ゆーたの気持ちを重くさせているみたいだ。
みんなそうだろうな。僕も教員をしていた頃、休みが終わるときの気の重さを思い出していた。
でも、今は違う。
ようやく、ゆーたも女房も学校に出かけるようになり、自分の時間が大分持てるようになるから、ゆーたには悪いが、とっても嬉しい!!!

いやだなあ.....。いやだなあ.....。をしきりに連発するゆーた。
「三学期にはオーボエの授業があるしな!」
などと、自分に言い聞かせている姿を見ると、おおおお、一生懸命気持ちの整理をつけてるなあ、と感心してしまう。

この三学期が終われば、ゆーたも5年生になるのだ.....。

¥4,300.....

.....今年の正月にゆーたが貰ったお年玉の総額.....。

僕より金持ちだ.....(;)

そう言えば、去年のお年玉から1万円借りて、まだ僕はゆーたに返していない.....。ゆーたはすっかり忘れていたようだが.....。

【まなびやML】

ML(メーリングリスト)開設しました。

メールマガジンのこと、教育のことなどを気楽に話せるように、とすることで。MLって何、初めて。という人もどうぞ気楽に参加して下さい。詳しくは、下記URLをご覧ください。
<http://www.iris.dti.ne.jp/~osamu-s/ml/>

さよなら正月！ -1999/01/07(木) Vol.40-

さて、ゆーたの学校が始まり、女房の学校も明日から。
年賀状ももう来ない.....だろう。
次第に正月の雰囲気姿を消していく。

冷蔵庫。
年末年始に比べ、随分と寂しくなったものだ。

ゆーたがイクラを見つけた。後りはわずか。
「あ、イクラだ！食べるう〜」
女房がパッケージを見たら、賞味期限は過ぎている。
「ゆーたね、これ、賞味期限が切れているし、生ものだからねえ.....。
傷んでいるといけないから、パパにあげな、ねっ」
「うん、わかった！ハイ、パパ」

この二人は僕をなんだと思っているんだろう.....。
それでも、食い気に負けて、そのイクラを食べてしまった自分が悲しくもあるが.....
.....今、現在、別に調子は悪くはない.....。(;)

¥43,000
> ふいふい。あらさがし。。。
> | ¥4,3000.....
> ¥43,000 ですよね！
という心温まる、突っ込みを何人かの方から頂きました。(^^ゞ
いやぁ、これも正月ボケ.....

雪だぁ！雪だぁっ！ -1999/01/09(土) Vol.41-

寒い、寒い！
昨日から急に寒くなった。
午後には、雪がちらつき始めた。
浜松では珍しいこと。
ゆーたは「雪、雪〜」と喜んでいる。

静岡県の西部地方は、西風が強く、それが体感気温をぐっと下げる。
幼い頃から、「雪」と言えば南アルプスから吹き下ろす風に乗ってやってきた。
だから、雪は横から降ってくるものしか知らなかった。
「あ、雪が降ってきた」と言って、首を横に振るのだった。

上から降ってくる雪を初めてみたのは、大学受験で岡山に行ったときだった。
次から次へと上から降り続く雪.....。

「舞い降りる」というのはこういう感覚なのか、と初めて知った。

思わず足を止めて、上をずっと見続けていた。

今でも雪が降ると、僕もゆーたと同じように、ワクワクしてきてしまう。

「雪」は僕たちの生活から、全く遊離したもので、雪国に住む人たちの苦勞、楽しみ、そして雪害の恐ろしさを、僕たちは知らないでいる。

カッカッカッカッカッカッカッ-----ん

どう表記したらいいのだろうか？

昨夜、台所から聞き慣れない音がした。そして「ヤダぁ～！」という女房の声。

ゆーたと僕は思わず女房の方を見た。

ゆーたは直ぐに女房の所へ

「何、何？ 事件……？」

と言って寄っていった。

「ヤカンに、お米入れちゃった～」

しばし爆笑！

学校が始まったというのに、まだ正月モードから、抜けきれないようで……。

パパ、怒ってる？ -1999/01/10(日) Vol.42-

午前中、女房は部活で学校へ。

朝食を下で食べてきたゆーたは、九時少し前二階に上がってきた。

「菓飲んだの？」

「顔洗いは？」「歯磨きまだだろ？」

あがってきたゆーたに矢継ぎ早に僕は言った。

ゆーたは友だちに遊ぶ電話をしようと、二階に上がってきたようだった。

それを遮られる形で僕の言葉が飛ぶ。

ゆーたはモタモタ、モタモタしている。

「早くやんな！」

僕は換気扇の下でタバコを吸い始めた。

煙が中に入らないように、吹き出し口に向かっている僕の姿をゆーたはどう見たのだろうか？

「パパぁ……」

「ん？」

「パパ、怒ってる？」と。

ドキ、とした。

別に怒っているわけではないが、何度も何度も同じことを繰り返し言っているとついつい口調がきつくなっていくのが自分でもわかるのだ。

ゆーたは、位置関係をつかむことがうまくできない。
右と左を理解するのも随分時間がかかった。
また、抽象的な事柄を理解する力も、まだまだ弱い……。
だから、できるだけ僕は口で説明するようにしてきた。
日常生活のことも、ものをつくったり、とったりするのも、できる限り口で説明し、それを理解するよう
に、と。

しかし、同じ説明を何度も何度もしていくと、その度に、イライラが現れてきてしまうのだった。
ゆーたは僕のことを「こわい」と思っているようだ。
僕の顔を随分気にするようになってきたと思う。

これじゃあいけないなあ、と最近強く思う……。

僕って一体？ -1999/01/12(日) Vol.43-

昨日の夕方のこと、ゆーたが翌日の支度をしていた時。
「あ、パパあ～。算数ノートがないんだ。みよし屋さん(学校の側の文房具屋)で買ってきて～」
「ん？ 明日算数あるのかぁ？」と換気扇の下から僕は返事をした。
「ウン、あるよ」
「じゃあ、今から行こうか！」
「え—————っ！だって寒いジャン！」
「じゃあ、パパは寒くてもいいってのか？」
「ウン」

……結局、ゆーたも一緒に行くことになったのだが……???

:*:° 。.:*:° ° !*:°. .:*.° 。.:*:*:

これも昨日。
夜、少し出かけないといけないので、片づけを急いだ。
お米を洗って、スイッチを入れて、っと……。
ヨシヨシ。

我が家は、僕が夕食の片づけが終わるまでに、お箸やお弁当箱を出さなければ自分で洗うことにしてい
る。

ゆーたは自分で洗うことが多い。

さて、片づけお終い！丁度その時、電気カーペットの上で、新聞を読みながら食後のコーヒーを飲んでい
た、女房が、
「あ、お弁当箱っ！！」と。
「ダメ～、自分で洗いなっ！」……ざまーみろ、ってんだ！

:*:° 。.:*:° ° !*:°. .:*.° 。.:*:*:

この前の日曜日、女房がお汁粉を作った。

栗も入っている。栗ぜんざい、って言うんだらうか？

でも、作った本人は元より、ゆーたも甘すぎて全然食べようとしな
夜中、お腹が空いたりしたときとか、少しずつ食べたりしていた。
そのお汁粉も今日、ようやく片づいた。
鍋が大きく炊事場の邪魔になるのだ！

帰ってきた女房が、
「あれ？お汁粉は？ パパ、全部食べちゃったの？」
「もー、だから太るんだよ！ まったくう！」
なら、作るな、って！（-_-;）

:.:.'° 。.:*:.:.'° ° '.:*:.:。.:*:.:.'° 。.:*:.:.'*:

今日は、ゆーたは早く寝た。
九時頃起きてきた女房と、「救命病棟24時」っていうヤツを二人で見ている。女房は、自分で作った果
実酒をチビチビやりながら……。
……江口洋介扮する医者のおさんは植物人間。
見ながら色々と考えてしまっていた。
「Living Will」じゃないけれど、もし、僕が植物状態になったら……。もし、逆に女房が植物状態になっ
たら……。と。

何か女房と話をしたい衝動にかられた。
でも、言葉が出てこなかった。
後ろから、何度も女房の背中をツンツンとつついてみた……。

「もおお、うるさいねえ～」

それが女房の反応だった……。(._.)

悪知恵 -1999/01/13(水) Vol.44-

2学期の頃、翌日の予定帳を書いてこなかったゆーたに、きつく言ったことがあった。「これは、自分で
自分のことをきちんとやることだ！」
「直ぐに友だちに電話をすればいい、という考えはいけないことだ！」と。

以来、大分きちんと書くようになった。
3学期に入ってから、一週間が経とうとしている。
ゆーたの予定帳を見せてもらいながら、一緒に翌日の支度を済ませる。

最近、宿題が少ないなあ……と思っていた。
昨日、友だちが遊びに来た。

「ゆーたあ、今日、宿題なんかあるのか？」と僕。
「書取と本読みだよ」と遊びに来ていた友だちが答えた。

……・

友だちが帰った後、ゆーたの予定帳を見た。

(;)

持ち物や、授業の予定はしっかり書いてある。
がっ、宿題の所は、何も書いてない！！！！

やられた！ と思った。

今日、ゆーたに
「最近、わざと宿題だけ書いてこないんじゃないの？」と聞いてやった。

ゆーたはニタニタ笑って何も答えなかった.....。

号外 -1999/01/14(木)-

「子育て・学校・子ども達」「ぼちぼちいこっ！」「まなびや」の各メールマガジンの読者の皆様へ、お送りしています。重複する方は、ご勘弁下さい。

+-----+

昨日、千葉県にお住まいの、もこさんより、下記のようなメールを頂きました。

内容から考え、多くの方に知ってもらおうと同時に、専門的な立場や、同じような経験をされた方、こうした問題への考えかた等々.....アドバイスも頂きたいと思い、号外として発送させていただきました。

=====

私は11歳の小学校6年生の男の子と4歳の保育園児の女の子を持つ働く母です。

こんな世の中ですから、心と身体を丈夫に育てる子育てをしてきたつもりです。働いてる母親なので、子どもにも負担をさせている部分も多々あるのですが、勉強云々より、きれいな夕日を見て「きれいだねえ」と言える親子でありたいと思ってます。

さて、前記の事件は、先週の土曜日に起きました。

夕方、下の女の子を連れて買い物に出かけ、帰宅すると、長男が号泣しています。

電話で、脅迫されながらクラスの友達の電話と名前を言ってしまった.....という訳です。

最近その手の名簿入手の悪質な電話があるので注意してください。と学校から連絡が来ていましたし、子どもにも「へんな電話がかかってきたら切っちゃいなさい！」と言っていました。

でも、実際にはやっぱり難しい。

相手の言い分です。

「やくざの自分の親分のバイクが、倒されて壊れた。目撃者の証言から犯人は小学校六年生だとわかった。

それで子分で手分けして探すことになり、自分はおまえの学校を調べることになった。

クラスの子の名前と住所と電話を言え！」

長男が『言いたくない』というと.....

「自分はおまえの名前も住所も知っている。やくざの親分はナイフを持っていて人を簡単に殺せる。ぼこぼこにされたいのか？ 電話を切ったらすぐ行くからな」

……と後は、泣きながら、名簿の友達を一人言うたびに、「もっといるだろう」「親に言ったらすぐいくぞ」と脅しをいれながら結局全部言わされてしまったようです。

電話を切って五分後くらいに帰宅した私が訳を聞いて、担任の先生に連絡を取ろうとすると「そんなことしたらばく殺されちゃう。」と泣きます。

担任に連絡を取り、警察にも通報しました。

学校の対応は、緊急連絡網を流す事です。

「脅されてクラスの名簿を言ってしまう事がありましたから、注意してください。悪質な電話には毅然と対応してください。」

「誰が」と言う事は伏せてあったのですが、まわしてくれたお母さんが「困っちゃうわよねえ」と言っているのを聞き『毅然と対応』できなかった我が子が責められている気がしました。

警察の対応は、(110番通報でしたので)近くの派出所から電話が入りました。

「相手も高校生くらいかもしれないねえ」「まあやくざの親分はバイクなんかのらないから」「今後不審人物がうろついたりしたらすぐ連絡してください。」というものでした。

母親の私が言うよりと電話口に子どもを出しておまわりさんに話しをしてもらったら少し安心したようでした。

ナンバーディスプレイの電話でない事を後悔したり、買い物に行った事を後悔したり……

心優しく、心豊かに！と大事に子育てしているのに、一瞬にしてそれを無にしてしまうような卑劣な電話。

言っではいけないと言われている名簿を、殺すぞ！ぼこぼこにするぞ！と脅され泣きながら言わされたのか・・・

でも、警察には些細な事件ですから、N T T に電話番号の開示請求をだしたりする凶悪事件ではないのです。

長くなってすみません。

最近、インターネットや電話の犯罪が増えているということにちょっと関連しているようで長々書き込みしました。

我が子の事件なので、感情的になりすぎているでしょうか？

やっぱり第三者的には、そんなに大袈裟なものではないでしょうか？

いま、警察に徹底捜査を！と言いに行くべきかどうか悩んでいます。

よかったらご意見をお聞かせください。

=====
こうした行為が許されないというだけでなく、息子さん傷ついた心を癒してあげることがが大切だと思いました。

また、この電話がどんな事件を引き起こすかわからないほど、今の社会は病んでいるというのが、メールを頂いたときに感じたことでした。

「僕は警察に遠慮する事ではないと思う」ということと、メールマガジンでの発信をお願いしました。

もこさんより、今朝ほどメールが届きました。

併せてご紹介します。

おはようございます。

さっそくお返事をありがとうございます。

警察に行くに当たって、ひとつだけ心配なことは、今回相手が公衆電話以外でかけていた場合は特定できるとおもうのですが、逮捕(?)された場合、相手も思い当たるところがあるので、報復されないか?ということです。

多くの方に、意見を伺える機会を、ありがとうございます。

是非、お願いします。

最近、近所で、小学生が突然なぐられたり、通称「ホチキスおじさん」と言って、「手をだしてごらん」言われ、手をだすと、ホチキスでバチン! というような信じられないような事がおこっています。

痴漢というより、追いかけて逃げるのを楽しんでいるような「緑のマウンテンバイク男」とか、弱いものへ弱いものへと矛先をむけていくようで、ほんとに世の中どうなっていくんでしょうか?

今日も我が子は、元気に登校したようです。(親のほうが先に出勤してしまいます。) 先生、友達、友達のお母さん方に支えられて、ここまで来ました。

そんな我が子の一大事、やっぱり泣き寝入りは、やめたほうがいいですね!

よろしくお願いします。

鈴木 修

粗大ゴミ -1999/01/14(木) Vol.45-

「ねえ、ゆーたあ、レコードって知ってる?」

「わからん!」

こういう時代なんだなあ.....。

先日、業を煮やした女房が市役所に電話をして、レコードプレーヤーとFMチューナー、そしてファンヒーターを粗大ゴミとして処理してもらうように連絡を入れ、ついに月曜日にゴミ集積所に出しに行った。

このプレーヤーや、チューナーは僕が社会人になった年に買ったもの。だから、20年近く前のもの。もう、壊れてしまっていたのだが、捨てるに捨てられずずっと我が家に居座り続けてきた。

ファンヒーター。こちらは、僕が独身時代にお世話になっていたもの。

昨年点火するたびに煙を吹きだし、修理しようにも部品が、と言われたもの.....。

修理するより買い換える方がよほど安くつくのって何だかおかしい、と思いつつ、集積所に持っていった。

我が家に使っていないパソコンのマザーボードとCPU(MMX Pentium200)がある。今となっては、「遅い」部分に入るのだが、十分に使える。

メモリーも余っている。

「最初に言ったのとはちょっと違うと思うぞ……」

ゆーたは、部が悪くなったと見えて、さっさとご飯を食べ終わり、チョコQで遊び始めた……。

ヨッシャ、勝った！ (^)v ……オイオイ

【もこさんより】

転送していただいたメールを読んで、ほんとに涙がでるくらい感激して、勇気百倍！といった感じ
です。

あらためて、インターネットの「すごさ」を実感いたしました。

情報化社会の武器は、ほんとに良いようにも悪いようにも使えるということでしょうか？

その後、息子はなにもなかったように元気に学校に行ってます。

大人より精神的にタフにできている……ってことでしょうか？

でも、相変わらず電話だけは出ませんが……

この週末に電話をナンバーディスプレイ式のものに買い換えようと思います。

警察や学校のその後も、何か変化がありましたら、お伝えします。

今まで、情報を受けの一方で、なかなかメールを送ることができなかったのですが、感じたことを
すぐに返すことも大事なんですね。

ほんとうにありがとうございます。

「インフルエンザ」 -1999/01/16(土) Vol.47-

朝、ゆーたが、「どうも調子悪いから、今日は休む～」と言って、なかなか布団から出てこなかった。

よく、休みたいなあ、とは口にしても、「5分間休憩したらね」等と自分で言いながら、気持ちを切り替
えるようになった。

「調子が悪い」と言うのに、以前無理に学校に行かせて、熱がどばっ！ と上がったことがあった。

学校に迎えに行った時のゆーたの顔……。

目に一杯涙をためて、

「今朝、調子が悪い、って言ったのに、パパったら『行け、行け』って言うモンだからっ！ こんなに熱が
上がったじゃないのぉ～」と言われた。

ホントに体調が悪いときは、「悪い」と言えるようになってきた。

で、今日は学校を休ませた。

じいちゃん、ばあちゃんも昨日から、和歌山まで法事で出かけていて留守。

ゆーたと僕の机が並んでいる部屋に、布団を敷いて寝かせた。

朝は七度ちょっとだった熱が、8度台まで上がっていった。

かなりしんどそうだ。

昼過ぎ、女房が帰ってきた。もう少し様子を見て、熱が上がるようだったら病院に連れていこう、と。

布団の中に寝転がって、コロコロコミックを見ているゆーた。

時々、「パパあ、六甲のおいしい水買ってきて～」などと声をかけてくる。

僕も小さい頃、熱を出して布団に入っていたとき、天井がやけに怖く見えた時があった……。

夕方になると、熱も大分下がってきた。

夜寝る前には、七度に……。

熱が下がると、途端にうるさくなる。

う～ん、静かにしてくれ！ (^)

【女房、メールに挑戦！】

女房にメールが届きました。大学時代の友人から。
メールアドレスは、勿論僕の方に……。
ということで、女房用にメールアドレスを作りました。
メールソフトですが、僕はbecky!を使っていますので、女房がOut lookExpressを使うようにしました。これで、プライバシーは、一応確保。
ということで、お暇な方は、女房宛にメールを送ってやって下さい。
但し
1、返事は期待しないで下さい。メール初心者ゆえ (^ゞ
2、女房との力関係で、僕が弱くなるような話は「厳に」謹んで下さい。
死活問題です。(^^ゞ
まゝ、動物園の猿をからかうような(いけないんだ!)乗りで、結構です。時間つぶしにでも、どうぞ……。
……一応、インターネットにつないだときは、メールのチェックをしているみたいだ。出してもないのに、来るわけない、つつうのに。(;)

熱、再上昇！ -1999/01/17(日) Vol.48-

朝起きたら、ゆーたはさっさと下へ行ってしまった。
なかなか二階に上がってこない。
昼前、下に行ったら、熱が次第に上がり始めている、とのこと。

午後になって、熱はさらに上昇。9度近くまで上がっていた。
ぐったりしていつもの元気がない。しんどそう……。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*:

ゆーたは生後半年の手術で、頭部から腹部にかけて、「シャント」という管を通して。(脳にたまる「水」を逃がすため)

医者に小さい頃から言われてきたことは、
高熱により、ばい菌が入り、髄膜炎を起こさないように注意すること。

シャントの入れ替え手術が必要になることも……。

熱性の痙攣を起こさないように、ということ。

痙攣止めの薬は朝晩、きちんと飲ませ続けること。

この二つは言われ続けてきた。

熱が出るたびに、髄膜炎、痙攣、この二つにいつもビクビクしてきた。
今は、大分ゆーたも体力がついてきたのだろう、風邪も引かなくなった。
自分で自分の症状をきちんと伝えられるようになってきたので、以前ほどのビクビクは薄らいではきている。
る。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*:

弱々しい声、トロンとした目で、
「病院連れて行って……」と。
熱はまだまだあがりそうだ。
夕方、いつも行っている病院の救急外来へ連れていった。
……凄い人だった。インフルエンザの人が多いのだろうか……。
赤ちゃんや、小さな子どもが多い。
赤ちゃんなど、ただ泣いているだけ。抱いているお母さんは、狭い待合室で周囲を気にしながらも、ただあやすことしかできないでいる。

やっと順番がやってきた。
「のどが真っ赤ですね～」「明日か明後日、また見せに来てください」とのこと。
来週も結構休むんだらうな……。

【お礼】

女房へのメールありがとうございます。
何人かの方が、早速メールを送って下さいました。ありがとうございます。
「これ、返事書かないといけないのぉ？」……(; ;)
「なんか、授業中生徒達が手紙回してるのみみたいだね……」
……こんなもんでしょうね。メールかいていただいた方、こんな調子ですので、返事は……？です。ごめんなさい。
そうそう、このメールマガジンに返信されると、「僕宛」になってしまいます。
メールチェックしたときに、女房宛のメールを開いてしまって、思わずドキリ！
小学校の時、学校の裏山でヌード雑誌を見つけたときの感覚が蘇りました。

お墨付き、GET！？ -1999/01/18(月) Vol.49-

夕食の食器を洗っているとき、
「そうそう、メール来てるみたいだよ」と女房に一言。
「そう、じゃ、見てみるわ」と、女房はパソコンに向かって、覚えたてのOutlook Expressを起動した。しばし、メールを読んでいた女房……。

「ねえ、ちょっとお！」声がきつい。ドキッ！
「一体、なんて書いてるのよ。何書いたか、見せなよ！
ホームページ見たって、最近の日記、読めないジャン！」

「だから、大したこと書いてないってば」
「んじゃ、見せてよ！」
「ホント大したことないってばあ」
「いいから！見せれば良いの！」

……HPには整理していないので、仕方なく、テキストファイルを開いて見せた。
「……………」
「……この日は？」
「ふ～ん……」
「私のメールアドレスを知らせたときは？」
「……………」

次第に、文章に難癖を付け始めた。
「この書き方はなによぉ〜。」(--;)

しばらく読みながら、
「もう、いいよ。あっち行って。食器洗いまだなんでしょ？」

なんなんだよぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉ！ (..)

どうやら、納得したらしい。
考えてみれば不思議なことだろう。
全く見知らぬ人が、自分のことを知っているのだから。
プライバシーも何もあったモンじゃない、そう感じるのは当然だろうな。

「そんなに何を書かれているか、知りたければ、メールマガジンの購読をすればいいだろ？」言いたいことがあるれば、原稿書けよ。そしたら、メールマガジンに載せてやるから！」

そう言ってやった。ハハ、だ。(^^)v

最後の方では、ニタニタしながら読んでいたから、ま、大丈夫だろう。
勿論、この話が今日のネタになるということは、感ずいているみたいだったが……。まずはメダタシ、メダタシ……。(^)/

:*:~'° 。.:*:~'° ° '.:*:~.。.:*:~'° 。.:*:~.~*:

ゆーたは、熱がすっかり下がった。
でも、まだ頭がくらくらする、と言っている。
午前中、病院に連れていこうと思ったが、六度五分の平熱。
変に風邪の菌が蔓延しているところに連れて行くよりも、様子を見ることにした。

体調が良くなってくると、やっぱりじっとしてられない。
退屈で仕方ないのだ。
同時に、「学校行きたくないなぁ」という言葉が口から出てくるようになった。もう少しだな……。

女房は、しきりに私に来たメールを読んでもでしょ？ と疑っている。
読もうと思えば読めるけれど、読んでない。
そう言っても、なかなか信用しない。これも日頃の行いか……。(;)

続・インフルエンザ -1999/01/26(火) Vol.50-

一週間ぶりの「ぼちぼち……」です。
先週の火曜日の夜辺りから、どうも調子が出なくなりました。
日曜日に救急に連れていって、ゴホゴホやっている待合室にいたり、「これはまずいぞぉ……」と思っ
てはいたんです。
で、水曜日。
外出先でどうも、頭が重い。体は相変わらず重たい……(;)
寒気がする……。

コンビニで「鍋焼きうどん」とタバコを買って(笑) 家に帰り熱を計ったら38度8分。普段熱などほとんど出したことのない僕にとって、この熱は、異様な高さ。

フラフラしながら布団を敷いて潜り込んだ。

ますます寒気は強くなる。

とりあえず、女房の職場に電話を入れて、ゆーたのこともあるから早く帰ってくるように伝えた。

しかし、その日は生徒のことで女房が帰ってきたのは八時過ぎ。

電話の一本くらい入れても良いのに……、と布団の中でひたすら帰りを待っていた。

女房が帰ってきた。

下でもおばあちゃんに「電話くらい」と言われてカチンと来ていたらしい。

二階に上がってきた途端、僕も「何してたんだよお！電話くらいいれられるだろっ！」と。

よけいに頭に来たらしい女房は、怒って口をきかなくなってしまった。

立ち向かう気力も体力もない僕は、何も食べずにそのまま布団にくるまっていた……。 (T_T)

ゆーたは結局一週間学校を休んだ。

昨日の月曜日から、元気に学校に行くようになった。

僕の方も、すっかり良くなった。

と思ったら、今度は女房とおじいちゃんが、寝込んでしまった。

女房は学校を休んだ。

3年生の担任だから、後、生徒が登校してくるのは今週だけ、と言う。

ま、仕方ないわな……。と僕。

今もパソコンのおいてある部屋に布団を敷いて寝ている。

「リンゴが食べたい……」

「背中をさすって欲しい……」

……たまに目を開けて新聞何ぞを広げ、面白い記事があると、

「ねえねえ……」

と、とにかくうるさい……。

「この前の夜、俺が熱出していたとき、ヨシコは俺に何をしてくれた？」

と、ここぞとばかり言ってやった。(^^)v

今は、疲れたらしくまた眠っている。

そんなかなで、ようやく落ち着いてパソコンに迎えるようになった。

これを発送したら、買い物に行かなくっちゃ……。

色々心配して下さって、メールを頂きました。

もう、ばっちりです。

続々・インフルエンザ -1999/01/28(木) Vol.51-

午前10時です。

ようやくゆっくとパソコンに迎える。

昨日と言い、今日と言い、目がさめたのは七時前。

慌てて起きて、ゆーたの朝ご飯の支度、出かける準備……。
「早く、早く！」「アレは持ったのか？」「薬、薬！」
せかせてせかせているうちに、女房が起き出してくる。

「卵焼き、しょっぱい……」
「みそ汁、味が濃い……」
「コーヒー飲みたい……」

食器を洗って、洗濯物を干して、布団を干して、掃除機をかけて……。女房は、大分体調が良くなったのか、口うるさい。

「あそこがまだ、汚い……」

九時半を回って、パソコンのスイッチを入れた。

「おやつがないかなあ……」
（ ; ）
「お昼は何、作ってくれるの？」
（ ; ）
「ねえねえ……」
「ん？」
「朝日テレビ、って何チャンネルだっけ？」
「……」
「ねえねえ、若の花ってこの前優勝できなかったんだっけ？」
「そう」
「ねえねえ、若の花って離婚しちゃうの？」
「俺はワイドショーレポーターじゃないっつーに！」

「ねえねえ……」
「はぐれ刑事純情派、10時からやるんだよ」

わあああああつあああああああつあああつあああああ！
頼むから静かにしてくれ！！

最近、女房がよく口にする。
「ったくもー」と言うようなことがあると、
「メールマガジンのネタになるでしょ？ (^) 」と……。開き直るようになってきた……。(-_-;)

1999年2月

ぼちぼちいけなくて -1999/02/15(月) Vol.52-

実に二週間以上も書けませんでした。
1月の下旬のインフルエンザもさることながら、ゆーたが今、色々と壁にぶつかっています。
一つは友だちと絶交した、ということ。

よくあることです。

しかし、それに伴い精神的にとても不安定になり、学校や家で感情を爆発させ、わけのわからないことを口走ったりします。

「わがまま」と言ってしまうばそれまでです。

しかし、そうした状態になったときのゆーたは、手が着けられず、こちらも声を荒げてしまいます。

友だちとのトラブル。

結局は、ゆーた自身が解決していかないといけない問題なのですが、毎日のようにちょっとしたことで、感情を爆発させるゆーたに振り回されています。

僕も小学校五年生の時、クラスみんなに嫌われ、担任の先生にも「だからお前はみんなに嫌われるんだ！」とクラスみんなの前で、言われたことがありました。

悩むときなんだろうな.....。

大きな壁にブチ当たっているゆーた.....。

今回も越えねばならないハードルが高くなりすぎないように、なおかつ、決して妥協しないところを探しています。

それがなかなか見つからないところが、とっても苦しいですね.....。

さあ、今日はメールマガジンを.....なんて思っても、寝る前、朝、ゆーたが滅茶苦茶になると、それだけで気持ちが落ち込んでいってしまいます。

「どうしたんですか？」とメールを多くの方からいただきました。

一つ一つになかなか返事を書けないでいるのが実状です。

でも、途中で何も言わずにこのメールマガジンが消滅するようなことはしません。

ぼちぼちいけないとき、そうしたときもありますから、ご勘弁を.....。

『...というわけで』 -1999/02/16(火) Vol.53-

1987年3月27日

12年前、僕たちは結婚しました。

その時に、二人で「.....というわけで」という本を作りました。

その中に、僕の小学校時代のことを書いたところがあります。

この間、ゆーたのことで、あれこれ悩んでいるとき、とうじ書いたものを読み返しました。

12年前の文章ですが、少しずつ、「ぼちぼち.....」紙上で、紹介していきたいと思います。

当然、12年前の文章ですから、今の僕の考え方とは、異なる部分もあります。でも、そこには、12年前、29歳の時の僕が確かにいます。そして当時の僕が見つめた小学校時代の自分が.....。

.....これでネタが当分無くなることもないな.....オイオイ(-_-;)

:*:・!° 。.:*:・!° ° !・*:!. .:*.・!° 。.:*:...*:

「やさしさについて」

~だからお前はみんなに嫌われるんだ ~ その1

斉藤隆介

「八郎」「三コ」「花咲き山」等の作品で知られる斉藤隆介という作家は、彼のどの作品を取り上げてみても、「やさしさ」というものをテーマにしている。それは「強さに裏打ちされたやさしさ」と言えよう。

やさしいと言うことは何でも許容することではなく、一見、相反するように思える厳しさと表裏一体のものであるということ、更には個人的なレベルのやさしさ、マイホーム的なやさしさではなく、民族的なスケールを内包する大きなやさしさが今日求められているのだということを彼の作品は教えてくれる。

そんな斉藤隆介の作品を僕に教えてくれたのが、小学校五、六年の時の担任であった長谷川正子先生であった。(僕が小学校卒業後結婚され、中野先生となったが、ここでは長谷川先生と呼ばせていただく)

小学校時代の僕を一言で言うなら「優等生」。とにかく勉強はよくできたと思う。「自分は頭がいい、勉強ができるんだ」ということを「自覚」した子供であった。たとえば班で小テストの競争をした時、点数が悪い子に向かって「さんができなかったから、僕らの半の平均点が下がったんだ」というようなことを平気で口にする人間であった。

今でも思い出すたびに恥ずかしく、申し訳ない気持ちで一杯になる。この類の思い出が僕の小学校時代にはたくさんある。

次第に自我も目覚め始めている5、6年生ともなれば、そんな人間を許さなくなる。僕はみんなから嫌われるようになっていった。

「修君とは一緒に遊びたくない！」

そう言われたこともあった。しかし、一方で僕の幼い自我は、自分が嫌われていることを知りつつも、それを容易には認めようとしなかった。

6年生のいつの頃か忘れた。また、その時、具体的に何をしたのかも忘れたが、帰りの学活の時、長谷川先生がみんなの前で僕に向かって、

「修！ だからお前はみんなに嫌われるんだ！」

と言い放った。

その時初めて、「僕はみんなに嫌われているんだ」ということを認めたのだと思う。同時に「このままではいけないんだ」と思うようになった。

しかし、そうは思ってみても、自分を取り戻すこともなく僕の小学校時代は終わっていった。この長谷川先生の言葉だけが小学校卒業後もずっと、自分の人間形成に多大な影響を残して……。

(明日に続きます)

「よかったです」「頑張れ～」「もう一度登録し直したりもしました」等々メールが届きました。ホント嬉しいです。ありがとうございます。

絶交 -1999/02/17(水) Vol.54-

今日は、久しぶりに5人の友だちが集まった。

スマッシュブラザーズ(ゲームソフト)やマンガの本を持ってきたり、ドラクエモンスターズ、相変わらずのポケモン、カード……。

五時には家に帰すようにしているから、そんなに遊ぶ時間は多いわけではない。でも、みんなで順番に

やったり、中には一人でマンガを読んだり、友だちのやっているのを見ていたり……。

で、その中の一人はただ今「絶交中」のB君だった。

「今日、君と、B君と……が遊びに来るよ」学校から帰ってくると、ゆーたはそう言った。

「あれ？ B君とは仲直りしたんか？」

「ウウン、絶交しているよ」

……ぽよよよよよおん。おさむは こんらん した……

B君もゆーたに対しては何となくぎこちない。

言葉もちょっときつめ……。

おやつを食べているとき、B君が

「ねえ、おじさん、またどこか連れて行ってよ」と。

う～ん。「絶交」っていろいろあるんだなあ……。

:*:°'°。.:*:°'° °'°.:*:°。.:*:°'°。.:*:°:~*:

「やさしさについて」

～だからお前はみんなに嫌われるんだ～ その2

修君は友だちがたくさんいる……（前半）

中学校時代の僕は「嫌われる」ということに必要以上に神経質になっていた。

何気ない一言で相手の気分を害し、嫌われたのではないが、とくよくよ悩んだこともあった。相手を傷つける以上に自分が傷つくことを恐れていた。

反面、「やさしさ」というものに飢えていた。人からやさしくされることがとてもうれしく、できる限り「やさしい」と言われる友だちに近づいていこうとした。そして「人にやさしくされたいのなら、まず自分がやさしい人間になるべきだ」という「発見」をした時から「やさしい」と言われる友だちなどを観察するようになっていった。

どういう人間がやさしいと言われるのだろうか……と。同時に自分の行動においても「やさしさ」が一つの基準になっていった。

廊下で物を落とした人がいると、

「あ、こう言うとき、何も言わずにすっと拾ってやれる人間がやさしい人間って言われるんだろうなあ」と考えてから行動に移していく、という具合だった。

こう書いてくると、中学時代はとても神経質な、他人の言葉にビクビクした暗い毎日を送っていただけのように感じるかもしれないが、決して友だちがいなかったわけではない。

今でもつきあいを続けている友人も見つけられたし、部活動を通して人間関係もひろがっていった。

しかし、中学時代全般を振り返ると、根底には人の顔色をうかがっている臆病な自分がことあるごとに顔をのぞかせていた。

それは他でもない、小学校の時のように嫌われたくない、という思いが、一種の強迫観念のように僕につ

きまっていたからだる思う。

(後半は明日です)

「よかったです」「頑張れ～」「もう一度登録し直したりもしました」等々、メールが届きました。ホント嬉しいです。ありがとうございます。

三寒四温 -1999/02/18(木) Vol.55-

朝。NHKのTVでは、天気予報が流れていた。

「いやぁ、また寒くなるのか……。三寒四温だね……」

そう言った僕の言葉に、女房は何の反応もしない。ゆーたはもちろん言葉の意味などわかっていない。もしや、と思い、

「ねえ、三寒四温、って言葉知ってる？」

女房は、しばらく沈黙……。

「あれ？ 知らないの？」

と優越感に浸りながら、そう言ってやった……。(^_^)

「わかった！ 3月は寒いけれど、4月は暖かい！ってヤツだ！」

これはゆーたの答えではない。女房の答え。

……………(;)

「わかった！ 山間部の山間だ！！」と再び女房が言った……。

ますますもって、目が点に。

その後しばらく笑い転げてしまい、ご飯どころではなくなってしまった。

「……これはね」と説明してやった。

すがすがしい朝のスタートだった。(笑)

:*.°。.:*.° °。!.*:. :*.°。 :*.°.*:

「やさしさについて」

～だからお前はみんなに嫌われるんだ～ その3

修君は友だちがたくさんいる…… (後半)

そして、高校へ。

部活は中学からやっていた卓球部へ。その練習の厳しさの中で、僕の甘ったれた根性が鍛え直されていった。少しずつ、他人の目を気にするよりも自分自身の精神、行動に目を向けるようになっていった。

そういう中で、共に苦楽を分かち合う仲間巡り出会えたことは、僕の間人形成に大きな影響をもたらしたと言えよう。

高校時代は、自由奔放に生きた、という思いがある。

悪いことをやって学校に親が呼び出されたこともあるし、停学になったこともある。酒を飲み、タバコを

覚え、麻雀を覚え、好き勝手に過ごした高校三年間をオフクロなど心配で心配で仕方なかったらと思う。

高校三年の時、仲の良かった女の子に、

「修君は友だちがたくさんいて、本当にうらやましい……」

と言われ、その言葉に何とも言えない救いのような物を感じることができた。
文化祭のコンサート（*）をやり終えた次の日、教室の北側の一番後ろの席で……。

（明日は「14年振りの再開」）

（*）文化祭のコンサート

3年生の時のこと。友人と二人でアコースティックギター二本で1時間半のコンサートをやりました。悪仲間、クラスの仲間、とにかく大盛況でした。

翌日は、気が抜け、ぼわーん、としていたのを覚えています。

声をかけてくれた彼女とは、その後、結婚する、しない、などと言う所までいきそうになりましたが、結局、タイミングが合わずすれ違ってしまいました……。若い頃の話です。

どうやら女房がこの「ぼちぼち……」の購読を申し込んだようだ。
油断がならない……。(;)

ダッチオープン教室 -1999/02/20(土) Vol.56-

午後から、3人でアウトドアショップに出かけてきた。

そのアウトドアショップでは、材料費だけでダッチオープンを使っただけの野外料理を教えてくれるそうだ。

もちろん、僕とゆーたは、「作る」ということにはあまり興味があるわけではなく、女房に「付き合われて」の外出だった。

外は寒い。

駐車場の一角で、料理づくりが始まった。

……。ゆーたと僕は、車の中で昼寝。

目を覚まして少し様子を見に行ったが、ただ、仕上がり具合をじっと見つめていることなど、僕たちでできるはずはない。

おまけに寒いときている。空からは雪がちらついたりもするような天気。

僕とゆーたは車に戻り、ドラクエモンスターズに興じていた。

時々、「チキンができたよ」とか「パンが焼けたよ」と呼びに来る女房の声にこたえて、試食に行き、また車の中へ……。そんな午後だった。

女房はすごぶる満足。

ゆーたは、新しい「ぬし」をやっつけて満足。

僕は、僕は……。ま、運転手だったな……。。(;)

:*:~'° 。.:*:~'° ° '°*:~.。.:*:~'° 。.:*:~:~*:

「やさしさについて」

～だからお前はみんなに嫌われるんだ～ その4

14年ぶりの再開

大学に入り、寮生活を送ったことも大きな意味を持った。そこで多くの先輩、後輩、仲間に出会い、自分を怒ってくれる人たちに巡り会えたことにより、ようやく僕は自分が嫌われ者である、という小学校時代からの思いを断ち切ることができたように思う。

しかし、小学校時代からの思い出を遠ざけようと言う気持ちはぬぐい去れなかった。そんな思いを完全に断ち切れるようになったのは、長谷川先生と14年ぶりに再開できたからである。

偶然……と言ってしまふにはあまりにも信じられないことだった。

三年前の目の手術の時、浜松で静養していたある日、姉の家へ遊びに行った。
(姉は同じ小学校の先生と結婚していた)

学校の話から、僕の小学校時代の先生の話になり、教職員名簿をめくっていたら、何のことはない長谷川先生が、姉の旦那さんと同じ小学校に勤務していることがわかった。

その時の驚きと、うれしさと懐かしさと……。

その日すぐに先生に電話をした。十年以上経って久しぶりに聞く声であったが、受話器から聞こえてくる先生の声は、昔と少しも変わりはない。

何とも言えない甘酸っぱい思いが胸の中に広がっていった。

その時の僕の状況等を話し、そして、近いうちには是非お会いしたいということを伝えて 電話を切った。

沼津に帰りすぐに先生に手紙を書いた。

懐かしさと、それ以上に自分をここまでしてくれた先生へのお礼の気持ちをこめて……。

折り返し先生から十枚以上に及ぶ返事が届いた。

(明日は「先生からの手紙」です)

何よ、アンタ。これ、って昔に書いたのを書き写しているだけじゃない。手抜きね。

女房殿の感想でした。……じゃかぁしい!

……ってこれも読むんだらうな。(;)

舟釣り計画 -1999/02/21(日) Vol.57-

今日は午前中から、「絶交中」(笑)の友だちが遊びに来た。

二人して、ボンバーマンのゲームをやったり……。

午後3時過ぎには、その子も含めて、もう2人、計3人が遊びに来た。

この子達は、学校でもゆーたの面倒をよく見ている。

いろんな場面でフォローをしてくれている。

3月14日に女房が学校の同僚と一緒に沼津の実家で舟釣りをやる計画を立てた。13日に僕は東京に用事があるので、当初は、「アンタはいいわ」「東京で遊んできたなら」と言うことだったが、今日、ゆーたと遊んでいる姿を見て、

「三人にも声をかけてやろうか」という事になった。

とすることで結局、僕も子ども達のお守り役として急遽、沼津に合流することになったのだ。

子ども達が帰る前に、急いで家の人に見てもらおうようなプリントを作って(何か、学校からの文書を作っているみたいだった……)手渡した。

でも、こういうときになると「誰に声をかけるか」ということで本当に悩んでしまう。前のキャンプの時は、「あ、僕も」「僕も」ということで6人に膨れ上がってしまったが、今回は船に乗れる人数の関係で、そう言う訳にもいかない。

子ども達にも「学校ではこの話はしないでね。行きたい、って子が出てくると申し訳ないからね……」とは言っておいたが、これからも友だちを選んで行くんだな、と思った。

:*:・!° 。.:*:・!° ° !.:*:.. .!:*:・!° 。.:*:...*::

「やさしさについて」

～だからお前はみんなに嫌われるんだ～ その5

先生からの手紙 ～前半～

修君、お手紙ありがとう。

手紙を読みながら、涙が出て仕方がありませんでした。そして、感謝の気持ちで一杯になりました。

ここまで修君を立派に育ててくれたものに、又、一番心配なさりながら見守っていて下さった御両親、それから何と言っても一番頑張った(というより自分を高めていてくれた)修君に。

よかった。本当に良かった、と言う気持ちで一杯です。

電話、本当に嬉しかった。先生という職業をしていて良かった、と思います。修君の人生にずいぶん関与したと聞いて、実は胸がチクリと痛みました。

私は本当に生徒にとって良い先生だったか、ってね。特にあの頃失恋して、そして次の人との出会いで結婚を決めた時。

また、学校を出て、あまり教育なんて考えずに夢中になって、五、六年とみんなに会い自分をさらけ出し、ぶつかっていました。

もうあれから十五年も経つのですね。

渋川に来てくれた時、みんなが帰った後、修君の手紙で

「お世話をかけました。いろいろと出費させたからみんなでお出し合ったお金です。受け取って下さい」というような内容の事が書かれ、千円同封してあった時、修君も成長したなっけしみじみ思い、もう6年生のころ、自分が怒鳴ったことなどすっかり忘れ、よい子達だった。あんなに夢中に打ち込める子ども達に、これから先、会えるかな、あの頃は良かったナ - - と思っていました。

今の私なら、そんな言葉を言わないだろうナ。申し訳なかったと謝ります。

(後半に続きます……)

何人の方から、メールいただきました。

「奥さんも気になるんですね」「いいですね、こういうの……」

で、本日の女房殿の感想は、

「私が購読するのも、アンタが好き勝手なことを書かないように、監視するためだからね。」とのことでした……。

……ってこれも読むんだろうな。(;)

1999年3月

卒業 -1999/03/01(月) Vol.58-

今日は女房の学校の卒業式。

全国的にも、今日が卒業式の時が多かっただろう.....。

女房もこの日のために、洋服をレンタルし、日頃はしない化粧をし、白い顔で学校に出かけていった。特に化粧はしない人だから、

「顔が白い～」とついつい笑ってしまうのだった.....。

昼前、外出先から戻るとき、とある高校の側で、凄い音をたてて走っていくバイクに出会った。

全くうるさい！

周りの迷惑ってものを考えない行為には、ホント頭に来る。

教員だった頃、文化祭や体育祭、卒業式.....そう言った行事の時は、必ずと言っていいほど、そうしたバイクや改造車がやってきた。

確かに迷惑だ。

けれど、彼らは自分の思いを爆音にしているんだろうな、とも思う。

「ホントは俺達だって、学校に行きたかったんだ！」

「どうして俺達を見捨てたんだ！」

そんな行き場のない叫びにも聞こえてくるのだった。

同時に、学校を辞めていった、辞めさせられていった生徒達のことを思い出していた。

.....

「やさしさについて」

～だからお前はみんなに嫌われるんだ～ その6

先生からの手紙 ～後半～

.....(中略)

修君に会えたら、いろんな事を話したい。次から次へといっぱいあって、とても整理ができませんが、とても大事なことを三つだけ、とりあえず。

一、だからお前はみんなに嫌われるんだ.....。と言ったこと許して下さい。ごめんね。学級のみんなに謝りたいと思いつけていたとのこと、その気持ち辛かっただろうなって申し訳なく思います。

でも、案外、学級のみんなは、そんなこと気にしていないのではないですか。

私もそうですが、人ってのは、外から心の中へポチャンと石を投げ込まれると、波紋のごとく広がっていく人と、ふたをしてはねかえす人もいる。

そして、日々の時の歯車に、自分にとって必要でないものは次第に忘れていくのではないかしら。

久し振りに合えばみんなニコニコと「修君、元気っ」と声をかけ方をたたき合えるのではないかしら。修

君の心を傷つけておいて、こんなこと言っている自分が恥ずかしいけれど、そう思います。

修君が、スイモアマイもかみ分けができる教師になったこと、みんなに好かれている先生になったことで、十分、帳消しになると思うけど……。

どうですか。

……（略）……

夜も更けてきました。梅のつぼみがほんのかすかにふくらんできました。

もうすぐそこまで春がきているのですネ。

健康に十分注意してご活躍下さい。

会える日を楽しみにしています。

乱筆乱文お許し下さい

中野

修様

……明日（？）最後です

メールチェックをする習慣が少しずつ出てきた女房。

「私が読者だから、書けないんでしょ？」（^o^）

「んなこたぁないよ。気がむかないだけだよ」（-_-;）

……ふと思った。

夫婦の会話をメールマガジンでやったらどうなるだろう、と。

ま、誰も読まないだろうな……。 （爆）

短縮授業 -1999/03/02(火) Vol.59-

ぬわんと、今日から、小学校は短縮授業になってしまった！

いつもは3時半過ぎに帰ってきたゆーただが、今週からは二時半には家に帰ってくることになる。つまり、それに合わせて友だちもやってくる、ということなのだ。（--;）

外出先から家に電話を入れたのが、2時40分頃。おじいちゃんが出た。

「もう、友だち来ているよ」

3時。家に戻ると三人の友だちが上がり込んでいた。

その後しばらくすると、もう二人……。

例によって例のごとく、NINTENDO64をやったり、ホットカーペットに寝ころんでポケモンのカードをしていたり……。

今まで、3時半だと塾とかスイミングとかがあり、遊びに来られなかった子ども達も、習い事の前の一遊びができるのだった……。

ここしばらく、ゆーたの「絶交」事件があったりして、家に来る友だちも少なく、平穏な夕方を過ごしていたのだが……。

これが終業式まで続くとなるとなぁ……。

更にその勢いで春休みに突入するのか……。ため息……。・

そう言えば、今日は、ゆーたが絶交していたもう一人の友だちも遊びに来ていたなぁ……（笑）

:.:.'° 。.:*:. '° ° ' .:*.:. .:*. '° 。.:*:.:.*:

「やさしさについて」

～だからお前はみんなに嫌われるんだ～ その8

3月、診察のために浜松に帰った時、長谷川先生にお会いすることができた。

その時、小学校以来、僕自身を縛りつけていたものが、先生の笑顔の中で確実に消え去っていくのが感じられた。

先生は「そんなことはない」と言うが、僕にとってみれば、小学校の時の先生のあの一言がなかったら、僕はどうなっていたかと思う。いくら感謝しても感謝し尽くせるものではない。

今、改めて思う。やさしくありたいと。かつ、厳しい人間でありたいと。

そして「人間は変わることができるのだ」という人間に対する信頼、そして、自分に対する信頼を持ち続け、今よりほんの少しでもいい、これからも変わり続けていかななくては、と思う。

「.....というわけで」1987.3.29 より

:.:.'° 。.:*:. '° ° ' .:*.:. .:*. '° 。.:*:.:.*:

長々と書き写してしまいました。(^^)

12年前の文章です。いやぁ恥ずかしいなぁ、と思いつつ、改めて自分自身を振り返ると同時に、自分の小学校の時の姿と、今のゆーたの姿を重ねて見る事ができたような気がします。

.....ウン、ゆーたもきっと悩みながら変わって行くんだらうな、と。

中野先生との出会いがなかったら、どうなっていたらうか？

「私の力じゃないよ」という先生の言葉の意味が、今になってわかるような気もする。大きな「きっかけ」だったのだらう、と。

タイミング、きっかけ.....。

僕の周りにもたくさん転がっているのだらう。

そのきっかけをきっかけにし得る力、それが「感性」なのかもしれない。

昔の自分に比べて、「感性」が鈍くなっている自分を感じる。

12年前の3月29日に僕たちは、結婚しました。その時に作った本が、「.....というわけで」です。

その本が少し、余ってます。もし、読んでみたいなぁ、という物好きな方がおりましたらご連絡下さい。希望者多数の場合は.....、そんな時考えましょ～(笑)

以上のような案内を出しました。ご了解下さい 女房様

どうしてお前ら来るんだあ？ -1999/03/03(水) Vol.60-

今日も六人の子ども達がやってきた。ゆーたを入れると七人。

今、我が家で流行っている遊びは、

六四のボンバーマン、スマッシュブラザーズ

ポケモン(根強い!)、ポケモンカードゲーム

ドラクエモンスターズ(ゆーたと僕)

で、ゆーたには、ドラクエモンスターズはみんなと一緒にの時は、やめようね、と言ってある。折角みんなが集まっているんだから、みんなで遊べるゲームがいいね、と。

とすることで、専らボンバーマンの四人バトルが、お気に入り。

昨日は、一人の子がスマッシュブラザーズを持ってきた。

ボンバーマンをみんなでやっている最中に来て、「これ、やろう！」と。

ゆーたはあまり好きでないらしく、「ボンバーマンがいい」と主張はしてみたものの、結局押し切られてしまった。みんながスマッシュブラザーズをやっているとき、ゆーたは一人でコロコロを読んでいた。

時々、「ボンバーマンやろうよぉ～」と言ってはみるものの、なかなか相手にされない……。

スマッシュブラザーズで遊んでいるのが四人。

ポケモンのカードゲームをしているのが二人。

コロコロを読んでいるのが一人(ゆーた)

パソコンに向かいながら(と言ってもほとんど落ち着いて考えられないが)ふと思った。

……こいつら、どーして家に来るんだあ？

スマッシュブラザーズやりたければ、よその家でやれよな！ と。

完全に我が家は、「学童保育所」と化している……。(--;)

「このウチじゃなくて、他の家でやったら？」と言いたくなる衝動を押さえて様子を見ていたら、その内、スマッシュブラザーズにも飽きたのか、またボンバーマンをやり始めたりした。

う～ん。

子ども達を前にしていると、僕の中に潜んでいる「教師」が顔を持ち上げて来るような気がしてならない。難しいなあ……。(-_-;)

「...というわけで」は僕たちの結婚式の時に五〇〇部つくりました。

式の参加者と生徒達に配りました。で、その後一人二人と手渡しして、今、我が家には十数部。早速、「読みたいです～」というメールいただきました。

女房は……「え～っ！」と言ってましたが、文句は言われませんでしたので、この企画は進めていきたいと思います。

ご希望の方は、

人数は、取りあえず五人の方にお送りします。

「……というわけで」希望 と書いてメール下さい。

締め切りは、3月6日(土)。

代金は……金を取れるようなモンではありません。(笑)

希望者多数の場合は……そんな時考えます。ま、大丈夫でしょう(笑)

我が家を逃げ出す(笑) -1999/03/04(木) Vol.61-

こここのところ話題が毎日、同じだなあ。(爆)

今日も、予想通り2時半過ぎには、友だちがやってきた。

しかもそのウチの一人は、ゆーたが家に帰るよりも早く、我が家に到着！

「今日はダッシュしてきた！」

……こんでええ、ちゅうにい (--;)

と言いつつ、パソコンのスクリーンセーバーが気に入ったらしく、ひとしきり

「おじさん、これ、何？」

とか話をしていた。

今日は、パソコンのトラブルをみるために、三時に予定を入れていた。

イヒヒヒヒヒっ！

ちゅうことで3時前には、我が家を出発！

今日はいつもより少なく遊びに来たのは三人だった……。

「仲良く遊んでいなよ～。4時過ぎには帰れると思うから」

「行ってらっしゃーいっ」と子ども達。(^^ゞ

:.:.:'° 。 .:.*:.'° ° ' .:.*:.. .:.*:.'° 。 .:.*:..*:

四時には、メンテナンスが終わった。

しかし、そのまま家に帰る気が起こらず、僕の車は喫茶店に向かった。

そして1時間ほど読書。(マンガだっつうに！)

5時前に、家に電話を入れ、おじいちゃんたちに、

「もう5時だから子ども達帰してねえ～」

と頼んだ。

5時15分帰宅。

友だちは帰っており、後には、麦茶を飲んだグラスと、ゲームのコントローラーが散乱していた……。

……今日は麦茶だけだったんだなあ。

わりいなあ～。

おじさんだって、こーゆー時があるんだよお～！

「……というわけで」ですが、結局十冊、お届けすることにいたしました。

「もう、勝手に話をすすめて～」と女房に言われましたが……。

たははははは！

国家・国旗 -1999/03/05(金) Vol.62-

2月28日の広島県世羅高校の校長先生の自殺の報道がなされてから、ずっと気になっていること。

「君が代、日の丸」を法制化して「国旗・国家」にしようと言う動き。

僕は、国語の教員をしていた関係上、一応(嫌いだったけれど)古典、漢文なども教えてきた。嫌いと言っても、「教えなければならぬ」古典の文法や、漢文の読み方などが嫌いであって、歴史は大好きでよく本は読んでいる(つもり……)

大学の頃だったろうか、ある人に勧められて、モルガンという作家の「人間のしるし」という本を読んだ。内容もほとんど忘れてしまったが、とても感動した記憶だけは、未だに残っている。

ただ一つ、覚えているところ。

冒頭の部分だったと思う。第二次世界大戦が終わり、戦地から祖国フランスの地に帰ってきた、一人の兵士が大地にキスをする、というシーンだった。

「君が代、日の丸」の話が出るたびに、その話を思い出す。

:.:.:'° 。 .:.*:.'° ° ' .:.*:.. .:.*:.'° 。 .:.*:..*:

小林よしのりの「戦争論」(だっけ? 今、手元がない.....)というマンガがとても売れているという。第二次世界大戦は、あれは「聖戦」だった、というものだ。

読んでいて途中でイヤになってしまった。

確かに僕は戦争を知らない。

あくまでも僕の感覚がいかなる戦争をも拒否しているだけかもしれない。

知らないからこそ見える本質もあると思う。

たとえいかなる理由があろうとも、人が人を殺して良い理屈はない。

いのちの重さは、他の何ものにも変えることはできない。

そう思う。

毎日のように、我が家にやってくる子ども達.....。

時に喧嘩をし、時に大声で叫び、時に笑い合う光景が、なんだかんだと言っても僕は好きだ。

.....

今日の朝日新聞に政府が「君が代、日の丸」法制化の基本方針を定めた、という記事が載っていた。

「国旗は日の丸、国家は君が代と定め、漠然と尊重義務をうたう」(文部省筋)

だそうだ。

「漠然と尊重義務」

イヤだ。尊重することを義務づけられるなんて、まっぴらだ！

平穏な日々.....

子ども達の姿を見ながら、そして皆さんからの子どものことを中心としたメールを読みながら、穏やかな毎日が過ぎていきます。

でも、むのたけじさんが言うように、「美女の舞踏の中に骸骨の動きを見定める目」が必要なのだろうな、と思います。

おやつなし！ -1999/03/06(土) Vol.63-

今日も今日とて、友だちが三人。

ゆーたを入れて丁度四人と言うことで、ボンバーマンのバトルゲームをみんなでやっていた。

僕は僕で例によって、会話を聞きながらパソコンに向かっていた。

次第にエスカレートしていくのか、三人がチームを組んで、ゆーた一人を攻撃する、というパターンになっていった。

「俺、ゆーたを攻撃する」

「じゃ、僕アイテム集める」

「どうして、俺ばかり狙うんだよぉ！」とゆーた。

子ども達にしてみれば、それがまた面白いのだろう、

「いいじゃん！」と言って相手にしない。

.....

そんなやりとりが30分くらい続いた。

次第に僕の方もイライラしてきた。

「一人を狙うなんて汚いぞっ！」と.....。一生懸命口から出そうになる言葉を押さえていた。

.....ゆーた、もっと言い返せ！ 負けるな！

.....彼らはそうして弱い者を攻撃することが楽しいのだ！ と。

結局、こいつらにおやつなんて出してやるモンか！ と思い、5時になったら、「もう、時間だから帰って！」と言い放った。

「後、もう一回……」なんてことを言う子もいたが、「ダメ！」と拒否。

……子ども達にしてみれば、何となく雰囲気がおかしいなあ、とは思ったかもしれないが、どうして機嫌が悪いのかまではわからないだろうなあ。そう思った。

:.:.:'° 。.:*:.:'° ° ' .:*.:.。.:*:.:'° 。.:*:.:.:*

夜、布団に入ってゆーたとそのことについて話をした。

「パパ、今日怒っていたのわかった？」

「ウン、何となくね」

「何に怒っていたかわかった？」

「う～ん、よくわからん」

ゆーたを寄ってたかって、攻撃するみんなに腹が立ったことと、でも、口出しはしたらいけないな、と思っていたことを説明した。そして、

「いつも、ゆーたの側にパパやママや、先生達がいるわけじゃない。ゆーたが自分で解決したり、立ち向かわないといけないことが、これからたくさん出て来るんだよ」と付け加えた。ゆーたは「ウン」と返事はした。

……う～ん！ 強くなれよ～！

「...というわけで」お送りします。

「読みたい！」と申し出て下さった方が、八名おりました。

んなわけで、皆さんにお送りします。お読み下さい～。

小さな冒険？ -1999/03/07(日) Vol.64-

午前9時。女房が帰ってくるのは昼過ぎ。

ゆーたが、「友だちと遊ぼっかなあ……」と独り言のように口にした。

「今日は、パパ色々やりたいことがあるから、家で遊ぶのはチョットなあ……」と答えた。すると、「じゃあ、R君の所に電話してみる」と。

結局、その友達の所へ遊びに行くことになった。

NINTENDO64とコントローラー、おやつをリュックに詰めて。

その友達の家は、2、3回遊びに行ったことがある。

家からそれほど遠いところだが、僕が送っていったり、友だちと一緒にいったり、と言うことで一人では行ったことがない。一人で迷わずに行かれるかどうかは、「？」という状態。

地図を書いてやった。

「いい、ここがグランドで、この道を左にまがって……」

大人から見ればさもない道ではあるが、「地図を見て出かける」等と言うことはゆーたにとっては初めてのこと。出かけた後も、二階の窓から、最初の曲がり角でちゃんと曲がるかどうか見続けていた……。

「迷ったら家に帰っておいでよ」とは言っておいたが……。

無事ゆーたはたどり着いたようだった。
後から聞いたら、「ウン、わかった、わかった！」……と。

午前中は、ゆーたは遊びに。女房は一泊旅行から帰ってこず。じじ、ばばもどこかへ出かけて行った。とっても、とっても静かな時間が過ぎていった。
で、その間何をしていたか、と言えば、結局ぼーっと……(^_^)

薫製の作り方 -1999/03/09(火) Vol.65-

我が家に散乱している本の数々。
パソコン関係は僕。ゲーム、コロコロなどはゆーた。
そしてキャンプ、ダッチオープンといった類は女房……。

この前、ダッチオープン教室に出かけたが、結局は「いまいち」という所で終わった。その後、女房の職場の同僚が、鱒の薫製を作って来てくれた。

これがまた、うまいのなんの！

「いやぁ、うまい！」

日頃食べさせられている「薫製」とはえらい違いだ！なるほどこれが薫製か！と納得してしまった。
……おいしい、おいしい、と言って食べれば食べるほど、女房の心に火がついていく。

来週の土曜日、再度、ダッチオープン教室に出かけるという。
今度は同僚を誘って……。

ゆーたは「薫製臭い」と言って、女房が作ったものを食べようとしない。
自ずと僕に回ってくる……。(-;)

なかなかうまくいかない女房の「薫製」……。
良かったことと言ったら、ゆーたが「薫製」等という難しい感じが読めるようになった事ぐらいだろうか
……。(-;)
お願いします。
どなたか、おいしい薫製の作り方、女房に教えてあげてくださいませんか？
一応、あちこちのホームページを見ては、
「ウン、なるほど！」等とはいってはおりますが……。 (笑)

手紙が来ました。卒業生から。
「……色々ありまして、離婚しました。先生には……」と。
こうした場合、なんて言ったら良いんだろう……。電話をしようとは思っていても、なかなかかけられないでいます……。

4年生終了 -1999/03/18(木) Vol.66-

一年間ありがとうございました。
この連絡帳を四月の最初の頃から読み返してみました。
改めて、色々なことがあったんだと思い出されました。

四年生になって今までと大きく異なることは、友だちとの関わりができたことです。学校にいる時間以外は、ほとんど家族と過ごしていたゆうたが、自分から友だちの家に出かけたり、声をかけてさそったりと、大きな変化が見られた一年間でした。

先生を初め、心優しい友だちの支えの中で、一年間過ごしてきたこと、ゆうただけではなく、私たち家族もゆうたの友だちや、そのご家族との関わりが増えたことなど……。

先生を初め、多くの方々に感謝の気持ちで一杯です。

人との関わりが増えれば、それに伴うトラブルが増えることは当たり前です。そのトラブルの経験をたくさん積んでいって欲しいと願っていました。

今はまだ自分の力で解決できないので、大人の力を必要としますが、様々な経験を積んで、たくましい社会性を身につけて欲しいと思っています。

その具体的な一歩を踏み出せた一年間であったと思います。

多くを期待せず、せめてこれだけはというものをいくつかに絞って、ゆうたの成長を客観的に見ていきたいと思っています。

本当に一年間ありがとうございました。

母

担任の先生との間でやりとりされている「連絡ノート」。

我が家の場合は、事務的な連絡だけでなく、かなり突っ込んだ話もこのノートを使っている。時には、二～三ページに及ぶことも……。

今日は、終業式。昨日、女房が担任の先生に連絡ノートを書いて、ゆうたに渡した。

今日、その返事が返ってきた。

で、それを読んだ僕は、是非、記しておきたいと思った。

……無断転載です(笑)

これに気がつくのは、二～三日後だな……。

液晶ディスプレイGETお～！ -1999/03/22(月) Vol.67-

昨夜というか、深夜、突然ディスプレイが「ぶんっ！」という音と共に映らなくなりました。丁度、メール等を送っている最中。何やら異様な臭いも……。おまけに、ファンヒーターも突然止まってしまった。

……う～ん、掃除していないからなあ……

とにかくウンともスンとも言わずに、電源も入らなくなりました。

途中、ICQのメッセージ着信音が聞こえても、どうすることもできない。

こうなりゃ、液晶ディスプレイを買い替えるわい！ と密かに決意をしました！

しかし、朝になればその決意も、女房に粉々にうち砕かれることも、目に見えているだけに悲しい……。せめて、数時間の間だけ、液晶ディスプレイの夢でも見ようと思い、ホットカーペットに寝ころんで朝を迎えました。

で、今朝、女房に話したら、ぬわんと、「買えばいいじゃん」と一言……。

おおお！思わず我が耳を疑いました……。(;)

「で、いくらするの？」

.....この時、ノート購入の野望が頭をかすめました。

「う～ん、4,5万かなあ.....。でも、最近の薄型の液晶だと、ちょっと高くなるけれど、場所が広がるよ」

「ふ～ん、いくら？」

「そうだねえ、9万くらいかなあ.....」

.....とりあえず、いくら引き出せるかの攻防の始まり.....。

「ふ～ん、いいよ」と女房。

.....これは一気に攻めるチャンス！この機を逃してはいけない！

「ただ、その値段だと、今までよりもかなり画面が小さくなるんだ。15インチの液晶だと、いいよ」

.....この辺りから、女房の目が鋭くなってきました.....。ヤバイ、か？ 下手に詰めを誤ると、全てが水泡に帰してしまう！（^_^;）

「ウン、でも2～3万、ホラ、地域振興券も使えるし！」

（ゆーたよ！すまん！ こんな親父を許してくれ！）

「そうね、しょうがないわね、12万円までならいいよ！」

よっしゃ！ここだ！

.....確か15インチのモニタなら、2万ちょいであつたはず。ノートパソコンも、何とか.....、と密かに思ったが、敵も然る者、こちらを見透かしている。

「ノートパソコンは、動くから買わないよ！」と釘を刺されてしまった.....。（ ; ）

ちゅうことで、パソコンショップに行き、

「12万以下、15インチのTFT液晶！ 手持ちは今、2万しかないから、残金は明日！ 飯山かシャープがいいなあ！」（なんちゅう無茶苦茶な.....）

馴染みの店員さんが、

「取り寄せになってしまいますから、その間、ウチのディスプレイ使っていて下さい」と貸してくれました。

借りてきた15インチのモニタでしっかり、無事、復活しました。

一時はどうなることかと、ホント真っ青になりました。

「なんで勝手に書くのよぉ～」と、女房が言ってきた。

「いやあ、言い文章だから残したくって。よく書けてるなあ、ホント」

ニタッと笑って、何も言わなくなった.....。(^^)v

結婚記念日 -1999/03/29(月) Vol.68-

今日、3月29日は、僕たちの結婚記念日です。

12年前、僕たちは結婚しました。

神主さんに御祝い(?)をしてもらったりすることもなく、ウェディングケーキもなく.....。

披露宴会場のみんなの前で、婚姻届を書き、指輪の交換を行い、そして、「誓いの言葉」を読み上げる.....。

そんな結婚式でした。

その時に、二人で読んだ「誓いの言葉」.....。

読み返すとどこかしら、気恥ずかしさも.....。

あれから12年。どう変わってきたのだろう。

変わらずにいられたのだろうか.....？

.....

『誓いの言葉』

今まで私達は全く異なる人生を歩んできました。

そして、数多くの生命を踏み台にして、自分の人生を築き上げてきました。

時としては傲慢さ、未熟さから人を傷つけたこともありました。

しかし、そんな私達を支え続けてきてくれた友人や仲間、先輩、そして父や母をはじめとする家族・親戚がいました。

自分の人生にのみ目を向けていた私達でしたが、自らの人生をより豊かにしていきたいと望んだ時、自分以外の人間の存在を必要とするようになりました。

二人が初めて顔を合わせてから四年。

お互いの存在を意識し始めてから一年の月日がたちました。

その間、多くのことを私達は語り合ってきました。

結婚というものは、二人が一人になるのではなく、

自立した者同士が、互いの人生、互いの生き方を尊重し、寄り添って生きていくものだということ。

相手を愛することだけに自分の存在する意味があるのではなく、相手を愛する以上に、自分を愛することが大切だということ。

自分を大切にできない、自分を愛せない人間には、本当に人を愛することはできないのだということ。

人間は社会との関わり、人との関わりの中でこそ、人たりえるのだということ。

その為にも決して独りよがり、二人よがりの生き方をしてはならないということを.....

私達は、考え方や意見の食い違いを、話し合うことにより乗り越え、

そして、その中から価値観の共通性を見出し、

生きていくことに対する姿勢を確かめてきました。

そんな日々の積み重ねが、

いつしか私達に、結婚を決意させてくれました。

今日から二人で生きていきます。

私達は持ちうる限りの誠実さをもって

人とのつながりを求めていきたいと思います。

たえず、お互いの存在や、生きることの意味、

生命を育むことの重みを問い続けながら生きていきます。

また、独立した人間同士として、

尊敬しあい、

愛し合い

精一杯、生きていくことを誓います。

1987年3月29日

鈴木 修

佳子

:*:.'° 。.:*:.'° ° '.*:.. .*:.'° 。.:*:...*:

毎年、結婚記念日だから何かをする、ということはない。
いつの間にか、この日が過ぎていく。
女房は、そうした「記念日」というものに淡泊なのだ。
僕は結構、そう言うのが好きだが、「淡泊な人間」を相手に、一人ではしゃいでも仕方ない、と思っている。
一人で、今日を噛みしめようと思う。
……と、これを読んだ後の女房はどう、反応するだろうか？（笑）

トラブル脱出できました。一年以上に渡って、重くのしかかっていたものから解放され、気が抜けてしまってます。春です。二年分の「春」を満喫しています。

1999年4月

新学期スタート！ -1999/04/07(水) Vol.69-

いよいよ春休みが終わりました。
ゆーたは、昨日が新学期。
女房は、今日が入学式。
ゆーたは5年3組に。女房は1年生の担任になりました。

我が家には、久方ぶりに平穏な日々が訪れました。
僕も、ようやく冬眠から目覚めることができそうです。（笑）

春休み、ゆーたと友だちと「ガメラ3」を見てきました。
「ガメラ1」「ガメラ2」は家族三人で見ました。「ガメラ」は「モスラ」に比べ、「理屈っぽい」(ゆーた弁)ので、以前は眠くなったり、退屈してしまったゆーたも、今回は随分と話について行かれるようになりました。
こんなところにも、ゆーたの成長を感じます。

タベは、真新しい教科書をチェックしながら、名前を書きました。
横でゆーたは教科書をチラチラ見ながら、
「ほら、パパ、見てご覧！タバコを吸っている人の肺はこんなだよ」と。
保健、家庭も習うんですね。家庭科では、裁縫をしたり、卵料理をつくったり……。
ゆーたは「げーーーーーっ！」と言ってました。

1年のスタートは4月だなあ、と改めて思います。
ただ教師をやっていた頃と比べて一番違うことは、長期の休みが終わるのが待ち遠しくなったということでしょうか……？（笑）

廃刊か？週刊化か？などという憶測をよそに、全くマイペースです。（笑）
ただ、この春休みは、ゆっくりできませんでした。やはり、落ち着いて考えられる時間と空間とが必要で。
さて、ぼちぼちいきます……。

いやぁ、久しぶりです。(笑)

書きたいことがありすぎて、結局、書かずじまい……。

ますます書きたいことが溜まっていく……という悪循環です。

女房は、この間自宅に帰ってくるのが、大体七時半過ぎ。

今月の25(日)~27日(火)にかけて、新入生の集団宿泊訓練があり、その係りになったとかで、帰ってくるなりご飯をかきこみ、風呂に入り、疲れたぁ、と言って9時にはゆーたと寝てしまいます。

ってなわけで、最近夫婦の会話が少なくなってます。

さて、ゆーた。

今度の担任の先生は男の先生。44歳だとのこと。あいつなりの緊張感を持って、新学期を過ごしているようです。

が、気になることが一つ。

「忘れ物をしたら、漢字の書き取りとグラウンドを走る」

というのがあるそうです。詳しいことは担任の先生と話してないですが、ひじょうに、イヤな予感がしています。

それは僕自身が、今度の担任とうまくやっていけるかどうか、ということです。

ゆーたの成長にとって「学校との協力」が非常に重要になるわけですし、今までは、うまくやってこれたなぁ、と思ってます。

でも、この「忘れ物」については受け入れられないですね。

勉強嫌いになった生徒達をたくさん見てきましたが、「罰」として「書取」や「計算」なんてのは最悪です。勉強の効果もあがるから、というのが理由としてよくあげられますが、これは逆効果です。

も一つ。グラウンドを走らせる……。

これも同時に体力を付けさせる、ということがよく言われますが、体力をつけることと、忘れ物は、全く別の次元の話です……。

グラウンドを走らせる、ってのは明確な「体罰」です。

う~ん、一度ゆっくり話をしてみたいと……。

さてさて、僕は……。

今年はPTAの役員になりました。各学年の代表ということで、五年生の代表委員です。早速、PTA総会に向けての会合がありました。

もう、言いたいことだらけ。でも、まぁ、とりあえずは様子見、ってことで黙ってました。これも、今年度の話題の一つになりそうです。

今まで、「T」の立場だった僕が、「P」の立場で学校を見る。

う~ん、面白いネタがたくさん出てきそうです。

そうそう、PTAの「校外指導部長」だそうです。

教員時代、一番多かった仕事が「生徒課」でした。 (--;)

トラブル脱出！しました。これについては、「子育て……」の方に、書きたいと思ってます。

二日ほど前、布団で寝たら首の筋がおかしくなってしまった。
ちょっと首をひねったりすると、痛い！ どうすりゃ治るんだあ……。

いやあ、なんて書いたら -1999/04/19(月) Vol.71-

No.70で書きました、「罰の書取とグラウンド」の件の顛末です。

たくさんの人から、「そうですねえ」「罰はおかしいですねえ」というメールを頂きました。そーだよなあ、もし、そんな先生だったら、と重苦しい気持ちで、担任の先生に連絡ノートに書きました。で、その返事というのは……。

「先週、毎日書取の宿題をしてこなかったんで、それをやらせた。
グラウンドは、体育の授業の時に、遅れてきたので、その時に走らせた。」

ということでした。(^^;)
どうも、おかしいなあ、とは思うところもあつたんです。

「何を忘れたの？」としきりに聞いても、「う～ん、何だっけえ……」と口をモゴモゴさせていました。
毎日、家に帰ってきて予定帳を見て、宿題、持ち物をまず確認するわけですが、「書取」というのは、「いちども」書いてきませんでした。

昨年辺りから、自分のしたくない宿題は「わざと書いてこない」という技を覚えてきたゆーた。今年も同じようにいけると思ったのでしょう。

ゆーたの作戦は、あっけなく崩れてしまった、というわけです。

土曜日、女房と二人で、

「ゆーたあ、ずるいなあ～！わざと書いてこないんだからな！
これは、『罰』とは言わないのだ！！！！
これは、当たり前なのだあああああああ！」

ゆーたはばつが悪そうに笑っていました。

それよりも、先生はさぞかしイヤな思いになったろうなあ、と。今日、再度、お詫びを書いて、ゆーたに持たせました。

「はい、これ、連絡ノート。先生に渡してね」

何が書いてあるか気になるゆーたは、カバンに入れる前に、ノートを開いて見ていました。

再度、僕は

「ゆーたのずるっこのことを書いてあるんだよ。」と。

ああ、P T A -1999/04/21(水) Vol.72-

今年度僕はP T Aの役員を仰せつかってしまいました。(笑)

役職は、学年代表、ちゅうことです。

P T Aの役員構成は、

会長1、副会長4(兼務会計、書記)、運営委員(各学年1、各地区1)

上記のメンバーが「運営委員会」を構成します。

また、地区委員として各地区から6～20名、学級委員(各クラス2)が選ばれ、各係りに別れます。

係は、教育部、広報部、保健体育部、施設部、校外指導部に別れています。

で、僕は、校外指導部長、ちゅうことになりました。(爆)
教員時代、主にやっていたのが、生徒部とか生徒指導部.....(^_^;)
オイオイ、またかぁ、ってな感じでした。

この役員ですが、僕の所にも3月に
「役員やってくれないか？」と電話があり、「あ、いいですよ」と答えました。
「学年代表ということでお願いしたいんですが？」
「あ、いいですよ」とまた、答えました。

で、先週14日に初めての会合があったので学校に出かけていきました。
黒板を見たら、「校外指導部長 鈴木修」って名前があるんですね。

オイオイ、そんな話聞いてないぞ.....、なんじゃあこりゃ??

で、自己紹介が始まりました。
多くの人が、「役員をやって欲しい、って言われてここに来たら、部長になってました、××です」って挨拶をしてました。
う～ん、こんなもんでしょうねえ.....(^_^;)
決め方について一言発言しようとしたんですが、「和気藹々」の雰囲気の中でやめました。雰囲気壊しそ
うで.....。

でも、やっぱおかしいんですね。

明日、PTA総会があるんですが、僕の方から今年度の校外指導部の簡単な方針を発表することになって
いるんです。部長として.....。

規約に

- ・会長、副会長はPTA総会によって選出される.....。
- ・運営委員(各部長等)は会長が委嘱する.....。

だって。

オイオイ、僕の立場って何?ってなモンです。(爆)

一応、17日(金)に行われた会合で、「おかしいですね」とは発言しましたが、混乱させるだけだから
と、指摘するだけにしておきました。

23日(金)はPTA総会です。

おっしゃ、またデビューだぜいっ!

毎年PTA総会には出ていますが、日の丸が飾られるんですねえ、壇上に。そいでもって、みんな
きれいな格好してきます。スーツ、ネクタイ.....。

明後日(金曜日)はジープンで行こうと思ってます。

夜8時 -1999/04/22(木) Vol.73-

昨日は、久しぶりに女房が早く帰ってきた。

と言っても7時少し前。このところ八時近くの帰宅が続き、帰ってくるなりご飯をかきこみ、風呂に入り
寝てしまうパターンが多かっただけに、昨日は久しぶりに話をした、という感じだった。

と言っても、一方的に女房が新しいクラスのことをまくしたて、僕が時々口を挟んでも、「ちょっと、まだ続きがあるの！」という感じだ。

よくまあ、しゃべるわぁ……と思いつつ、これはネタになるなぁ、と聞いていた。

ひとしきり女房の話を聞き、食器の片づけに台所に立った。

「コーヒー飲む？」「お風呂出てからね」

女房は、弁当箱を僕の横に置いて、風呂に行った。

入れ替わりにゆーたが、下から二階に追いやられてきた。

Dr. スランプあられちゃん がある日だった。7時台のアニメなどは、二階では見られないため、ゆーたは下でテレビを見るのだが、8時には二階に上がる、ということになっている。

「宿題は、本読みと書取だろ？」

この辺のチェックはしっかりしておかないと、ヤツにごまかされてしまう。

「洗い物しているから、大きな声で読みなよ。聞こえないから」

テレビのスイッチを消し、辺りには、ゆーたの本を読む声と、水道の水の流れる音……。

時々、ごまかしたり、ムニャムニャと言うところは、台所から「ダメダメ！」「もっと点や丸でちゃんと切らないと！」と声をかける。

……………う～ん、元国語の教師（爆）

途中で飽きてしまうゆーたの気持ちを以下に集中させるか！

「パパぁ、マジックザギャザリンのカード交換しようよ～」

「ウン、いいよ。きちんとやることやったらね。」

ゆーたは書取を始めた。

風呂から上がってきた女房が洗濯物をたたんでいる。

僕は、ご飯をセットして、生ゴミを処理して、換気扇の下でタバコをくゆらせる。

「終わったぁ～！」

「じゃぁ、明日の仕度、早くやっちゃいな」

洗ったばかりの箸と箸箱をゆーたに渡す。

仕度を終え、薬を飲み、歯を磨き、パジャマに着替えたのが八時四五分頃。

「さぁ、交換だよ！」

少しの時間だが、ゆーたとカードの交換をしていたら、女房の「もう、寝るよ！」の声。

ゆーたは寝室に行き、ようやく僕の時間がやってきた。

僕は、ドラクエモンスターズのレベルアップをすべく、ゲームボーイカラーのスイッチを入れた。

ポチっ！

ここのること「ぼちぼち……」を朝書くようになった。

ゆーたと女房が出かけていき、食器、布団の片づけが終わり、ホッと一息ついた頃に。 テレビを消して、パソコンに向かう。

今朝は、ニュースステーションのキャスター菅沼栄一郎が、不倫が発覚しキャスターを降板した、と……。そんなときは、ついついテレビに見入ってしまったりもするのだが。(^^;

『少年A』この子を生んで -1999/04/23(金) Vol.74-

かつて、「『淳 Jun』を読む……」と題して、HPに自分なりの感想をまとめた。(http://osamu.net/dekigoto/jun.htm)

昨日、「『少年A』この子を生んで」を読み始めた。後、1/3を残すくらいだ。

重たいなあ……。読み始めてからずっとそんな思いが胸の奥底にくすぶっているのを感じる。

第三章「逮捕直前の息子Aと私達」(父親の手記)

7月22日(火)

イヤな郵便物が入っていました。……

葉書に頭部の絵。

「お前たちが交尾してできた化け物の責任を取れ」

……A君が逮捕されたのが6月28日。A君は両親に会うことを一貫して拒否していたため、両親が本人の顔を見たのは、9月18日だったと。

淳君を失った土師さん一家の悲しみ、怒りは決して消えることはないだろうが、また、A君を生み育てた両親の悲しみ、苦しみもまた、僕にはどうていはかり知ることにはできないほどのものだろう……。

よく、マスコミなどでA君の成育過程が云々される。

僕は、育て方についてあれこれ言うつもりや感想を述べるつもりは毛頭ない。

ただ、ただ、子育ての難しさを思うばかりだった。

ゆーたのことを改めて思った……。

……この本については、HP及び「子育て……」の方でもまとめたいと思います。今は言葉になりません……。

昨日は女房が帰ってきたのは9時をまわっていた。地区の懇談会？ があったそうだ。今朝も出かける際にこぼしていた。

「年々仕事が増えていくのよね。それもみんな。削るところは削らないといけないのに……」とため息をつきながら、出かけていった……。

クレヨンしんちゃん -1999/04/26(月) Vol.75-

昨日の日曜日から女房は、二泊三日新入生の集団宿泊研修に出かけていった。今朝は、6時15分に目覚ましをかけ、一度は起きたのだが、再び、深い眠りについてしまった。 やっぱ、布団は気持ちが良い！

\(--;)

「パパあ、大変！大変！ 6時45分だよ！」

キャツは、5時半過ぎに起き、ひとしきりゲームをしたり、昨日観てきた「クレヨンしんちゃん」の映画のパンフレットを眺めていた。

6時半には絶対に起こせ！ って言うておいたのに……と文句を言っても始まらない。慌てて朝飯の仕度を始めた。

と言うても、残り物のみそ汁を温め、目玉焼きをつくり、後は、ふりかけを用意するだけ……。

「パパあ、ハムは？」

「今日はなし！明日！」

バタバタしながらもゆーたを送り出した。ホッと一息。(^^ゞ

明後日28日は、ゆーたの学年は校外学習で、バス、電車を乗り継いで、漁港の見学に行く。グループ単位で行動し、集合場所は浜松駅。

う～ん、ゆーたは一人でバスに何か乗れないぞ……(--;)

ってなわけで、「クレヨンしんちゃん」の映画を観に出かけた。

バスに乗って、駅まで一度行ってから……。

「ちゃんと整理券を取らないといけないんだぞ」何度も念を押していたら、僕の方が、整理券を取るのを忘れてしまった……。(^^_;

路線図を見ながら、今どこを走っているか、なんて話をしたり、整理券とお金を入れるところを教えたり、駅のロータリーを一通り歩いたり……。

当日は恐らくグループの他の子ども達が、ゆーたの面倒を見てくれるだろうから、心配はしていないし、また、トラブルが起きてもそれはそれで、勉強だと思っている。

でも、ただ周りの友だちに引っ張られて行くのではなく、たとえほんの少しでも良い、自分の足で動いて行って欲しいと思うのだ。

で、クレヨンしんちゃん……。

1時間50分の映画は、小さい子にはちょっとしんどいかな？

毎週放映しているのとは異なり、じっくり作られ、所々にはCGを使ったり、と僕も結構楽しんでしまったりした。(笑)

改めてみると、あのあっけらかんと「下ネタ」を連発するのも、むしろ最近のテレビや雑誌の暴力シーンやセックスシーンよりも、よほど健康的なのかもしれない、とも思ってしまった……。(;)

館内では、子ども連れのお父さんたちの大きな笑い声が、響いていた。

今日発行の「子育て……」に詳しく載せていますが、ゆーたと町を歩いているとき、「あしなが育英会」の街頭カンパをやっていました。

「ねえ、パパ、何か買って」って言えない子ども達がたくさんいるんだよ。ゆーたは小遣いから、50円カンパしました。

と、これだけ書くと、いやあ、凄いなあ、となるのだが、最初は「五円でいいらあ？」等とぬかしおって……。(;)

「あのなあ……」とついつい一言、言ってしまいました。(笑)

ゆーたよスマン！～自己嫌悪～ -1999/04/27(火) Vol.76-

洗濯も終わり、ほっと一息。ここ二、三日、とても気持ちの良い日が続いている。

「クレヨンしんちゃん」を見に行った時も、汗ばむほどの陽気。

さあ～っと心地よい風が吹いてきたとき、ゆーたと二人、

「ああ、気持ちいい風だねえ～」

と口にしていた。「気持ちの良いものを気持ちが良い」ととらえるゆーたが嬉しかった……。

洗濯物を干すとき、穏やかな陽の光の中に、ヒンヤリとした心地よさを感じながらも、やはり隣近所に目をチラッとやる自分が、何とも言えず滑稽でもある……。(笑)

今朝もまた寝過ごしてしまった。

ゆーたが起こしに来たのが、7時10分前。しまったぁ！ と思ったが遅かった。その時ゆーたは、「もう時間だから、ご飯は下で食べな、っておばあちゃんが言ってる」と言った。

寝ぼけた頭で僕は、

「朝は二階で食べないとダメだ、っていつも言ってるでしょ？全くだ、じゃあ、そうしたら!？」そう言ってしまった。

僕がカチンと来ていたのは、オフクロに対してであり、ゆーたは何も悪くはないのだった。悪いのは、朝、起きられなかった僕自身だったのに。

ゆーたは

「すぐ、そーゆー言い方をするう」

と半べそをかき始めた……。う～ん自己嫌悪、自己嫌悪！！

「ウン、時間がないから、下で食べておいで！」そう言い直してゆーたを下にやった。

再び二階に上がってきて、ランドセルを持っていくとき、

「さっきはゴメンね。パパの言い方が悪かった！ 今日、昨日言ってたように、二人で目玉焼き作りたかったんだヨ」と。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '.:*:.. .:*.・'° 。.:*:...*::

僕はオフクロを未だに避けているところがある。

過保護、過干渉……。

中学、高校の頃、そんなオフクロをホントに嫌がり、遠ざけていた。

オフクロの生きてきた時代を考えれば、夫や子どものために尽くすことが母親のつとめである、ということに何の疑問も持たず、また、それが美德とされてきたわけで、息子の面倒を見る、ということは、誉められこそすれ、嫌われ、疎んじられることではないのだった。

朝飯にしてもそうだ。

洗濯にしてもそうだ。

大変だろうから、という理由で、取って代わろうとする。

自分のことは自分でしたいんだ、ということがわかってもらえない。

洗濯にしても、オフクロは女房がそう言うから、おさむは仕方なくやっている。悪いのは嫁で、おさむが可哀想だ……。

という思考回路なのだ……。

この辺りは、いくら言ってもわからないのだ。理解できないのだ。

そんなオフクロが、可哀想に思えるときがある……。

【バス停、誰もおらず！】

女房も帰ってきて、一気にうるさくなった感じもしないではないが、やはり落ち着くものだ。さて、今日は、日曜日に予習（笑）をした、校外学習の日。

7時50分のバスに乗るために45分に家を出た。一応、バス停まで一緒に行くことにした。

女房も、「クラスの友だちが一緒だから教えてもらいなよ」と送り出した。

で、バス停に着くと、一緒に乗るはずのクラスの子どもの姿が、全然ない！

「もう一本、早いバスだったのか！」と心配になっていたら、バス停の前の家の同級生のおじいちゃんが、

「36分のバスが40分過ぎに来たモンだから、五～六人の子が、乗っていったよ」と……。

ゆーたの顔から、血の気が失せていったような気がする。

勿論、僕も……。

「ええ～、一人で行くのぉ～？一緒に行ってよ～！」

一瞬悩んだ！そのまま乗っていった方が良いのか……？

「5年生にもなって……」という一般論ではない。ゆーたの集中力、絶えず誰かの力を借りてきた生活……、そうしたことを考えると、わけがわからなくなることは充分に予想できた……。

「大丈夫！ 大丈夫！ この前パパと行ったでしょ？ あれをちゃんと思い出せばいいから！」

ゆーたは心配そうな顔をしながら、バスに乗った……。

おい、僕の方がもっと心配なんだぞ……。

家に戻り、女房に話をした。

女房も今日は、宿泊訓練の代休ということで、家にいる。

とりあえず、学校に連絡をいれておいた。

ま、何かあったら、探せばいいことだ。

……今、9時10分。

無事にたどり着いていれば、浜松駅でのチェックを終え、電車に乗る頃だ。

学校からは特に何の連絡もない……。

果たして、無事たどり着いたのだろうか……？

To Be Continued !!

女房殿、代休の今日は家にいるかと思いきや、静岡に出張だそうで。

明日の休みは、部活の練習試合だそうで……。インターハイ予選が5月8日。

GWは何をするの？そんな話題があちこちで聞かれるが、とりあえず僕の予定は「何もなし」（-;-）

無事帰還！ -1999/04/29(木) Vol.78-

【元気な声で】

昼頃、突然携帯が鳴った。一瞬ドキとしたが、それはISDNを引いたけれど、設定がわからないから来て欲しい、という連絡だった。

そこのお宅に行ったのが、2時過ぎ。ゆーたの帰宅予定は3時過ぎ。

途中、出張中の女房からも、ちゃんと帰ってきたかどうか、連絡があった。

慌てて設定を終えて、家に帰ったのが3時半頃。しばらくして、玄関で音がした。

「ただあい、まっ！」

元気な声だ。

いつもは二階に上がってくるまで待っているのだったが、朝の事が気になって下に降りていった。

手にはヤドカリを入れたペットボトル。

汗ばんだ顔は少し日に焼けていた。

「ウン、面白かったよぉ～！」一気にしゃべり始めた。

「オイ、バスはどうだった？」

「ウン、途中でしゅんちゃん達が乗ってきたから、良かったよぉ。駅に着いたとき、先に行っちゃった人達が先生に怒られたんだよ」

やっぱり50分のバスで良かったのだ。

一番心配したのは、「先に行ってしまう、置いてきぼりにされた」ことに対して、ゆーたがその子達に対し、色々と言句を言ったりすることだった……。

「もぉ、ホントひどいんだからぁっ！」

ひとしきり話をしたゆーたは、突然そう言い出した。ドキとした。

「だって、みんなのお弁当のおかず、すんごくいいんだよぉ～！ りょうじ君なんて、チキンを四本も持ってきてたんだよぉ～」

なんだ、そんなことか、と笑ってはいけない。(^^)

ゆーたにしてみれば、他の友だちのお弁当は、とても豪勢に見えるに違いない。

それだけ、女房のつくる弁当は「貧弱」なのだ！

なら、アンタがつくんなよ、という返事がくるのが見えているから、面と向かっては言わない。ここに書くだけ……。

:.:.:'° 。 .:.*:.'° ° '°:*.:. .:.*:.'° 。 .:.*:..*:

夜、担任の先生から電話があった。朝、学校に電話を入れたことの確認だった。

先生からの話でも、海に入ったりして、とっても楽しそうだった、と。

ホント良かったと思う。

朝のバスに乗るときの、今にも泣き出しそうな不安げな顔と、帰ってきたときの顔……。

ほんのちょっとだけれど、ゆーたには自信が芽生えたのかもしれないね、と女房と二人で話していた。

ゆーたはバスが好きになったみたいだ。町へ行行って、オモチャ見に行くか？と声をかけると、「ウン、行く、行く！」と。

「バスで行くか？」

「ウン、そっちの方が良い！」

ちゅうことで、今日も、二人してバスに揺られ、またまた、町まで行って来ました。

お昼はケンタッキーでした……。

明日はPTA新旧役員の懇親会です。

会費はぬわんと、「6,000円」もするのです。びっくり！

女房に「オイ、こんなにするぞお……。やっぱ、やめよっか……」と、聞くと「そんなモンだよっ」
だって……。(;)

ためしてガッテン -1999/04/30(金) Vol.79-

「目玉焼き」を電子レンジで作る方法を、「ためしてガッテン」でやっていた。

その日も確か女房の帰りが遅く、ゆーたと二人で見ている。

以前、番組が電子レンジで目玉焼きを作る方法を紹介し、それが100% 確実ではない、ということから、
色々な角度から検証していたのだった。

W数による違い。容器による違い。機種による違い……。

「へえ～」「ほお～」「わあ～」

なんて声を上げながら見ている。

：*：*’。：*：*’。’。’。*：*。：*：*’。：*：*：*：*：

今日、ゆーたは学校を休んだ。

朝、頭が痛い、ということで、布団にしばらく潜り込んでいた。

別に熱があるわけでもなく、少し鼻声かな、と言う程度。

しかし、じゃあ学校へ、と起き出すと、

「う～ん、どうも頭が痛いなあ……」と。

28日の校外学習。そして昨日も僕と二人で町へ……。

疲れが抜けてないのだろうなあ、と。

昨日は、町から帰ってきた後、昼寝をしよう、ということになった。

女房は部活の試合。おばあちゃんもお見舞いに出かけて、僕と二人で寝た。

僕の方はさっさと寝てしまい、気がついたときには、ゆーたは下で独りで遊んでいた。

ほとんど寝なかつたらしい。「パパと一緒にだと寝られない！」んだそうだ……。 (;)

で、今日の夕方。

「おい、ためしてガッテン、しよっか？」と声をかけた。

「ウン、やろ、やろ！」

卵を割ったのだが、やはり最後はうまくできなかった。でも水をはかって入れたり、レンジをセットした
り……。

1分40秒……。

無事、破裂することもなく、目玉焼きが完成した。

ゆーたの晩ご飯のおかずが、一品増えた。

何やらかび臭い臭いがするんです。

年末の大掃除の時に、詰まりを直してきれいにしたのですが……。

どなたか、パイプの詰まり、臭い消しに良く効くクリーナー等、知りませんか？これはいい、って
のがあったら、教えて下さい。

1999年5月

もう、うるさいったら ~ -1999/05/04(火) Vol.80-

ホント女房は、独り言が多くてうるさい。
ゆーたはゆーたで、よく鼻歌を歌っている。
そんな二人が、側にいる。
しかも女房はノートパソコンで、保健体育協会だかなんだかの仕事をやっている。
ゆーたは、おじいちゃんから突然もらった、大きなプラモデルを、せっせと作っている。
自ずと二人とも、僕に対して「ねえ、ねえ、ちょっとちょっとお～」となる。

女房は、元来こうした実務能力には乏しいし、また、そうした経験も少ない。そこへもってきて、この仕事は、学校長が引き受けてきた仕事ということで、ブツブツ文句を言いながら.....。
パソコンの操作のことから、文言のことまで.....。直ぐ横でやっているから、たまらんわあ、と。

ゆーたは、「ねえ、K - 一二のパーツがないんだあ、パパあ～！」と。そんなの自分で探せよなあ。ったくう～ (--;)

色々と文章をまとめたりしたいと思っているのだが、とてもそんな環境にはない.....。ちゅうことで、「ぼちぼち.....」を書き綴っている。

「いいのかなあ、こんなんでも.....」
「ちゃんとやろうとするから、いかなのかなあ.....」
「あ、いいんだ、いいんだ！」
「面倒くさいで、前年度と同じでいいんだよねえ」
「バックアップって、BUCK だっけ？」

それって、僕に聞いているの？よしこさん？ って言ってる側から「パパあ、へるぷみー」とゆーたが.....。(._.)

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:'. .*:.'° 。.:*...*:

女房の部活のインターハイ予選が、8日の土曜日。昨日まで部活の練習。
今日は、学校の仕事。おまけに雨.....。
本当なら僕は小学校の校外指導部の仕事で、凧揚げ祭りに行く予定だったがそれも中止.....。
かくして今年もGWは終わって行くのであった.....。

PTAの懇親会、行ってきました。僕がパソコンを教えているということが話題になったのか、先生の一人が「ISDNがうまく繋がらないんだけどあ.....」と。
早速二日に行ってきた。その日のお礼は、タマネギ一袋だった。(笑)

ピュリッツァー賞写真展 -1999/05/07(金) Vol.81-

写真の語るもの.....
昨日、静岡で行われている、「ピュリッツァー賞写真展」に行ってきました。
始まった直後から、行きたいなあ、と女房と話をしていました。
女房は先月、静岡へ出張のついでに見に行き、記念の写真集も併せて買ってきました。
GW中は、3時間待ち、等というニュースもやっていました。会期は今日、7日まで。最終日だと余計

に混むかな、そんな思いで行って来ました。

会場の入り口で待たされること30分ほど。やっと、中に入ったらもう、滅茶苦茶な人。「写真は順番ではありませんから、空いているところからどうぞ～」という会場整理のお姉さんの声が空しかった。

もう、ここまで混んでいるのなら、と、ゆっくりゆっくり見て回った。
一枚一枚、写真を見、説明を読み……。2時間以上かかりました。
さすがに最後の方は、疲れてしまって……。

一枚の写真は、ただそれだけで、ホントに多くのことを語りかけてくれていました。

思わず目を背けたくなるような写真も……。
……僕などは、こうして文章を書いたり、やたらめったら、喋ったりして……。

写真のような人間になりたいなあ、そんな思いが頭をかすめました。

GWが終わり、ようやく我が家に静寂が戻って来ました。
今日は、PTAの運営委員会です。楽しみで～す！
PTAについて、意見をもらいました。ありがとうございます。

はちみつしぼり -1999/05/010(月) Vol.82-

昨日は、女房とゆーたと三人で近くの養蜂場の「はちみつしぼり体験」なるものに行って来ました。以前から、女房は蜂蜜しぼりをやってみたい、と問い合わせなどをしていたのですが、たまたま、近くで体験ができるということを新聞か何かで見て、んだば！ ということになったのでした。

ゆーたは、すずめ蜂が好きです。
他にも蜘蛛とか(しかも毒蜘蛛……)に興味を持っています。
よくおじいちゃんやおばあちゃんと裏にある小さな畑で、虫を探してます。
最近、蟻を捕まえてきては、瓶の中に入れ飼っていたりします。
以前と違うことと言えば、前は、捕まえたら捕まえっぱなしで、世話はおじいちゃん達にやらせてました。でも、最近、ハエだとの蚊だのを捕まえては餌をやってます。

う～ん、進歩お～！

で、はちみつしぼりです。

宇宙防護服みたいなのかぶるんですね。
そして蜂の巣箱をあけると、うわぁ～っと、蜂が出てくる。
そんな中で、「これが女王蜂」「これがローヤルゼリー」なんて見せてもらいました。 図鑑で見ると目の前でウジャウジャしてるのを見るのとでは大違い！

ゆーたなんかは、巣箱の前に座り込んでみてました。

しばらく蜂の様子を見た後、いよいよ蜂蜜しぼり～！
と思いきや、なんのこたぁない、遠心分離器みたいなのに、巣箱を入れ、ガラガラガラガラってやるだけ

です。

でも、それですっかり巣箱の蜜は下に落ち、とろ～んとした蜜が出てきます。
しぼりたての蜜.....砂糖っぽくなくて、おいしかったですね～。

ゆーたは、ミツバチよりもスズメバチや襲ってくる蜘蛛の話をしきりと聞いてました。好きなんだなあ～。

実際、昆虫の事はよく知ってます。

ぱっと見て、これは何々～、って具合に。

夏になるとスズメバチがやってくるそうです。
んじゃ、それを捕まえるところを見に来よう～、ってことになりました。

日差しが強く、防護服を着ていると、暑さがたまらなくなり、お昼前にはゆーたはもう、ぐったり.....。
昼は近くの神社でおにぎりをほおばりました。
女房もインターハイが終わってホッとしたらしく、木陰に座りながら食べたおにぎりは、格別でした。

う～ん、いい休日でした。

ゆーたに「今日はどうだった？ 楽しかったねえ～」と聞くと、「ううん！ 全然！」だって！
かわいげのないヤツだ.....！（--;）

さっきゆーたが帰ってきました。でも、久しぶりの学校で、疲れたらしく眠ってしまいました。宿題は.....う～ん、結構あるぞお！（笑）

生徒憲章 -1999/05/11(火) Vol.83-

人権の章

人間だから
わたしの生命（いのち）も心もたった一つ
かけがえのないひとりとして
大切にされる
あなたも人間だから
わたしはあなたを大切にする

自主の章

人間だから
わたしはわたしの意志をもつ
自ら創りあげる喜び
やりとげる責任とともに
ひとりの人間だから
わたしもあなたも自分で立てる

民主の章

人間だから
わたしはあなたと違う

たがいを認め、そして話しあう
違う人間だけれど平等であるために
だれもが人間だから
わたしとあなたは支えあえる

希望の章
人間だから
わたしはわたしを高めていける
真実を求め
豊かな心を育てる
わたしたちは人間だから
夢に向かってともに歩く

北海道士幌町中央中学校 生徒憲章

～朝日新聞 5/10の記事より～

朝日新聞が学級崩壊についてずっととりあげていました。
昨日は、北海道士幌町中央中学校ことが大きく取り上げられていました。
う～ん、捨てたモンじゃないなあ、って嬉しくなりました。

誰かの意見を聞きたくて -1999/05/13(木) Vol.84-

こんなメールいただきました。
さて、今日のメールマガジンは何を……なんて考えているとき、届きました。
ゆーたと似ているところがあるのかな、と思いつつも、とりあえず同じようなことで悩まれた方(悩んで
いる方)もおられるのでは、と思いました。

=====

初めまして。いつも楽しく「ぼちぼちいこっ！」拝見しております。

実はどうしたら良いのか分からなくなって、とにかく誰かの意見を聞きたいと思い、是非聞いていただき
たくメールさせていただきました。宜しくお願い致します。

家には小学校二年の息子がおります。

息子は一年の時明るく、元気にはきはきと素直で何でも率先してやれる。とまるで絵にかいたような学校
にとっては申し分のない子供でした。(もちろん、家ではわがままもいいますし、いたって普通の子供です
が……)

ところが、2年生になって、今日初めて布団にはいるなり「あのね……」といいながら泣き始め、この頃
皆にいじめられてると言いましたのです。

四月になってからA君に校庭で引きずりまわされた。遠足の時何人もの子に木の枝でやっけられて傷をし
た。今日は五人の子に体に乗られて泣かされた。など……

子供の事を何もかもそのまま鵜呑みにする事は出来ませんが正直驚いたと同時に、いじめているという子
供の名前がいつも誰より仲良くしているこどもの友達ばかりだった事にただびっくりして、我が子が少し大

袈裟に言っているんじゃなどと考えたりもして.....

誰にも「先生にも絶対言わないで」という息子を見ながら、とにかく今日私にだけでもこうやって話してくれた事に感謝し、何でも話してごらんと言いました。

同じ話の繰り返しの中で、息子が初めて人からの疎外感を感じた経験が特別に自分には感じられたのかなとか、少しの暴力がいじめに感じたのかなあ等と思える部分もあり本当のところは分からずでした。

ただ、こういうとき親としてどういう態度や意見がいいのか？

自信のないままに手探りのままに対応しているわけで.....

なにかご意見をお聞かせ頂ければ本当にありがたく思います。

=====
とのことです。

責任感 -1999/05/19(水) Vol.854-

今年、ゆーたは「福祉委員会」という係りになった。

話の内容から、空き缶のリサイクルや、朝の挨拶運動なんかをするみたいだ。

で、先週のこと。

朝の挨拶運動の当番になっていたとき、ゆーたは遅れていった。

これは本人が自分の仕事や当番であるということを知らずにいた。

毎朝恒例の集団登校で学校に行ったゆーたは、他の子から「今日は、当番なのに！」と責められたみたいだった。「役立たず」とも言われたみたいだ。

そのことが本人をとっても傷つけたらしく、学校に行ってもしばらくは、泣いたりして保健室に行っていたという。

「役立たず」という言葉をぶつけられ、本人はショックだっただろうなあ、と思いつつ、ゆーたは確かに「役立たず」だと言われても仕方がないと思うところが、たくさんある。

四年生までゆーたは先生達や、友だちのフォローによって、学校生活を送ってこられた。逆に言えば、自分で考え、行動しなくても誰かに言われるままに、ゆーたは動いてきた、ということだ。

その話を聞いたとき、ゆーたにこう言った。

「ゆーた、お前は今まで、誰かに世話や面倒をみてもらってきたでしょ？ でも、5年生にもなれば、ゆーたより下の学年の子らの面倒を見てやらないといけない年齢になってきたんだよ」と。

「自分の係りの仕事とかを責任もってやらないといけないんだよ」とも。

僕は初めてゆーたに「責任」という言葉を使った。それまでは「責任」ということでゆーたに話をしたことは、まずなかった。

しかし、小学校5年生一般が求められる役割とゆーたの実生活、実体験はとても距離がある。だから、一概に「5年生になったから」という言い方は適切ではないとも思っている。

ゆーたの今年のおっきなテーマは「責任」かなあ、と。

それをゆーたが身につけるためには、今まで以上に学校と連絡を取りながら、ゆーたが責任を果たせるようなフォローをしてあげないといけない、そんなことを考えている。

同時に今まで以上に自我が育っているゆーたや周りの子ども達。

ますますフォローの仕方が難しくなっているのを感じる。

「息子へのいじめ？」に対するメールありがとうございます。
これらのご意見につきましても、また、HP上にまとめたいと思います。

ゆーた君がいると負けるから -1999/05/20(木) Vol.86-

今日、ゆーたは学校を休んだ。いや、休ませた。

昨日は帰ってきてから、ひとしきりゆーたを怒った。これは、「何時になったら宿題をやる」と言っておきながら、それをすっぽかし、更に色々と言いつけたり.....。

「クラスの子だって言い訳してる」

「クラスの子のことを言ってるんじゃない。ゆーたにずるい人間になって欲しくない。それだけなんだ」と。
あーいえばこういう。

結局、ばつが悪いのか、女房が帰って来た九時過ぎまで、ゆーたは二階に上がってこなかった。
で、話はそれから始まった。

「ゆーただって、学校で色々イヤなことがあるんだから～」

涙をいっぱい浮かべながら、女房にすがりついていく。

話はこうだ。

30日の日曜日は小学校の運動会。

年度当初、校長が「秋にはこの学区の大きな触れあい運動会があるので、春の校内運動会は競技敵色彩が強いものにしたい」と言った。

イヤな予感がしていた。

で、昨日、クラス全員が出るリレーの順番を決めていたときのこと。

同じグループの子ども達から

「ゆーた君がいると負ける」

「ゆーた君はぐずだから」

「ゆーた君は邪魔」

そんなことを言われたというのだ。

ゆーたが口にした言葉そのままなので、昨日言われたことか、最近言われたことかはっきりはしないが、大方予想はつく。

「明日は学校休む」

半べそをかきながらそういつている声が、寝室から聞こえてきた。

その時、僕はクラスの担任に電話を入れた。大体の状況を話した。

今朝、学校に再度連絡をした。今日休ませるということを。

その時、再度こちらの意向を伝えた。

「ゆーたの力が勝負を大きく左右するような競技なら、それは辞退させて欲しい。ゆーたの身体的なハンディを、きっちりとクラスの生徒にも伝えて欲しい。

勝つことにこだわるならば、ゆーたがいれば負けることは目に見えている。勝ち負けよりもクラスみんなで頑張ることが大切、ということならゆーたが参加できる余地はあると思う」と。

女房も僕もいろいろなハンディを持った生徒の担任をしたことがある。

「勝つ」ことの意味も勿論ある。

そのことによって、その生徒が大きく成長できることもある。これは十分承知している。

女房が出かけ、学校に電話した後、ゆーたにこう言った。

「今、先生に連絡したら、先生も『勝ち負けよりもみんなで頑張れる事が大事だと思う。今日、クラスのみんなに訴えるよ』って言ってたよ」と。

ゆーたは嬉しそうな顔をした。

「これから先、ゆーたはいろんな事にぶつかっていく。イヤなこともたくさんある。でも、ゆーたはそうしたことに自分で立ち向かっていかないといけないんだ。

悪いことは悪い、いけないことはいけない、って怒ることはあっても、パパもママもどんな時でもゆーたの味方だからね。それだけは忘れないで欲しい」と。

ゆーたは、下のおじいちゃん、おばあちゃんの所に行った。

今日一日は、ゲームもビデオもだめ！ と言ってあるので、長い一日になりそうだが……。

「無理しないで下さい」と言う、僕の言葉を学校はどう受け止めるんだろうか？ そんなことがふと頭をよぎった。

わかってしまうのだ。その時のクラス子ども達との力関係。クラスの雰囲気。担任と生徒との関係。担任や学校の力量……。それをきちんと見定めないと、無理をするとかえって子ども達の心にしこりを残すことも。そして子どもがますます傷ついていくことも……。

勝ち負けよりもみんなで走ろう！ -1999/05/21(金) Vol.87-

先生へ

昨日は本当にありがとうございました。

あれからゆーたはとってもすっきりした感じです。

昨日の朝も、

「ゆーたはこれから色んなトラブルにあうけれど、自分で向かっていかないといけないんだよ。悪いことは悪い、いけないことはいけない、って言うけれど、パパやママはどんなときでもゆーたの味方だよ」と言ったところ、少し元気になりました。

でも、先生が来てくれて、クラスのことを話してくれた後、本当にすっきりしたようです。あの子なりに五年生になって、頑張ろう、という気持ちを持ってきているんだと思います。逆に、「やらなくてはいけない」という意識があるだけに余計、それに対する周りの評価や言葉に、必要以上に敏感になっているところがあると思います。

まだまだ、何かイヤなことや辛いことがあると、以前の話を持ち出して気持ちが萎えてしまうことも多いかと思いますが、少しずつハードルを越えていって欲しいと思います。

「越えなければならぬハードル」と今、あの子の力で「越えられるハードル」では、随分と高さの違いを感じます。

親として、どうしても焦ってしまうときもありますが、「ハードルの高さ」を見誤らないようにしたいと思います。そして少しずつ、自分の限界を高めていって欲しいと思います。

色々あると思いますが、よろしくお願いします。

父

：*：*！° 。：*：*！° ° '：*：*。：*：*！° 。：*：*：*：*

昨日の夕方、先生が家に来てくれた。

「1時間目に、みんなで話をしました。勝ち負けよりもゆーた君と一緒にやる方が良い、ということになりました。」と。それを聞いて、ゆーたはとっても嬉しそうな顔をしました。

先生が帰った後、ゆーたはメチャクチャ元気になりました。

ホント、重たい気持ちになっていたんでしょう。

女房が帰ってきた後、話をしました。

女房曰く

「うーん、ホントゆーたは宝物だねえ。みんなに色々な事を考える場を与えてくれるんだもの。」と。

「人は他人の不幸には同情することができる。しかし、他人の幸福を素直に喜べないときがある。むしろ、他人の不幸を願うことすらある」

芥川龍之介の「鼻」に出てきた言葉だったろうか？

ゆーたの場合は、はっきりとした原因がわかっている。

だから、原因をきちんと話せば理解はしてもらえることが多い。

原因がはっきりしていないとか、曖昧だとか、わかっていなかったりする子どもの場合は、もっと難しいことだと思う。

僕たち大人にしたって、自分と異なる者への違和感は簡単にぬぐい去ることはできない。理解することも難しい。まして子ども達にしてみたら、もっと難しいことだろう。

……いや、待てよ。子ども達だからこそ、大人ができないことでもできるのかもしれない。

そんなことを考えてしまった

去年の持久走大会の光景を思い出しました。

既に走り終えた友だちが、ゆーたを励まししながら、一緒に走ってくれたことを。

バトンをわざと投げ捨てる -1999/05/26(水) Vol.88-

昨日の夕方5時半過ぎ、担任の先生がやってきた。

「ゆーた君の事で報告したいことが…」

丁度、女房も帰ってきており、まさに食事をしようとした時だった。

急いで食卓を片づけ、先生にあがってもらった。

先生の話はこうだった。

「昨日、全員リレーの時に、ゆーた君はバトンを受け取ろうとせず、その場にしゃがみ込んでしまった。そして、やっと手にしたバトンを放り投げてしまった……。その後も、教室には行かず保健室で休んでいた」と。

おじいちゃんたちと食事を終えたゆーたが二階に上がってきた。

「どうして先生が来てるかわかってるんでしょ？」

……

ゆーたの言い分はこうだった。

「どうせ、みんなは邪魔だと思っているに違いない。一生懸命走っても、そう言われることはわかりきっている。だから最初から、走らなかった」

「この前、クラスの子に『ゆーた君がいるから負ける』と言われたから、学校を休んだんでしょ？ それから先生がクラスで話してくれたんでしょ？ その後も、そんなことを言われたの？ 一生懸命やっても言われたの？」

いくら言っても、「そう言われることがわかりきっている！」の一点張り。

涙を流しながら、時々、支離滅裂なことを言ったり……。かなりの興奮状態になった。これ以上話にならないと思い、先生には帰ってもらった。

時間は7時近かった。

「やろうともしないで、何だ！」

「ゆーたの考え方は何だ！」

女房が怒った。

食事の後も、二人でずっと話をしていた。

しばらく下に逃げていたゆーたが再び二階に上がってきた。

「もう、ゆーたのことは知らない！ 一緒に寝ない！」

女房はそう突き放した。

「じゃあ、ゆーたも寝ない！」

ゆーたは怒りだした。

……………

時々、僕が寝室に行き様子を見ている内に、ついにゆーたが女房のところに来て、再び、色々と言いつつ出た。しかし、トーンは下がっていた。

「ゆーたは、どうしたいの？」女房が聞いた。

結局、ゆーたが言いたいことは、

「自分のこの気持ち(負けたら責められるのではないかと不安)をみんなに伝えたい」というのだった。パトンを放り出したのも、走って色々言われるに決まっているんだから、どっちにしる嫌われるのはわかっているんだから、そうしたんだ、と。

女房は自分の気持ちをみんなに訴えたい、というゆーたの気持ちがとても嬉しかった、と。

「最初は私に自分の気持ちを聞いてもらいたい、って思ったのよね。そうじゃないのよ。あの子は、みんなに言いたいよ。」と。

「そう思わない？」と女房に聞かれたが、僕は、それ以上に、ゆーたがキチンと自分の気持ちを訴えられるかどうか、そちらの方が、心配だった。

ゆーたは人の顔色、反応を鋭く捉えることができる。

そして、ものの見事に相手の嫌がる言葉を浴びせてくる。

言葉の揚げ足取りもうまい。やりあっていても、時には、こちらが言葉に詰まることさえある……。

ちゃんと伝えられるだろうか？ そればかりが気になった。

「そこをちゃんとフォローするのが、担任でしょ？」

女房は言いきった。

僕にしる女房にしる、この手のトラブルはイヤと言うほど経験している。

トラブルは次のステップに進むチャンス！

僕などもそう思ってきた。

しかし、次のステップに進むどころか、かえって傷口を広げてしまうこともあるのだから……。

今朝、ゆーたと女房は一悶着起こしたが、元気に「行ってきます」と出かけていった。僕は今、これを書きながら久しぶりに、いつでも学校に出かけられるようにしている。

ゆーたには、わかっていたのだろう。

先週、先生が来てクラスのみんなで話した、とは言っても、本心からそう思っていない子もたくさんいることを。

そうだと思う。そんなに簡単にはいかないのだ……。

女房はしきりに言う。

「全員競争なんて、最近の学校体育の方向とは全く逆行してるじゃない！ 一体、何を考えてるのよ！ 今度のPTAの役員会で言ってきたよ！」と。

ゆーたに対して、僕も「お前の好きなようにすればいい！」と口にする事があるが、そうしたときのヤツの返事は「パパは直ぐそう言う！」だ。

今回、女房が突き放す事をしたときのゆーたの慌てよう……。

僕ではダメなのだ。やはり女房なのだ。

「いくら俺が言ってもダメだから、今度は佳子の方から一度、ガツンとゆーたに言ってよ！」

我が家ではこんな言葉が交わされている……。 (…)

:*:~!° 。.:*:~!° ° !~*:~.。.:*:~!° 。.:*:~!~*:

先生へ

昨日は本当にありがとうございました。

今朝の様子です。

やはりかなり不安があるようです。

「どうせ言ってもわかってもらえない……」と何度か口にしています。

ゆーたなりに緊張しているんだと思います。

「わかってもらいたいから、ゆーたに色々と言うんだぞ。わかってもらえないって思ってるんだったら、言うべきじゃない」と答えたりしています。

昨夜女房が電話で伝えたように、みんなに自分の気持ちをわかってもらいたい、という思いは強いようです。

この間休んだとき、先生が来ていただき、「みんなで一緒に走ろう」とおっしゃって下さっても、実際に自分自身で確認したい、という思いだと思います。

ゆーたの足が遅かったり、運動が苦手なのは、生まれてからの病気のせい。

自分が加わると、このクラスは負けてしまうだろう。

それでも本当に、本当にいいの？

本当に負けてしまうかもしれないけれどいいの？

そんなことを言いたい、と。

昨日もバトンをわざと放ったりしたけれど、みんなに「ぐず」とか、「いない方がいい」と言われるのが怖かったからだと思います。

しきりに他のゲームの話をして、気を紛らわそうとしています。

- ・ゆーたの話、是非、フォローお願いします。
- ・様子を見て、学校に行った方が良ければ、連絡下さい。
携帯 *****
- ・体育の総練習が終わった後、疲れているようでしたら、早退させて下さい。
(どうも体調も悪いようです)

鈴木 修・佳子

さて、今日、どんな様子でゆーたは帰ってくるだろうか...?
やはり、こうしたことがあると、全ての思考が止まってしまう。
学校から何か連絡がないか、とただ待っているだけってのはイヤだ.....。

運動会終了！ -1999/05/31(木) Vol.89-

26日(水)

「ぼちぼちいこっ！」を配信し終わると直ぐに、学校から電話があった。
「1、2時間目の学年練習はやったんですが、途中から疲れてしまって、今保健室で休んでますので.....」
直ぐに学校に行き、総練習が終わった後に、早退させて家に戻ってきた。
朝、みんなの前で、「僕が走らない方が良くと思う」とゆーたは言ったそうだ。7～8人のクラスの子が、
「それでも良いから、一緒に走ろう」と言ってくれたと。

27日(木)

ゆーたは、とてもすっきりした感じがする。元気になった。
自分でみんなの言葉を確認できたことがよかったのだろう....。

29日(土)

「コースから外れたら殺す」と、全然関係のないクラスの子(去年一緒のクラスの子)に言われた、と。
夕方、「もう、明日はイヤだ！」と泣き出す。
その子の親に電話を入れる。
併せて担任の先生にも連絡を入れる。
「君とは、運動会が終わったら、きちんと話をすればいい。今は、クラスのみんなや担任の先生の誠意に応えることを考えよう」と。

30日(日)

運動会。朝、担任の先生が、その子とゆーたを呼んで話をしてくれた。
「運動会が終わってからで結構です」と言っておいたのだが...。
結局、それが気持ちを楽しんだのだろう、全種目、係りの仕事、などゆーたなりに一生懸命やっていた。
端から見ればなんだ？と思われても、ゆーたは精一杯やった。

夕方、恒例のケンタッキーで食事。ついでに欲しがっていたミニ四駆のコブラパーツを買ってあげた。

31日(月)

今、近所の友だちが三人遊びに来ている。

学年、クラスは違うけれど、穏やかな子ども達ばかり。安心して見ていられる。

穏やかな日...

この運動会を通して、ゆーたの次の課題がはっきりした。

ゆーたは、自分のハンディを認識している。しかし、「何かしてもらえるのが当たり前」という意識が芽生えている。

みんなにフォローしてもらえないと、なかなかできないだろう。

たとえ、ゆっくりであっても自分に与えられたこと、しなければやらないことは最後まで投げ出さずにやり通すこと。

そうすることによって、他の子ども達から認められていくのだろう。

「のろまだけれど、きちんとやり通す」

みんな、これから先、年齢が上がっていくにつれ、ずるさを覚えたり、手を抜くことを覚えてくる時だからこそ.....

たくさんの励ましのメールありがとうございました。

ゆーたもしんどかったですが、先週は親の僕たちもしんどかったです。

「今は嵐が過ぎ去った後のよう」 -1999/06/01(火) Vol.90-

日曜日の運動会、色々ありがとうございました。

ゆーたはもとより、家族共々無事に終わり、ほっとしています。徒競走とリレーは不十分ではありましたが、最後までやりきる姿に、親として大きく胸をなで下ろすことができました。私達は彼の順番を待っている間、ゆーた以上に、やきもきし、祈る気持ちで一杯でした。

今回の運動会ではゆーたのために、先生方を始め、5年3組の皆さんに本当に感謝しています。見方によれば、ゆーたのわがママが通ったようにも映ります。

ゆーたのために5年3組の皆さんが、譲ってくれたこと、我慢してくれたこと、理解してくれたこと、本当にありがとうございました。今回の運動会が、ゆーただけが良い思いをしたのではなく、5年3組のクラス集団にとって、大きな前進になることを望んでいます。またそうならなければならないと思っています。

運動会直前にゆーたは、自分が抱えている不安や心配、自分の気持ちをみんなにわかってもらいたいという意識の高まりをもてたこと、当日休んでしまおうということだけしか思っていなかったゆーたが、自分の不安を解消して、当日を迎えたこと、運動がみんなと同じように上手にできないというコンプレックスを持っている部分を、大人の声で代弁せず、自分の声でみんなに訴えたこと。

どれをとってもゆーたにとっては大きな飛躍でした。こんな姿を待っていました。ハンディがあるが故、生じる状況に、自分で対応できること。自分の力で立ち向かえること。ずっとゆーたに望んでいました。困難なことにぶつかったとき、まずは自分で挑んでみるが増えると良いと思います。

また、君との件も、お忙しい中、早急な対応をしていただき、まことにありがとうございました。上記のようなことができていれば、君に言われても、言い返すことができるのですが、それにはまだまだ自信が足りません。自分に自信がもてるようになるまでは、まだまだ時間が必要です。

それにしても、学年があがるにつれて、解決しなければならない課題や、問題は、増幅していきますね。

それだけ、人間の精神は複雑になっており、より多くの人との関わりも増えてきているのでしょう。ごまかしがきかない年齢になってきました。大人が真剣に対応して初めて、心に届くということでしょうか。

今は嵐が過ぎ去った後のような気持ちです。

春の運動会、秋のふれあい運動会、持久走大会と年に三回、我が家にとって大きなハードル。今年は一つ越えました。

5月31日 ゆーた 母

「私は、『女房』って言われるのがイヤだし、書かれるのもイヤ。『妻』って書いて欲しいわ！」と抗議を受けました。

本日は、「妻」の学校への手紙です。 背中が痒い.....(^_^)

皆さんは、何とお呼びでしょうか？ 奥様のこと、旦那様のことを...

1999年6月

ズル休み -1999/06/02(水) Vol.91-

今日、ゆーたは学校を休んだ。

朝の六時過ぎから、ゲームを始めて、うまくクリアできないとイライラし、終いには怒り出す始末。

「なんでそんなことで怒るの？」と女房、もとい「妻」。

その内、「パパ！ 起きてきて！」という鋭い声。

ゆーたはますます怒り出す。

「そんなことで怒るならやめろ！」と僕。

「もう、今日は学校やすむ！」とゆーた。

今までも何度か「学校を休む！」という事を口にしてきた。

その度ゆーたの話聞き、対処してきた。

「学校を休む休むと言え、親は何とかしてくれる」という気持ちがゆーたの中に芽生えて来るのも不思議ではない。「そうやって言えば、言うことを聞いてもらえる」という知恵もついている。

先だっの運動会のトラブル。

あの時は、「妻」と話をして、ゆっくり休ませた方が良かったらう、という結論に達した。

僕たちは、何が何でも学校に行かねばならない、という考えは持っていない。

一方、ゆーたにとって他者と関わる、他人との関係を築き上げるためには、家の中では決してできない「教育力」が学校にはある。ゆーたには「学校生活」が必要だと。

確かに学校生活を送るということは、ゆーたに大きなストレスを与えているだろう。周りの子ども達から色々言われていることも、想像できる。

とにかく「怒られた腹いせに『学校』を引き合いに出す」ことは大きな間違いなのだ。

「休めばいいじゃない？」

僕と「妻」は言った。

:*:.'° 。 .:*..'° ° .'*:.. .:*..'° 。 .:*.':*:

ゆーたの逃げ場は下のおばあちゃん。

10年前、浜松に帰ってきて同居を始めたときから、「妻」とおばあちゃんはうまくいっていない。本質的にあわないのだ。

自分の母親ではあっても、僕自身、今現在でも母親を疎んじている。

過保護、過干渉。

そのために僕は中学、高校と母親を避け続けた。

母親として僕をこの世に生み、育ててくれたことには感謝している。これは嘘偽りのない気持ちだ。一方、一人の人間として母親を見た時には、昭和の時代を生きてきた女性としての、「古い考え方」には相容れないものを感じる。

「ゆーたが可哀想」ということが、母親の考え方の出発にある。

だから、何でも手を貸し、何でも言うことを聞いてしまう。

「放っておく」ことが、今のゆーたにはとても必要なのに、それができない。僕たちがいくら、しばらく待とう、と思っても、横からおばあちゃんが手を出してしまうのだ。

このことは何度も僕は母に言ってきた。

しかし、言ってもわからないのだ。

：*：° 。：*：° ° '：*：。：*：° 。：*：*：*：

ゆーたは、確かにハンディを持って生まれてきた。

大人たちにたくさんの愛情をかけてもらって育ってきた。

友だちにも支えられてきた。

ゆーたは自分のハンディを認識している。そして、それは誰のせいでもなくどうしようもないことだということも。

しかし、「何かしてもらって当たり前」という感覚が芽生えていることも事実である。

「人に感謝する」という気持ちが育っていない。

だから、自分を攻撃する友だちは「悪い」という図式が成り立つのだし、思い通りに ならないことが、何とも許せないのだと思う。

「おばあちゃん、おばあちゃん！」という声の下からしている。その度に相手にしているおばあちゃん。つい先ほども「ゆーたは今日はズル休みしてるんだから、いちいち相手をする必要ないんだからね！」と言った。

「おやつは？」

「10時になってからだよ。」「手を洗っておいで」そういったおばあちゃんの声が聞こえる。

たまらなくイライラする.....。

二世帯住宅.....良いところもあるけれど。そう思っています。

京都にて -1999/06/11(金) Vol.92-

最近、書くことがないのではなく、また、書けないのでもない。

むしろ書きたいことがいっぱいあるのだが.....。

今週の月、火、と京都へ行って来た。

まぐまぐの深水さんと会って色々話をするために.....。

せっかく京都に行くのだから、とゆっくりとしてきた。

子育てからの逃避か？という声も聞こえそうだけれど、リフレッシュ！という事で許してもらおう～。つて誰にだぁ？(;)

司馬遼太郎の「竜馬が行く」を読んだのが、高校生の時。
以来、幕末の頃の小説をよく読むようになった。
特に司馬遼太郎の本が多かったが。

最初は坂本龍馬のお墓に行きたいと思っていたのだったが、観光のパンフレットに「寺田屋」があるではないか！「ウン、ここだ！」と早速出かけていった。

ああ、ここに居たんだなあ……。
時間がゆっくり過ぎていった。

まぐまぐの深水さんに会ってきた。
日頃思っていること、メールマガジンのこと、教育のこと、など色々と話ができた。
深水さんの言葉の中で印象的だったこと。

「どうして、みんな人に何とかしてもらおう、って思うんだろうか？ 自分でやろう、自分で楽しもう、つて考えないんだろうか？」と。
以前、ウィークリーまぐまぐに深水さんが書いていた。

「自分たちは何も変わっていないのに、周りの見方が変わっていってしまう」とも。

メールマガジンのパイオニアとしてのまぐまぐ。
巨大化してしまったまぐまぐ。
色々な人が、色々なことを言うてくるのだろうなあ、と。

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .*:.'° 。.:*...*:

ゆーた、最近反抗期のようなです。
毎日毎日、日替わりランチのように、僕たちを喜ばせたり、考え込ませたりしてくれています。
だから、途中まで書きかけて、じゃ、配信、という頃になると、様子が一変している……。そんな毎日です。

そこらあたりは、また、ぼちぼち……。

今度は金曜日から来よう！ -1999/06/14(月) Vol.93-

11日の金曜日朝、ゆーたは女房もとい「妻」に、口答えをしたりして、目一杯怒られた。そしてゆーたのいつものセリフ
「もう、今日は学校行かない！」
「行かなければいいじゃん！」と女房、もとい「妻」(しつこい、つて?)

結局、こうなると手が着けられず、ゆーたは学校を休んだ。
土曜日、日曜日とサクランボ狩りをしに、山梨へ出かける予定を立てていたのだった。金曜日、女房は早く帰ってきた。そして、再びゆーたとガンガンやり始めた。

ゆーたも興奮して、泣き、騒ぎ、怒り……。

僕は横でパソコンに向かっていた。

女房の怒りのボルテージも次第に上がっていった。

(リザードンの「いかり」を連想した。 < わかる人にはわかる！)

最近僕は、ゆーたの気持ちを整理させられるようになってきたと自負している。とにかく一つ一つ、冷静に冷静に解きほぐしていくことだけれど。

一度怒りだしたゆーたの気持ちを、自分に向けさせるかがポイントなのだが、これはとても口では説明できない。その時の状態をみて、「殺し文句」を口にするのだが……。

二人の間に割って入り、とにかく、今朝、悪かったのはゆーただった、とすることをわからせることができた。

「まず、一番の原因を作ったのはゆーただから、そのことに対して、『ごめんなさい』って言えないと、話が進まないでしょ？」

ようやく、ゆーたは女房に「ごめんなさい」を言った。

そして、下に言って、おじいちゃん、おばあちゃんに、

「ママにごめんなさいを言ってきた」と伝えることと、「おじいちゃん、おばあちゃんにもごめんなさいを言うてくる」ということ、この二つをやってきなさい、と言って一件落着！

まあ、エネルギーを使うわあ…。(--;)

:*:~!° 。.:*:~!° ° '~*:~。.:*:~!° 。.:*:~!~*:

実は、土日とさくらんぼ狩りをしに清里に一泊で出かける予定だったのだ。

三年前にも一度、日帰りで清里の「萌木の村」に出かけたことがあり、今度は気合いを入れて、一泊にしたのだったが、「こりゃ、下手すればキャンセルか！」という思いが脳裏をよぎっていた。

でも、なんとか、無事出発。

清水インターでおりて興津から国道52号で、一路山梨へ！

サクランボ狩りは、僕とゆーたは、ま、こんなもんか、と言う感じ。

でも、おいしかった。(^^ゞ

その後、昇仙峡へ行って、ロープウェイに乗り、てっぺんへ！

「うぐいす谷」という見晴らしの良いところで、三人でしばし景色を眺め、その後、宿泊地の清里「炉辺荘」というログハウス風のペンションへ！

ゆーたはそのログハウスが、とっても気に入ったらしい！

「すごい～！リッチい～！」と。

日曜日は、清里のスキー場へ。ちょっとしたハイキングコースになっている。スキーリフトを二つ乗り継いで上へ。更に石段を登って、標高1900mの休憩所まで。

辺りが一望できる。

リフトに乗りながら、そして、頂上の休憩所で、

「きれいだねえ～。気持ちいいねえ～」と。

僕はもっとゆっくりしていきたかったが、ゆーたは下の土産物屋が気になって、「早く降りよう〜！」と
……。 (―)

：*：*’° 。 ..*：*’° ° ’*：*’.. ..*：*’° 。 ..*：*’*’*’

一路浜松へ。
距離にして2日で500キロ。
ゆーた曰く
「今度は金曜日から二日泊まるう！」
「お金がかかるのよ！」
と女房……。 (笑)

ゆーた、最近「反抗期」なのかなあ、と。
逆に新しい自分を捜しているからこそ、イライラするのでは、と。

Happy Birthday U-ta! -1999/06/16(水) Vol.94-

ゆーたが11歳になった。
何の変化もないような毎日の積み重ねの中でも、確実に月日は過ぎていく。
11年前、ゆーたが生まれたことを思い出す。

体育祭を数日後に控えて、生徒達と仮装行列の準備を、連日遅くまでやっていた。
同時に就職担当として、課長と一緒に、時間があれば、アチコチの会社に求人依頼を出かけていた。三
年生の担任だった。

その日は、体育大会の総練習。その時間を使って、会社を回る予定だった。
朝、出がけに女房が、「生まれるときに立ち会えないなんてことになったら、一生恨むからね！」そう言
われて、学校に行った。

お昼頃気になって、家に連絡を入れてみた。破水が始まって、産院にいるとのことだった。何か知らない
が、ドキドキした。
生まれそうになったら連絡をしてもらおうようにして、会社回りを終え、学校に戻った。

：*：*’° 。 ..*：*’° ° ’*：*’.. ..*：*’° 。 ..*：*’*’*’

放課後、視聴覚室で生徒達と体育大会の準備をしていた。
最後の追い込みだから、時間はいくらあっても足りない。
夜の8時頃だったろうか？
電話が入った。
女房のお母さんからだった。

「もうじき生まれそうだから、直ぐに来て下さい」

生徒達にも学年の先生達にも、「出産の時、僕は立ち会うから、どんなことがあっても途中で抜ける」と
言ってあった。

「おお！ 後、頼むぞ〜！ 気をつけて帰れよお！」

「先生、いよいよお？」

生徒達に半ばからかわれながら、学校を後にした。

：*：° 。：*：° ° '：*：。：*：° 。：*：*：

産院につくまでの道、いつも以上に車のスピードは出ていたと思う。

その頃乗っていた車は、トレノ1600GTV(若かった!)、カーステレオから流れてきていたのは、T Mネットワークだった。

産院についた。

ラマーズ法、で出産、と言ってもそれほど僕自身は積極的ではなかったような気がするが、とにかく分娩室に入った。そこには先生と看護婦さんと、ベッドに横になった女房がいた。

「はい、ガンバって~！」

「お父さんは、横にいてっ！」

女房に言わせると僕は、興奮していた、と。

僕はそんな覚えはないのだが.....。

「頭が出てきたよ~!もう少しガンバって！」

.....。

ゆーたは、一声か二声しか泣かなかった。

「もっと赤ちゃんって激しく泣くんじゃないの？」そんなことを思った。

：*：° 。：*：° ° '：*：。：*：° 。：*：*：

「ラグビーボールだ！」

お腹から出てきたばかりのゆーたを見たとき、そう思った。

感激したとか、涙が出た!とかいう手記を読んだりもしたが、僕が思ったのは、「こいつは、一生、こんな頭で生きていくのか!」ということだった。しかも、体中、紫色のような.....。(色については、正確ではない。僕は色弱です)

「お父さん、赤ちゃんの体を洗ってあげてください」

「え、え、え~っ！」

おっかなびっくり、今にも壊れそうな、今、生まれたばかりの我が子を洗った。

そうこうしていくうちに、頭のトンガリが丸みを帯びていった。

「産道を通り安いようになってるんです」看護婦さんに言われた。

目の前のそうした光景を目の当たりにしたとき、初めて、僕は命の誕生を実感した。

Happy Birthday ! U-ta!

実は誕生日どころではないのです。

昨日の学級懇談会。担任の指導方針に対して、ほとんどのお母さんが反発をして、終わり頃には、一種のつるし上げ、みたいな様相。35人のクラスのうち、24人が出席。その内、父親は僕だけ。

昨日の朝も、あるお母さんから、「昨日の懇談会はどう思われました？」と電話がかかってきたり.....。もめますね、これは.....。

参観会の時のゆーたの様子に驚いた。

四年生の時の参観会では、もうハズカシ～って感じでした。

(どこかにその時の日記があったはずなのですが、捜索中！)

とにかく、鼻歌は歌うは、途中でフラフラ歩き出すわ、いきなり関係ないことを話したり……。挙げ句の果てには寝てしまったり……。

その日の授業は、「道徳」。

最初に紙芝居を見た。

最初の内は、あまり可愛いと思えなかった犬が、次第に良いところが見えてきて好きになっていった、というお話。後半はそれをクラスに置き換えて、友だちの「良いところを見つけよう」と言う展開。

驚いたことに、ゆーたは寝なかった！(^_^)

途中、先生が「じゃあ、30分まで時間を使って書いて下さい」と言うと、ぱっと顔をあげて、教室の時計を見るや、配られた紙に向かって書き始めたではないか！

おまけに発表の時は、手を挙げたりして……。

但し、発言したことは多少的はずれではあったが……(笑)

今までなかなか集中できなかったゆーたが、一時間授業に聞き入っている姿は、何とも言えず感動的でしたらあった……。

う～ん、確実の成長してるんだ！と嬉しくなったりもした。

。*:。'° 。.:*:。'° ° '。*:。.:*:。'° 。.:*:。*::

さて、その後の学級懇談会。

35人のクラスのうち、24人が出席！いつもは5～6人しかいないのに。

例のごとく父親は僕だけだったが……。

最初の内は差し障りのない話だったが、途中から空気は一変した。

簡単に言えば、五年生になって子どもがのびやかさがなくなった。先生が直ぐに、しかも小さな事で怒るからではないか？しつかに厳しすぎないか？ ということだ。

「これは私の教育方針ですから」という担任の言葉に、余計反発を感じたのか、更に同調するお母さん達の声が続いた。

最後にはある種のつるし上げみたいな感じにも……。

また、担任の先生の答えも、国会答弁のようでもあり、何とも異様な雰囲気が終わった。

噂が噂を呼んでいく。

学校と家庭がもめる最悪の展開をし始めている。

昨日、その場に参加したお母さんから電話があった。

「昨日の様子を見て、どう思われましたか？」と。

かなり興奮してしゃべりまくっていたお母さんだった。

「良くない展開だと思います。もっと話しあったりしていかなければ」と答えた。

そのお母さんは、その日のうちに、学級委員のお宅と校長のところにも電話を入れたそうだ。

今日は、学級の役員さんと電話で話をした。

「平和の礎(いしじ)」には、また、新たに名前が刻まれたと……。もっともっと、沖縄のことを語らなくてはいけないのでは、と。

最近、楽しそうだねっ -1999/06/27(日) Vol.97-

P T A主催の「親子ふれあいドッチボール大会」に出かけた。
勿論僕は、役員としての下働き……。
親子で参加、ということで、ゆーたは女房と参加。
全部で16チーム。4チーム毎の総当たり、上位1チームが決勝トーナメント。
ゆーたと女房の「うさぎ」チームは全敗で、予選敗退。
僕たちP T Aの運営委員は、各試合を見ながら、「よく逃げたでしょう」とか、「すごいボールだったでしょう」とかたくさん賞を選ぶのが主な仕事だった。

ゆーたは「楽しくやっていたでしょう」をもらった。

もっとも、ゆーたは、5、6年生が投げるようなボールも投げられないし、ただ、逃げ回るだけだったが、それでも楽しそうにキャッキヤとやっていたのがわかった。

それで良いのだと思った。

:.:.:'° 。 .:.:'° ° ' .:.:'° .:.:'° 。 .:.:'° .:.:'°

家に帰り、女房がニヤっとしながら言った。
「パパ、最近楽しそうだねえ～」と。「インターネットでいくら色々な人とつきあいがあっても、やっぱり、直接話をしたりするのはかなわないんだね」と。

大変だ、忙しい、と言いつつも、P T Aをしっかり楽しんでいる自分がいる。
今回のドッチボール大会にも、パソコンでちょっとしたネーム入りのロゴマークをアイロンプリントペーパーに印刷して、何人かの役員の人に作ってあげたりした。それがまた、好評だったりして……。
調子に乗って、更に改良したものを作る羽目になったりして。(^^ゞ

やっぱり、人の笑顔はいいんだな。
そして、子ども達の笑顔は、もっといいんだな、そう思った。

午後、3時間も昼寝をしてしまった。でも、怒られなかった。
僕の姉がやってきた。中学3年生、1年生の従姉も。今、その中学が市内でも一番荒れている、と。話を聞いて、たまげるようなことばかりだった。

「見つけたよ」 -1999/06/28(火) Vol.98-

「ゆーた君のよいところ」
「ぼくが困っているときに、ゆーた君が『どうしたの』と言ってくれた」
(A・T君)

:.:.:'° 。 .:.:'° ° ' .:.:'° .:.:'° 。 .:.:'° .:.:'°

ゆーたのクラスには、「見つけたよ」という箱がある。

友だちのどんな小さな良いところでも、見つけたら書いて、その箱の中に入れるのだ。

この箱は、丁度、この間の授業参観の道徳の授業の話のまとめとして、先生から説明があったのだ。

他にもたくさんの子どもの「良いところ」が学級通信に載っていた。

「友だちの良いところを、どんどん見つけていこう。そうすれば、その子のことをもっと好きになれるかもしれないよ」

そう言った先生の言葉が、心に残っている。

.....この話は、大人たちにこそ、必要なだろうなっ.....。

:*:~'° 。.:*:~'° ° '~*:.. :*:~'° 。.:*~*:~*:

「ゆーたあ、こうやって 君が、書いてくれて嬉しかった？」

「ウン！」

「じゃあ、今日はゆーたも誰かの良いところを見つけておいでよ」

「う~ん.....難しいなあ... (;)」

確かに、ゆーたには難しいかもしれないな、と思いつつ、いつかゆーたが「見つけたよ」の箱に入れられるようになったら、また、ゆーたはちょっと成長するかな、と。

学級懇談会の事も触れられていました。

「.....懇談会では、指導に対するご批判をいただきました。私なりに反省し考える機会を与えてくれたことを、ありがたく受け止め、今後の指導に役立てたいと思いました.....」と。

算数ドリル -1999/06/29(水) Vol.99-

「さあ、宿題やっちゃお！」

ゆーたがひとしきり遊んだりおやつを食べたりした後、そう声をかける。

「ウン？明日の宿題は？何？」

「えっと、算数ドリルと、本読みと書取とお.....」

五年生になって、宿題を忘れてたりすることに対して、厳しく言われるようになったのか、予定帳もしっかり書いてくるようになった。だから、毎日、去年までのように、算数ドリルなどをためてしまうことも少なくなった。

ほとんど、毎日のように、算数をやっている感じだ。

ゆーたが宿題の準備を始める。

最近、算数ドリルを最初に出すようになってきた。

今までは、最後に回していたのに.....。

「おお！最近、算数が好きになったのぉ？」とちょっとからかいながら、僕が言う。

「そーでもないよっ！う~ん、四八%くらいかな？ 四月の頃は5%くらいだったけどぉ.....」とゆーた。

わからないまま、1時間座り続けるのは、ホント苦痛だろうなあ、と。

ゆっくりでもいいから、「わかる」ことが大事だよ！

いいぞ、その調子！

:*:・'° 。.:*:・'° ° '.:*:.. .:*.・'° 。.:*:...*::

テストの点数を気にするようになってきた。

決して点数に左右されているとは思わないが、もう少し、 が欲しい、そんな感じだ。

「明日テストがあるんだね。じゃ、ちょっと教科書読んでおくか？ 教えてやるぞぉ〜」 そう言うと、「ウン、そだね」という返事が返ってくるようになった。

国語で「仮名づかい」という所をやっている。おお、懐かしい〜！ ついつい、色々と説明してしまった。「へえ〜！！」と聞いていたんで、調子に乗ってしまった。(笑)

サッチーも、ヒロスエも君が代も -1999/06/30(水) Vol.100-

朝のワイドショー。

月曜日は、ヒロスエ一色。

また、サッチーの様々な「疑惑」が連日のように特集を組まれて流される。

一方、ニュースでは「君が代・日の丸」の法制化が七月末にも可決の見通しとか....。

う〜む.....。(;-;-)

全部、同じに感じてしまうのだ。

ワイドショーも、ニュースも結局の所、ブラウン管の向こうから、締め忘れた蛇口から水が流れるように、ただ、ただ、流れてくるだけ。そんな感じがする。

「ああ、何かやってるなあ...」と。

時として、テレビの報道にあきれかえったり、腹を立てたりもするが、所詮一時のこと。この感覚、何とかならないだろうか？ 味噌もクソも一緒くたになって、僕の中に入ってくる。

味噌とクソは一緒ではないのに、一緒に感じてしまう僕の感性は、一体どうなっているんだろ.....？

女房は、「新学習指導要領のこと、どうもよくわからないわぁ。もっと勉強しないとついていけない。結局『学力』って何か、ってことなのよね」などと口にするが、もう一つピンと来ない僕。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '.:*:.. .:*.・'° 。.:*:...*::

毎日が過ぎるのが早く感じる。

あれ？いつの間にか今週も後半だ！

「刺激が足りないのかな？」

そう思いつつも、毎日のゆーたを中心とした暮らしに、不満があるわけでもない。むしろ、色々なことをゆーたを通して、発見したり、考えたりしている。それはそれで、またいい。今の自分が嫌いだ、というわけでもない。

でも、もっと刺激が欲しい、のかな？

この先、ゆーたの疑問に、どれだけ答えていけるのだろうか？
どんな疑問にも、真っ直ぐに答えたいなあ、と思ったりもした。

> どんな人達が読んでくれているんだろ...？

昨日の「ぼちぼち...」にそう書いたら、早速何人かの方からメールをいただきました。短い言葉の中にも、ああ、こんなメールマガジンでも楽しみにしてくれている方がいるんだな、とシアワセな気持ちになりました。(^^)

教科書って面白い -1999/07/02(金) Vol.102-

一学期も終わろうとしている。

学期末と言うことで、各教科とも「テスト」が多い。

「おお、明日は　　のテストがあるなあ」

「ウン」

「んじゃ、チョット教科書読んでいくか？」

「ウン」

時としては、朝早く起きてから、教科書を読んでいくこともある。

「んじゃ、予想問題ね～」

等と教科書を読みながら、色々と質問したりする。

読みながらついつい、中身が面白くなって、話がどこかへとんでしまうこともある。

「家庭科」では、家族の役割や働くと言うこと.....。

「理科」では、天気図の見方等々.....。

算数ドリルもそうだ。

いざ、計算となると、途端にわからなくなってしまうけれど、日常生活ではきちんとできるのだ。(時々とんでもない答えを出すこともあるが)

教科書やドリルを「点数を取るための対象」という目で見なくなったとき、これは面白い読み物になっていくような気がした。

本人は、　　がもらいたい、という思いがあるだろうが、僕と一緒に　　をもらいにいったら、きっと面白くなるだろうなあ。

いや、予想問題をつくったりしていけば、かなりのテスト対策にはなるだろうし、それなりにテストの点数もあがるだろう。また、ゆーたも喜ぶことは喜ぶだろう。コンプレックスも少しは払拭されるかもしれないなあ。

そう言う一面はあるだろう。

でも、やっぱこれをやり始めたら、僕も点数でゆーたを追っていくことになるんだろなあ、と思った。

また雨が激しく降ってます。先日の大雨でも多くの人の命が失われました。

被害が最小限度になりますように。そして、人の命が奪われないように.....。

ウチのは教えるのが好きだから -1999/07/05(月) Vol.103-

女房は、職場では「パソコンが使える」という評判みたいだ。

その話を聞かされるたびに、僕は笑ってしまう。(失礼)

こうしたところから、学校教育へのパソコン導入に対する、社会全体の動きと教育現場とのギャップを、メチャクチャ感じてしまうのだが.....。

それはさておき、学校の中でやはり使われるソフトと言ったら、ワープロに次いで、「表計算ソフト」だろうな。何しろ、至るところに処理すべき「数字」が、転がっているのだから。

- ・テストの点数処理(順位、合計、平均)
- ・各楽器の成績処理(点数に応じての評価、10段階評価からの5段階評価への変換)
- ・成績一覧表(各学期毎に生徒の一覧をつくる)
- ・出欠席
- ・スポーツテスト
- ・他にも水泳の記録、運動会や水泳大会の点数処理

で、夕べも成績処理を頼まれた。

学校は「ロータス」を使っている。僕はすっかりロータスからエクセルに乗り換えてしまったため、どうもやりにくい。

「エクセルでやろうよ！」と言うと、「だって、まだ、昔のロータスを使うことがあるんだモン」と言う答え。

.....

処理としては簡単だ。

水泳のタイムに応じて、10段階評価をつけていく、というもの。

男子、女子別。クロールと平泳ぎ別に。

秒以内は10、秒から病魔では9...、と言った具合に。

そして、度数分布を出して、10段階の平均が、7点前後になるように、調整する。グラフを見ながら、どうも、5が少なすぎる、とか、10が多すぎるとか.....。

しかし、こうした処理を僕が自分でやるのと、「少しは知っている」女房が「ほとんど知らない同僚」に教えられるようにするのは、全く違ってくる。

女房に教えるにしても、まだ、説明が途中であっても、「ウン、わかった、わかった！じゃ、お風呂はいつてくるから！」とくる。

.....困ったモンだ。だから、僕は女房にパソコンを教えるのが嫌いだ！

そんな女房が、若い同僚に、「パソコンは覚えなさいといけないよ~。どう？ 夏休み、ウチに来たら？ ウチのは、人に教えるのが好きだから、教えてもらえるよ」と、声をかけてきたそうだ.....。(--;)

う~ん、素晴らしい「妻」だ...

今週から、小学校が短縮授業になった。

いよいよ夏休みだ！

子ども達に夏休みはいらぬ！ と叫びたくなる今日この頃

誕生日 -1999/07/06(火) Vol.104-

今日は僕の誕生日でした。

ゆーたに、この前、「7月は、何があるか知ってる？」と聞いたら、

「30分間、回泳」

「他には？」
「夏休み！」
「他には？」
「 の発売！」
「他には？」
「う～ん……。わからん！」
いつもと何にも変わらない一日。

昨日、女房が「明日、デパート行くから、何か買ってきてあげようか？」と聞いてきた。「いらん！」
……大体、何か買ってくると、そのことをず～っと、恩着せがましく言い続けるから嫌いだ！ それで
も、一応、ゼリーを買ってきた。

夜、PTAの地域の会合があったので、食事をした後、いつものように片づけをし、いつものようにご飯
をセットして出かけていった。

僕が帰ってきたときには、女房もゆーたも寝ていたの、一人で冷蔵庫をあけて、ゼリーを食べた。

:.:・'° 。 .:~:・'° ° '・:~:。 .:~:・'° 。 .:~:~:~:~:~:~:

42歳になりました。
去年が「男の厄年」だそうで、確かにそうだなあ、と。
連帯保証人のトラブルで終始した一年間。
ホント、たまりませんでした。(^^ゞ

:.:・'° 。 .:~:・'° ° '・:~:。 .:~:・'° 。 .:~:~:~:~:~:~:

元号よりも、僕は西暦の方がピンとくる。
「80年代の教育は俺達がつくるんだ！」
そんなことを語っていた大学時代を経て、1980年に大学を卒業。
憧れの教師になり、無我夢中で突っ走ってきた一〇年間だった。

結婚、ゆーたの誕生。そして手術。
1990年に沼津の高校を退職して、浜松に帰ってきた。
浜松の高校に勤務、退職、学校設立運動、開校、退職、扶養家族、自己破産……。
この10年間もまた、「激動」の10年間だったような。
そんな90年代も終わっていかうとしている。

2000年からの10年間、果たして僕はどこで何をしているのだろうか？

う～ん、自分でもよくわからないなあ……。
こんなフラフラしていて良いのだろうか？（笑）

最近忙しいです。じっくり腰を落ち着けて考えられる時間が、ホント少なくなりました。ヤダなあ
……。

自分のこと、好き？ -1999/07/12(月) Vol.105-

毎日、毎日がとっても早く過ぎていきます。
これは良いことなんでしょうかねえ……？

充実している、と言えはそうかもしれませんが、今までみたいに、のんびりと歩いている、という実感がないんです。

確かに、時間的な余裕は、全然ないわけではありません。

でも、いつも、頭の片隅に「あ、あれ、しなくちゃ」「これもやらなくっちゃ！」てのがあります。仕事よりもPTAの関連ですね。

先週も二つの会合がありました。

会議の進め方、段取りが下手で、とって時間がかかります。きちんと準備していたら、時間的には、1/3～1/4に短縮できるような内容です。それが、とってイライラします。

ま、少しずつ様子も分かってきましたので、発言もするようになりましたが、発言するとかえって混乱する、という状態で……。精神的に良くないですね。

こちらが余裕がなくなったり、疲れたりしてしまうと、いつもは許せることが許せなくなったり、笑って受け流すことができずに、つい感情的になったり……。

9日の金曜日の朝、些細なことから、ぐずぐず言い出したゆーたをきつく叱ってしまいました。

病院に予約を入れていたのですが、「テレビがあるから行かない」「夏休みに変更するのモイヤだ！」と駄々をこね始めたからです。しまいには、「今日は気分が悪いから、学校休む！」といつものセリフ……。

とりあえず、その時は、長引かせたくなかったので、

「じゃあ、いいよ。今日は病院をやめよう」という形でおさめました。もっとも、病院と言っても、眼科のメガネ合わせだったからですが。これが、脳外科であったり、小児神経だったらまた、違っていたと思います。

で、土曜日の夜まで、ゆーたと話をしませんでした。

ゆーたもこちらが怒っているのがわかるので、近づいてこようとしませんでした。

「いつまでも引きずってないでよ～」と女房。

土曜日の夜、寝る前にゆーたを呼んで話をしました。

:*:~'° 。.:*:~'° ° '.:*:.。.:*:~'° 。.:*~'~*:

「ゆーたの身体のことや命のことよりも大事なものはないんだ。身体のことには比べたらテレビくらいなんなんだ！」

「自分の身体を大切にしないゆーたは、大嫌いだ！だから、話をする気にもならなかったし、一緒に遊ぶ気持ちにもなれなかったんだ！」と。

ゆーたは、神妙に聞いていました。

その後、ゆーたに

「昨日の朝みたいに、訳のわからんこと言い出して、泣いたり騒いでいる自分のこと、好きになれる？」「自分でもわかってるでしょ？あんな風な自分を、絶対に好きになっちゃいけないんだよ」と。

「ウン、わかった」そう答えたゆーたですが、う～ん、こんなことを何回も何回も繰り返して行くんだろかなあ……。

でも、金、土と何をするにも気持ちが乗りませんでした。(^^;

スターウォーズ、上映始まりましたね。もう、観られた方はいるのでしょうか？「鉄道員」「となりの山田くん」と併せて、観てみたい映画です。

不覚っ！ -1999/07/13(火) Vol.106-

ゆーたが帰ってくる前に、少し床で眠りました。

大体ゆーたが帰ってくると気がつくのですが、昨日は疲れていたのか、全然わかりませんでした。下のおじいちゃんたちに、荷物を片づけてきなさい、と言われたみたいですが、その時も足音を忍ばせて上がってきたようです。

「宿題やろうと思ったけれど、パパが寝てるから可哀想だから、起こさないであげた」

そうって、ひとしきり、ゲームボーイで遊んでいたとのこと。

う～む。

キャツも言うようになったなあ……。

ゆーたも一眠りして目を覚ましたのが、夕食前。

宿題、明日の準備もできないまま、僕はPTAの補導研修会に出かけていった。やられたなあ、と思いながら……。

この話を女房にしたら、「また、寝たの！ ホントにもう～」と言われるのは目に見えている…(;_;)

PTAの研修会。青少年補導センターの係長の話。

「最近、先生の『人権』が無視されているから、現場の先生もやりにくくなっている」と言った。ひっかかるなあ……。(;-;)

小児神経 -1999/07/16(金) Vol.107-

今日は、小児神経の診察があった。

浜松に帰ってきてから、当初はリハビリに2週間に1回くらい通っていたが、「もう、こちらでやることはないでしょう。後は日常生活の中で遊び回ることがリハビリです」ということで、その後、小児神経に通うようになった。

ゆーたが通っている病院は大きく言って三つ。

静岡の脳外科…。これからもシャントの入れ替え手術でお世話になっていく。また、ここで痙攣止めの薬を出してもらっている。

眼科…。

「左右とも右半分ほど視野がかけています。」

丁度眼科の医者は、僕と同年で、十数年前僕が網膜剥離の手術をしたときの担当医だ。ゆーたが生まれて直ぐのときも、家に遊びに来がてら、相談に乗ってくれた。医者への知り合い、というのは何とも心強い。

先だっても診察で「視野が少し回復しているねえ～」とのこと。

欠損している部分も少しずつではあるが、回復するみたいだ。

いや、これは語弊があるかな？

欠損しているところは欠損しているけれど、脳の他の部分が代用していくということみたいだ。う～ん、凄い！

そして小児神経。

こちらはむしろ精神的な部分のケア。

先生と僕が今学期の「大きな出来事」について話をしていると、ゆーたが口を挟んできた。

「ゆーたの大きな出来事は、ゲームの　　のステージをクリアできたことなんだよ」

「ほー、それは友だちにも自慢できる、凄いことなのかね？」

「ううん、友だちにしたら、そんなに凄いことではないけれど、ゆーたにしてみたら、すごいことなんだよ」

.....ほーっ！　と僕は驚いた。先生も

「友だちと自分との違いを認識できるようになりましたねえ」と言った。

「これからも気長にできるようになるまで、待ってあげることが大事ですね」とも。

気長に.....。

簡単そうで本当に難しい.....。(^^;

日の丸・君が代法案が通る見通しだと。

盗聴法、リストラ関連の法律、そして日の丸・君が代.....。大事なことがどんどん決まっていって
しまう。無力感？

小さいのち　-1999/07/19(月) Vol.108-

夕方、PTA会長から電話が突然入った。

「3時頃、　　町で三年生の女の子が車に轢かれた、という連絡が入りました。OSMさんも時間があつたら、一緒に行ってもらえますか？」

海岸へ親子三人で遊びに行った疲れから、ウトウトしていた所だった。

すぐにPTA会長さんのところへ行き、それから事故現場に行った。そこには地元の町内会長さん、子ども会の役員さん達、そしてしばらくすると病院に行っていた校長さん、担任.....。道路には、何ヶ所かにチョコの印。そして女の子が倒れていた辺りには血の痕.....。

町内の子ども会が、でカレーを食べたり、肝試しをしたりといった、ちょっとした集まりに、その女の子は向かうところだった。

見通しが悪い割には、道路は舗装され、横断歩道もないところ。

反対側に渡ろうとして、事故にあったのだった。

：*：*：*　　。：*：*：*　　°　'　*：*：*。：*：*：*　　。：*：*：*：*：*

校長、会長、担任、僕の四人で病院に行った。

その時には、女の子は即死だった、という連絡を受けていた。

病院に着くと、御両親、親戚の方たちが集まっていた。

一人っ子だったと。

なかなか子どもができずに、四〇になってようやくできた子どもだったと。

道路に急に飛び出すような子どもじゃあなかったと。

時々、声を詰まらせたり、時には気丈になったり……。
動転しつつも、それでも親であるが故に、色々な問いかけに答えている。
そんな両親の姿はとても直視できなかった。
最後に、遺体と対面して僕たちは、病院を後にした。

：*：・'° 。 ..*：・'° ° ' .：*：.. .：*：・'° 。 ..*：...*：

今日からいよいよ夏休み。

この間、学校とも夏休みの交通安全や通学路の危険箇所などを話しあっていた所だった。今頃、終業式の席上で、校長先生から昨日の事故のことが話されているときだろう……。子ども達は、どう受け止めているだろうか……？

昨夜から、今日、お父さんやお母さんは、変わり果てた姿で家に戻ってきた我が子を前に、どんな思いだったろう……。

言葉にならない……。

……小さな命が一つ奪われた……。

夏休みモード -1999/07/26(月) Vol.109-

暑いです。溶けてしまいそうです。
夏休みに入って、更に忙しくなってきました。
炎天下の中、プール当番で四時間ほど。
昨日の日曜は、奉仕作業でペンキ塗り。
臨時の運営委員会。
夜は夜で地域のお祭りがあれば、校外指導と言うことで巡回……。

結局、7月30、31日に予定していたPTA主催のキャンプ(学校のグラウンドを使って)も、この前の交通事故の直後と言うこともあり、中止になりました。

：*：・'° 。 ..*：・'° ° ' .：*：.. .：*：・'° 。 ..*：...*：

暑さもさることながら、緊張感が欠けてしまっています。
生活のリズムもムチャクチャになりつつあります。
なんつっても、朝、ゆっくり寝ていても女房に怒られない！
女房の方も、部活と家庭訪問
……女房の高校は1年生の全家庭を訪問するのです！
比較的朝もゆとりがあるからでしょう。

ゆーたの学校も休みで、「早くしなさい！」と大きな声を出すことも、めっきりなくなった。

だから、だから、だるだるううううううううううううううううっ！

いかんなぁ、と思いつつも、目一杯疲れ切ってます。
ウナギでも食べて、元気をつけるか！

最近、PTAの三役から、「来年もお願いしますね」なんてことを言われる。
げげげげげっ！ このままではPTA会長か！！
でも、やっぱできないだろうな。
何よりもネックは、日の丸、君が代だろう、と思う。
日の丸にお辞儀する気は毛頭ないし、君が代を歌う気も全くない。
こんなのが学校の親の代表になったら校長さんの立場もないだろうしな。

でも、それでもOK、ってなったらどうしよ……？
って余分な心配か。(^^ゞ

エピソードー、ゆーたと見てきました。
僕もゆーたもとても楽しんでできました。特にCGを駆使した画面は凄いなあ、と。
アメリカではジャージャー・ピンクスが「黒人を揶揄したもの」と批判があがっているとニュース
でやっていた。感覚的にはそう思わなかったのだが。

1999年9月

低空飛行 -1999/09/01(水) Vol.110-

7時30分から始まる朝の連続テレビ小説を横目にみながら、食器を洗う日が始まった。

7月26日以来の発行。
毎日、毎日、平凡に流れているように思えても、決して同じ日はなく、その時々心揺さぶられてこと
があったのに。

八ヶ岳でのジャズフェスティバル
下田でのシーカヤック
スターウォーズ、となりの山田君... etc、etc.....。

言葉を失ってしまって...。
ウウン、違う違う！
面倒くさくなっちゃって？

.....
PTAが忙しくて...。
24時間、PTAをしていたわけ？
生活にリズムが失われてしまったから...。
それまでもそんなにしっかりした生活をしていた？
先が見えなくなってしまって...。
目を開けてしっかり見ていた？

.....

君が代が国歌に、日の丸が国旗に決められたとき、僕は親子三人下田の海で、シーカヤックに乗って喜んで
いた。トルコの大地震のニュースが起きたときも、ゆーたと一緒にゲームを続けていた.....。

自分自身を見失っているような.....。

夏の終わりの頃、女房に言われた。
「ゆーたと一緒よ！ 結局は誰かが何とかしてくれると思っている。自立できてないのよ！」

返す言葉もなかった…。

精神的な低迷期？
この一ヶ月、メールマガジンを書こう、という気持ちが全く起きませんでした。
色々な方からのメールの返事も出さずじまいでした。こういう時って……。今しばらく続きそうです……。

牛乳 -1999/09/02(木) Vol.111-

夏休みが終わりに近づいた頃、「お～い、ゆーたは学校が嫌い？ 好き？ 学校でイヤなことある？」と聞いたときに、

「う～ん、あると言えば、ある……」と答えた。
一瞬ドキとしたが、ゆーたの答えが「牛乳」だった。

ゆーたは、牛乳が飲めない。いや、好きではない。
だから、給食の時間が非常にイヤみたいだ。

1学期の時も、同じ班の女の子達に
「牛乳飲まないといけないんだよ！」ときつく言われて、めげてしまったことがあった。 その子達にしてみれば、他の友達に言うような口調で言ったようだが、ゆーたにしてみれば、「非常にきつい」言葉になってしまうのだった。

……そう言えば、僕も小学校の頃、にんじんが食べられなくて、掃除の時間に一人で食べて(飲み込んで)いたなあ……。

女房が言う。
「別に飲めなければ飲めないで良いじゃん。牛乳に変わるカルシウムをしっかりと採れば良いんだから。無理に飲ませることはないよ」と。

うむ、なるほど、納得！

ゆーたは、チーズは大好きだ。これで良いんだな。でも、女房がせっせと作った「スモークチーズ」は、「臭い！」と言って口にしようとしなないけれど……。(笑)

今日の日曜日は、近隣の小中学校のPTAのドッジボール大会。
夕べも練習があつて、ひとしきり汗をかいてきました。運動しなくちゃ、ダメですね。

生命保険 -1999/09/03(金) Vol.112-

昨日の昼間、ゆーたが入っている学資保険の地区担当(?)の人が我が家にやってきた。
???? お、何だ今頃?と。

「生命保険のこの地区を担当しているものですが、私どもの担当者は、こちらにお邪魔しましたでしょうか?」と。

「いえ、未だかつて一度も来たことはありません。何ですか？」
「カードを作っただけだと、電話一本で引き落としができたり...」
「はい、わかりました。今、工作中ですので。」
「じゃ、この用紙にお名前だけお書き下さい」
「これで良いですか？」
「ありがとうございます。お休みの所、失礼しました」
ドキッ！
実は、昼寝をしていたのだった！！見透かされたか???

:*:・!° 。.:*:・!° ° '・*:..。.:*:・!° 。.:*:...*:

ゆーたが生まれて手術直後のことだった。
女房は産院に、ゆーたは病院、誰も居ない家に戻った時、突然、我が家に生命保険の外交員さんがやってきた。

「子どもさんがお生まれになったそうで...」
「何かと大変だということで、お邪魔しました」
「こんな生命保険があるんですが.....」

「そんな話を一体どこで聞いたんですかっ！」
そう聞き返す気力もなかった当時、とりあえず、「帰って下さい」とだけ答えたことを思い出した。

何かの時の備えは必要だろうなあ、と思いつつ、「命の値段」なんてことを考えてしまった。保険会社も大変なんだろうなあ、なんて言う変な同情心も顔をのぞかせながら。

「元気の無いメールを拝見して、でも止めたわけではないのが分かって嬉しかったのと、自分だけが落ち込んでいるわけではないとわかったことで、私はちょっと元気が出ました。」
こんなメールをいただきました。だはははははっ。(^^)

肥満児 -1999/09/04(土) Vol.113-

小学校4年生のころから、僕は見事なくらいに太りだし、六年生の時には「肥満児」というお墨付きをもらった。当時の写真を見ると、自分でも目を背けたくなくなるくらい、ブクブクしていた。

運動は好きだし得意だった(つもり)だったが、どうしてあんなに太っていたのだろう、と思ってしまふ。まあ、「太る体質」だと自分で解釈しているのだが.....。

中学に入り、運動部で鍛えられた僕は、いつしか「肥満児」を脱却していた。
高校、大学と身長170cm、体重65kgを維持していた。

で、昨日、小学校で身体検査があった。
ゆーたはこの夏、なんと4kgも体重が増えていた。

身長は+1.5cm。

ローレル指数が一気に18%にまで上がっていた。(;)

プラスマイナス20%が一応標準だから、ゆーたはかるうじて標準以内に収まってはいるが、この先が心配でならない。

女房の体質を引き継いでいれば、ガリガリになるのだが、ゆーたは僕の体質を引き継いでいるように思うのだった。

とにかく動かないからなあ……。

「まず、アンタが動かないからよ！」

と日頃女房に言われるように、僕自身がシェープアップしなければならないだろうなあ。ゆーたは結局、僕が毎日家でゴロゴロしている！そう思っているのだから。

汗をかかなくては、汗を！

……現在ローレル指数 + 50%のOSM (^_^;

明日は、PTAのドッジボール大会。チョット動くと息切れがしてしまふ……。
四試合もやるんだって……。(;)

PTA球技大会 -1999/09/05(日) Vol.114-

近隣の小学校六校、中学校3校の計9つの小中学校が集まって、年に1回親睦の球技大会が行われる。父親はスーパードッジボール。母親はバレーボール。

予選は3チーム毎でリーグ戦。その後各ブロック1位リーグから3位リーグを行い、順位を決める。

僕はドッジボールに出場。

我が小学校チームは、練習の甲斐あって(?)、見事に優勝。(^^)v

一方、バレーボールは第9位、という結果だった。(;)

特にバレーボールは、非常に熱くなる。

「高校生」がゲームをしているかのような錯覚を起こしてしまった。

……高校生、にしては化粧がひどく厚かったりするのだが(笑)

一つ一つのプレーに喜んだり、悔しがったり。

普段学校で顔を合わせる、お母さん達の顔はない。

きれいに着飾って、参観会や懇談会に出て、かしこまって座っている姿からは程遠い姿がそこにある。

むしろこっちの姿が、本物なんだろうなあ、と思ってゲームを見ていた。

この「顔」で教室でも子ども達の事をお互いに話ができたらいいなあ、とも……。

おばあちゃん -1999/09/06(月) Vol.115-

「おばあちゃん、おばあちゃん！」

ゆーたの大きな声が、玄関を開ける音と同時に、二階にまで飛び込んできた。

「あそこのハウスのところで、4cmくらいのスズメバチに刺されそうになった！」

ゆーたの話は、とどまるところは知らない。

おばあちゃんの「パパにただ今、って言っておいで」という声が、ゆーたの話の合間に聞こえてくる。

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .:*..'° 。.:*...*:

おばあちゃんは、日曜日から具合が悪くなって寝込んでしまった。

めまいがして立ってられない、ということだった。

日曜日のお風呂もゆーたは、「仕方なく」女房と入った。

シャワーを浴びて、すっきり！
スポーツクラブを出たのは、1時を過ぎていた。

:.*:.'° 。.:*:.'° ° '.:*:.。.:*:.'° 。.:*:.:*.:

歩行器(?)に乗っていた時のこと。
何とも言えない違和感をず~っと感じていた。何かが引っかかる…。

「歩いていればいつかは着きます！」

僕の大好きな詩(『炎える道』)の中の一節。
高校時代や大学時代もマラソンが好きだった。
走っている最中、一步一步、確かに近づいているんだ！そう考えていた。

色々と困難に直面しても、「歩いていれば……」と自分に言い聞かせてきた。
生徒達にもよく、この詩を紹介して話をしたものだった。

ところが、……歩いていても全然着かない！！！！ (;)

周りの景色が変わるわけでもなく、風が通り抜けるわけでもない。突然飛び込んでくる、音もない。
ガラス越しに見える景色は動かず、館内を流れる音楽とピッ！ ピッ！ という規則的なデジタル音
……。変わるものと言えば、機器に取り付けられている、セブンセグメントのデジタル表示だけ……。
後はただ、ひたすら「足を動かし続ける」

:.*:.'° 。.:*:.'° ° '.:*:.。.:*:.'° 。.:*:.:*.:

「自分の周りを散歩したりすればいいじゃない！」女房はいつも言う。
「お金をかけることじゃないわよ！」とも。

う~む。

女房と話をしていると思った。

「教員というのは、身近に運動施設が転がっていて、スポーツに接する機会が、いたるところにあるのだ！」
と。

僕も教員をしていた頃は、色々な部活に顔を出した。

独身時代の夏休みなどは、運動部の合宿に顔を出し、一日中一緒に汗を流し、食事にありついていたりした。ソフト、バレー、テニス、卓球、バスケ……。

一緒になって汗を流すのは、とっても気持ち良かった。

スポーツジムでは、一人黙々と汗を流した。

この違いは大きいなあ……。

「健康はお金で買う時代」に僕もはまりつつあるのだろうか……？

子ども病院 -1999/09/09(木) Vol.117-

今日は静岡の病院へ行って来た。

特に大きな変化がないため、今では半年に一度、先生の診察を受けるくらいになった。今日は午後の診察。

午前中とは打って変わって、患者さんの数が少ない。

待たされることを覚悟して持っていった本やゲームボーイカラーもほとんど用をなさなかった。

まず先生が聞くことは、

「この間、痙攣は起きなかったですね」

「はい」

「ウン、薬が良く効いているな。よしよし」

朝晩の薬は、欠かしたことはない。

だから、僕たちにはゆーたが起こす痙攣というものがわからない。

もし、そうした場面に直面したら、恐らくパニックになるだろうなあ。

いくら今まで何人かの生徒の痙攣に直面してきたとは言え……。

ケンケン(片足飛び)をさせたり、片方ずつ手のひらをグルグルさせたり、バランス感覚をみたり……。普段ゆーたに要求されていることを考えれば、なんと簡単なことだろう、と思ってしまう。

でも、そうなのかもしれない。

先生が要求することができれば、まずよし！ なのではないか？

普段、僕は学校生活の中で要求されることを、そのままゆーたに要求しているのではないだろうか？

この間も、リコーダーや鍵盤ハーモニカの事で、ゆーたを随分きつく問いつめてしまった。「やろうとしないであきらめてしまう」事に僕は腹を立て、「あきらめざるを得ない」ゆーたの気持ちをあまり考えていなかった。

子ども病院……。

いつも様々なことを教えてくれる。

ナンバーディスプレイ -1999/09/10(金) Vol.118-

昨年の連帯保証のトラブルに巻き込まれてから、我が家はナンバーディスプレイの電話に変えた。その時、関わらざるを得なくなったノンバンクは、番号を「非通知」に設定していた。我が家は「非通知」の電話は受け付けない。

だから、よくノンバンクの取り立て屋には言われたもんだ。

「いつかけてもつながらない！」と高圧的に言われる度に、「違うでしょ？ そちらさんが番号を非通知にしているからでしょ？」と。

そう答えると、先方は黙ってしまうことが多かった。

随分重宝したものだだった。

電話に出る前に心構えができるのだから……。

で、午前中のこと。

さて、ボツボツ出かける準備をしなくては、と思ったとき電話が鳴った。

げ、げ、げ～っ！
小学校からだ！！

一つ息を吸い込んでから受話器を取った。
案の定、担任からだった。(^^;

「今日、家庭科の授業の道具を全部忘れてきました。3時間目が始まる前に届けてくれませんか？ それから、この前もミシンがイヤで『お腹が痛い！』って言って、保健室に行ってしまったので、授業を見に来ていただけますか？」

ということだった。

「今日家を出るときに、『今度作るナップサックはミシンだから、今日の授業はちゃんと聞いていないとできなくなるよ。いい？』と言って、登校しましたから、最初から授業に行くのは、待っていただけます？ その代わりに、何かあったら、学校に行かれるようにしますから」

そう言って、電話を切った。

:.:.'° 。.:*.'° ° .'*:.. .:*.:'° 。.:*...*:

出かける予定があったが、先方には事情を話して遅れることを伝えた。

やはり、いくら大丈夫だろう、とは思っても気になって気になって仕方がなく、何をやるにも手につかない。んじゃ、と言うことで、PTAの用事にかこつけて、学校に行った。

正門に入り、保健室に顔を出す。

ゆーたはいない。ホッと一息。

次いで職員室に行き、教頭先生と集団登校のことで、意見交換。

その内、3時間目が終わり、休み時間に。

家庭科の担当の先生が職員室に戻ってきた。

その先生も、僕がいることを気がついたらしく、こちらに向かって、指でOKサインを送ってくれた。

教頭先生との話が終わった後、担任と昨日の診察の内容を伝え、ようやく学校を後にした。

夕方、学校から帰ってきたゆーたに聞いた。

「オイ、ミシンやったかぁ？面白かったかぁ？」

「ウン、まっねっ！」と素っ気なくゆーたは答えた。(^^ゞ

飲み会・カラオケ -1999/09/12(日) Vol.119-

昨日は球技大会のご苦労さん会。

家に帰ってきたのは12時を回っていた。

毎回、毎回の会費 ¥5000は僕にとっては非常にきつい。

でも、なんだかんだと言いながら、結構参加している。

夕べは教頭先生と結構話をしていた。

色々本音を聞いて楽しかった。

「酒は飲まないんだけど...。まっ、つきあいだから...」最近の新卒の先生は、なかなか戦力にならなかつたりも.....」本音を言えば、今度の行事にしても.....」

ホント苦労しているんだなあ、と同情してしまう。

善良な人だな。教頭先生は.....。

僕もついつい調子に乗って、昔の教員時代の事などをポロリポロリと。

普段、話せないことなどが話せる。
日頃は感じられないその人の違った一面が見られる新鮮さ。
それがいい。

お決まりのように二次会はカラオケ。
僕は音楽は好きだ。
でも、どうもカラオケは好きになれない。

今歌っているの、誰？
あ、音がずれてる……。
あ、リズムが……。
ここの音響今一つだなあ……。

ハウリングだあ。
あ、終わったんだ。拍手しなくちゃ……。(; ;)
狭い部屋の中で、エコーのかかった歌と、音楽と笑い声と、話し声が、ごちゃ混ぜになって耳に飛び込んでくる。

お母さん達は元気だ。
えっ、えっ、と言いながらも、しっかりと歌う曲を探している。
そしてホントに楽しそうに歌う。
楽しい姿を見るのは嫌いじゃない。
中には、ホントうまい人もいる。

そうした雰囲気も又いいのかもしれないが、笑ったり話をしたりしながらも僕の中には、醒めきった自分がいるのがわかる。

中学時代の友人に、ワンショットバーをやっているヤツがいる。
その店は、5人以上の団体さんはお断り。
騒いだりしたら、出ていってもらう。
酒は静かに飲むもんだ、というポリシーの元、音楽も流れていない。
「女の子を入れると、それを目当てに来るヤツがいるから」と言って、女性は決して雇わない。

飲み会が終わると僕は一人でそこへ出かける。
別に話すこともなく、ただ、ポーッとしながら、酒を飲む。
酒の味がわからない僕だが、酒を飲む雰囲気を楽しんでいる。

昨日は、地元での飲み会だったために、そのワンショットバーには行けなかったが、無性にそいつの店が恋しくなった。

さて、いよいよ今度の日曜日はふれあい運動会。
それが終わると資源回収。それが終わるとバザー。
それが終わると……。も、やだあ～ (..)

我が家の朝食は、6時半から始まる。

大体ゆーたは、早いときには5時過ぎに起き(夜は8時半～9時前には就寝)ひとしきりゲームをして遊んでいる。

女房が起きるのは6時頃。そして朝食の仕度にかかる。

6時半。

「ご飯だよ!! 起きなよ!」と鋭い声が飛んでくる。

その声に気圧されて僕は目を覚ます。

たとえ、どんなに前の晩が遅かろうと、その声は情け容赦がない。

まして、朝っぱらからゆーたがグズグズ言っていたりすると、その声は更に鋭さを増す。

.....だから僕には昼寝が必須なのだ!(笑)

:.:.'° 。.:*:.:.'° ° '.:*:.:.'° .:~*:.:.'° 。.:*:.:~*:.:~*:.:~*:.:~*:

実は、この夏に我が家にはe-one(MACもどきの...)がやってきたのだった。

これは、女房とゆーた専用のパソコンがあったらいい、と、突如、女房が言い出したのだった。

このチャンスを逃すまい!と、一気にe-one購入にこぎつけたのだった。ところがこのe-oneというかS O T E Cのマシンは、初期不良が多く、マニュアルも薄っぺらなのが一冊だけであまり勧められない、ということに悪意にしているショップの店員から聞かされていた。

ぬわんと、我が家のe-oneも、初期不良に当たった。

まともなマシンが、僕のPCの横に置かれたのは、夏休みも明日で終わり、と言うときだった。(;)

今朝は、6時に「起きて!」の声が飛んできた。

というのも、ゆーたが朝の6時過ぎから、パソコンに向かって、「調べもの」を始めたからだった。

ボンバーマンのミリアン王女をすくえ、とかいうNINTENDO六四のソフトのことを調べたいということだった。

この間、ゆーたはインターネットで、色々な「調べもの」をしている。

カブトムシ、クワガタ、蟻、蜘蛛、ボンバーマン、UFO.....。

その度に、僕が横について、日本語入力や、インターネットのホームページの事をあれこれ、教えている。(^^ゞ

ホームポジションってな、ここにこうやって指をおいて.....。

「ぼ」は「B、O」だろ?

「ん」は「N」を二つだよ。

そんな力入れなくていいんだ。クリックするときは、「ポチっとな」でいいんだ.....。 キーワードを入れるには、まず、日本語が入力できないといかんらる?

とにかくゆーたが触るようになって、女房は「ほ～らね。私が言ったとおりでしょ?」と得意げな顔をやる。ハイハイ、貴方のおっしゃるとおりでございます。ははぁ～ってなもんで。

まあ、僕も「ねえ、パソコン使わせてよお!」と女房に言われなくても非常に助かっている。でも、女房であろうとゆーたであろうと、パソコンをを始めたら、自分のやりたいことは中断させられるのは、同じ事だが.....。

でも、頼むから朝早くからの「調べもの」は辞めて欲しい.....(;_;

このクソ暑い日はいつまで続くんだろう……。
僕の部屋は、風通しが悪い。今日も、午後三時過ぎには、ついに暑さに負けてエアコンのスイッチをいれてしまった……。

拷問？ -1999/09/14(火) Vol.121-

今日、ゆーたは学校を休んだ。
昨日の2時間続きの運動会の練習でかなりばてていたみたいだった。
いよいよ出かけるときになって、「お腹が痛い」と言い出した。
熱があるわけではない。
学校に行こうと思えば、行かれる状態だと思った。
しかし、本人は疲れからか、よしっ！ という気持ちにならないみたいだ。
結局しばらく様子を見ることにした。

僕は出かける予定も入っていなかったもので、ずっと一緒にいた。
顔色も悪くないし、熱もあるわけではない。
ホント気持ちの問題だ。
ゆーたも少し休んでいたら、お腹の痛いのも治って、ウズウズし始めた。

「体の調子が悪いんだから、もし休むようだったら、今日、明日はテレビもゲームもダメだ。今日は一日、二階でおとなしく横になっていること」

「もし、調子が良くなるようなら、途中からでも学校に行こう」
そう言いつけた。

「今晚、伊東家の食卓をやるんだけれど…」

「明日は、元々学校が休みなんだから、ゲームしたって…」

「何を言っているんだ！お前は！」

その度、僕は叱りつけた。

お昼頃になると寝ているのも飽きてきたらしく、チョロチョロし始めた。

「調子は良くなったのか!？」

「良くなったんだったら、学校へ行こう！」

「う～ん、まだあ…」

「じゃ、おとなしく寝ている！」

何度繰り返したことだろう？

とにかく、そんなに体調も悪いわけでもないのに、一日中、何もしないでいるのは、ある種の拷問に近いことだったのではないだろうか？

でも、今日は絶対に譲らなかった。

午後になると、ゆーたは、ティッシュを引っぱり出して、扇風機の羽を掃除し始めた。しかも、布団の上で。埃がそこらじゅうに落ちていた。

「そんなことやらんでもいい！とにかくおとなしく横になってる！ 元気なときに、そうやって掃除をしてくれるんだったら、嬉しいけれど今日は余分なことはするな！」

がはははははっ！

全くうるさいったらありゃしない。
そのうち、テレビに向かって文句を言い出した。
僕はナイターを見たかったのに…… (；_；)

でも、女房のあつけらかんとした、笑いには救われることが多い。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:.. .:*.・'° 。.:*:...*::

大学の時にどこかで読んで記憶に残っている言葉。

人の心の豊かさとやさしさが笑いを生む
どんな時でもおかしいものをおかしいと笑える心を育もう

……ですね。(^^)

Vol.121 の「独り言」に対してこんなメールをいただきました。

=====
家の長男小二もそうです。何だかやる気が無い。ゆーた君との共通点はゲームです。もしかしたら子供の精神発達にゲームはいい影響を与えていないのではないのでしょうか。おおげさに言えば無気力、攻撃的、非創造的、外遊び拒否、短気、自己中心的など家の子が最近示している悪い傾向です。良い点もあるのですが、ゲームをやるのが楽しくてそのことで頭がいっぱい。どうしても悪い点が目立ちます。家だけかなあ。

ゲームが子供達の心身をこんな風に変えていく、と言うような報告があったら見比べて見たいものです。

=====

スキューバダイビング -1999/09/17(金) Vol.123-

スポーツクラブに入った。
前回、1000円の体験コースをやったところとは、別の所。
家から車で5、6分。

この間行ったところは、値段も高く、家からも遠い。そして何よりも、直ぐ横にゲームセンターが併設されていて、平日の昼間でも、高校生くらいの年齢の若者(?)がたむろしていて、何とも言えない雰囲気醸し出していた。

入会したクラブは、深夜1時までやっている。
その時間に行くか行かないかは別として、夜など一泳ぎできるなあ、などと……。

昨日の午後、機器の使用方法や体力測定など。
僕の体力は、7段階の内、下から2番目。「poor!」だった。(；_；)
まあ、仕方がない。ひどいときには、一日中家の中にいて、外に一歩も出ない日もあるくらいだから。
そして、今日は、入会申込みに行った時から気になっていた、「スキューバダイビングの無料体験」をしてきた。(笑)

時間にすれば、20分程度だし、水深も2.5mほどの練習用のプールだけれど、プールの底から水面を見上げた時、何とも言えない幻想的な気分になった。

.....

体験の後、説明を聞いたならライセンスを取ったり、道具を揃えたりで15万～20万かかると言うこと。
それが高いか、安いかの問題よりも、当面はそんなお金はない、ちゅう事で、スキューバダイビングはしばらくお預け。(^^)

でも、気持ちよかった～。(^^)v

体力づくりなんて、お金を出してまで.....、という気持ちもなかったわけではない。
最近、ゆーたに付いていけなくなってきている自分を感じる。
特に、外に出かけたりというときなど、すぐに僕の方が息切れしてしまうのだ。
また、ゆーたの運動嫌いや、太ることに対する危機意識のなさも、僕を見ているからだろう。そう思う。

やせるぞ！ (^^)/

Vol.122 の「独り言」に対していただいたメールに対するメールをいただきました。.....どこまで続くかな？(笑)

=====

子供とゲームについて

私もゲームにネガティブな意見を持っている母です。

ゲームの欠点と思われること「目が悪くなる」「創造性がなくなる」「外出嫌い」など、事ある毎に子供たちには諭しているのですが、うちの二人の小学生の息子達はゲーム大好き。

ほっといたら何時間でも..... こっちが怒鳴るまで(きっとどこの家庭でもこのバトルは繰り返されているのでしょうか)

それに、めんどくさがりな性格を助長するような気がします。

だって、座って指先を動かしているだけで、すべてができるのですから。こういう事に小さい時から慣れているとどうなるのだらうと思います。

結局、私たち大人が生み出した文明の利器は、子供の健全な成長を妨害している？！

=====

テレビゲームと癒し -1999/09/18(土) Vol.124-

香山リカという精神科医がいる。最近、テレビなどにも良く出ている。

彼女が岩波書店の「今、ここに生きる子ども」シリーズで「テレビゲームと癒し」という本を出している。「テレビゲームは人格形成に悪い影響を与える」という風潮の中で、テレビゲームに救われた感覚を持っている彼女は、「果たしてそうなのか？」という問いかけをしている。

結論的には、まだ、「考え中」ということで、読んだ後もモヤモヤ感は、拭い去れないけれど、いくつか、ウム、なるほど、と思うところがあった。

「科学が生んだ新しい技術は、人間にとってかつての狐つきと同じように魔術的なもの、害を及ぼすものとして働く可能性があることを、示しているのではないのでしょうか。もし、そうなら、『テレビゲームは恐ろしいもの』という報道や意見なら何でも受け入れる態度は、『狐つきは恐ろしいものだからお祝いしよう』というのと根本的なところでは同じなのかもしれません」

「『ゲームそのものが子ども達に悪い影響を与えるのではない。最初から問題のある子がゲームに熱中するのだ』というこれらの意見をこんなふうには言いかえることはできないでしょうか。『何か問題を抱えている子どもでも、テレビゲーム二なら熱中することができる』」

「.....つまり、ゲームをすることによって、心は大まかに次の二つのプロセスを踏むと考えられるのです。まず、ある世界に暖かく迎えられ、『自分が受け入れられている』という体験をする。それからゲームそのものに没頭することによって、『新しい世界への強い参加の感覚』を味わう。

受容と参加、しかも現実の生活では体験できないほどの強さで、それらを実感する」

.:*:.'° 。.:*:.'° ° '.:*:.。.:*:.'° 。.:*:.:.*:

実は、メールマガジンを書こうとしたら、隣で女房がメールのチェックをし始めた。そしてこの間の「ぼちぼち...」を一気に読み始めた。

「あ、確か、『テレビゲームと癒し』だかっていう本、あったよ。私、読んでないけど」と。

ってなわけで、早速読み始めて、つい先ほど読み終えたところ。(爆)

さすが、OSMさん！ なんて一瞬たりとも思った人は、さすがyoshikoさん！ と誉めてやって下さい。
(^^ゞ

Vol.122 の「独り言」に対していただいたメールに対するメールに対するメールをいただきました。.....どこまで続くっ？(ストック有り！)

この件ですが、一時話題になった「滅びゆく思考力」という本が参考になると思います。TVについての影響が主なテーマですが、ゲームにもいえることだと思います。

あと、シュタイナー教育ではTVやゲームを極端なまでに避けてます。その思想も参考になると思います。

私も小一の子がいて ゲームをやっています。

ゲームの批判は世間でもよく指摘されていて 私もうなづける部分は多々あります。でも、「ゲーム」はすでに存在しているわけだしその上とても人気がある。.....となれば どうやってそれと付き合っていくかにもっと重点をおいた話をもっともっと増えていいんじゃないでしょうか？

「ゲームやってるからこうなる」みたいなのが多すぎる気がします。

私自身 今 渦中の人間なので結論なんてありませんがうまく受け入れられる方法をさがしています。もちろん ゲームには悪の面もあります。

でも、まずは受け入れてあげたいのです。そこから始めたいのです。

ゲームに限らず.....

誰しも好きなものを否定的に見られるのはとてもつらいと思うので。

できるだけ 子供の視点と大人の視点 両方から見ていきたいです。

みなさん、どう思われます？(その三)

ゲーム取り上げ！ -1999/09/22(水) Vol.125-

今日、ゆーたは学校を休んでいる。

例によって「だったら、学校行かない！」という調子だ。

ふれあい運動会が終わって一息。

運動会が終わったら、「ボンバーマン～ミリヤン王女を救え～」を買おうということになっていたため、疲れ切った身体をむち打ち、中古ソフトを買いに行った。

ゆーたは、このソフトが気に入ったらしく、早速やり始めようとした。

「宿題やってからにしよう！」ということで、機嫌良く勉強をし、よし遊ぼう！と言う感じだった。僕も一緒にやりながら、あーでもない、こーでもない、と二人して楽しんでいた。

月曜日の代休。友達が遊びに来た。
僕が昼過ぎに帰ってきたとき、その友達ばかりがゲームをやっていて、やらせてくれなかったと怒りまくっていた。

きちんと言い切れないゆうた。
その場で言えずに、その怒りや憎しみだけを持ち続ける。
それがゆうたの課題なのに、なかなか乗り越えられない。

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .*:.'° 。.:*:...*:

それからゆうたはムキになって、そのゲームをやり始めた。
昨日の朝も、30分だけだよ、ということだったのに、終われずに女房に朝っぱらから怒られた。
怒られると「だって、君がやらせてくれなかった！」と言い出す。

昨日は、3時過ぎに学校から帰ってきた。
友達は遊びに来ない、というので、
「じゃ、二人で遊ぼう！。でも、宿題もやらないといけないから、とりあえず何時までにする？」
「う～ん、じゃ、4時半！」
「よし、交代でやるっ！」

4時30分を回った。
後少して、ゲームオーバーになりそうだ。
ま、もう少し待ってやるか.....。
4時32分。ゲームオーバーに。

「30分回ったから、一端止めて宿題やるっ～」
「え～っ！ え～っ！ え～っ！ え～っ！ え～っ！」

なかなか止めようとしないううた。
「だって時間だよ」
「だって～」
「時間が守れないなら、もうゲームはやらせられないよ」

ゆうたは怒り始めた。
「だって君が.....」
「そんなこと言ってないでしょ」

.....

「明日の仕度や宿題はどうするんだ？」
「.....。」
「『だったら、学校行かない』ってまた、言うつもりなのか？」

ゆうたは怒りながら下へ行ってしまった。

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .*:.'° 。.:*:...*:

疲れが残っているところにきて、朝早くからゲームをしたり、友達のことがあったり.....。怒りをコント

ロールできないと、本当に支えてくれる仲間がいなくなってしまうのに。それがゆーたにはわからない。僕にしてみれば、どうすればわかるのかわからない.....。

とにかく、我が家からゲームの類は姿を消した。

前から思っていたが、一度、ゲームを無くしてみることも必要ではないかと思っていたから。学校も休みたいなら、休めばいいと思う。

ただ、この場合の問題は、「おばあちゃん」だ。

結局、ゆーたは相手をしてくれる人間がいる限り、甘えてしまう。

今も下から「おばあちゃん！ おばあちゃん！」という声が聞こえてくる。

おじいちゃんやおばあちゃんと一緒に暮らすことの是非も、ゆっくり考えてみないといけない。

僕の毎日は、ゆーたによって決まる。浮いたり沈んだり.....。

子育てのイライラを他のお母さん、お父さん達は、どう、解消しているんだろうか.....？ (;)

言葉がどんどんきつくなっていく.....。

乱高下 (; ;) -1999/09/29(水) Vol.126-

今日「も」、ゆーたは学校を休んだ。

丁度、一週間前も学校を休んだ。

この一週間というもの、

「パパあ、もうわかったから、ゲーム出してよ～」

ということで、ゲームを出してやったり、その後、しばらくは調子よく頑張ってみたり、また、約束が守れなくなって、少し注意すると怒り出し、またもやゲームを隠したり.....。またまた、「わかったから～」と言ってきたり.....。

一日おきくらいに、ゆーたの状態はコロコロと変わっていく。

：*：*’° 。：*：*’° ° ’*：*：*。：*：*’° 。：*：*：*’*：*

今、ゆーたが直面しているイヤなことは、今月末の林間学校と、体育の授業でやっている「スポーツテスト」の練習。

前日も、そして昨日も体育の時間になると、「頭がクラクラする」と言って、保健室で休んでいたとのこと。「う～ん、頭がクラクラするなら、ゲームはやっちゃいかんなあ。あれは、目に負担をかけるしなあ.....」

この間のやりとりの中で、「できるできないはともかくとして、立ち向かうこと。頑張ろうとすること」を強く言ってきた。

それをゆーたもわかっているから、ある種の負い目と同時に、何とかごまかそう、ごまかそうとする。それがますます自分を追いつめていく。

：*：*’° 。：*：*’° ° ’*：*：*。：*：*’° 。：*：*：*’*：*

宿題も学校の仕度も放り出してしまったゆーたに、

「じゃあ、明日も学校を休むの？」と。

で、結局、学校を休んだ。

ゆーたのような子どもは、周りの理解がない限り、救われなと思う。先だっの地域のふれあい運動会の時、クラスの子に「邪魔だっ！」と言われ、めげてしまったみたいだ。
下級生（2、3年生）にも、何か最近言われているみたいだ。

:.*:.'° 。 .:*.:'° ° ' .:*.:'。 .:*.:'° 。 .:*.:'*:

「強くなって欲しい」という願いが、前面に出すぎているのだろうか？
もっと、もっと時間が必要なのだろうか？
でも、「林間学校」は確実に迫っている……。 (--;)

Vol.125 で、「子育てのイライラを他のお母さん、お父さん達は、どう、解消しているんだろうか……? (;)」と書いたところ、メールをいただきました。

1999年10月

登校拒否 -1999/10/12(火) Vol.127-

先週の水曜日から、ゆーたは学校に行くのをやめた。
あまりにも不安定なゆーたの状況。
二次障害に対する危機感が僕の中にとっても強くなった。

みんなと同じテンポでできないゆーた。
次第に自我が目覚め始め、様々な問いかけをするようになる五年生という年齢。
友達も自分のことで手一杯で、とてもゆーたのことを思いやる余裕も無いのだろう。
色々と言われれば、ゆーたも反論する。
それは友達の気持ちを更に逆立てするような言葉。
一度感情の整理がつかなくなると、ひたすら攻撃することによって、自分の心の平衡を保とうとする。
理解しよう、何とかしてあげよう、という気持ちすら、周囲の人間からも奪っていく。
このままでは、情緒障害を引き起こすのではないか、という危惧、不安。
担任と話をしても、とても手が回らない、という印象を僕は受けた。

:.*:.'° 。 .:*.:'° ° ' .:*.:'。 .:*.:'° 。 .:*.:'*:

メンタルクリニックに親子三人で行ってきた。
院長先生が色々面接をした。
「不安の原因は何？」
「友達が色々なことをしてくる……。」
「この間も、ちょっとぶつかったから、謝ったのに首を絞めてきたり、手を捻られたりした……」
「君と、君と、さんがいやだ」
「謝ったのに」と言うところに僕自身は引っかかりを覚えなわけではなかったが……。
「学校のような大きな集団ではしんどいでしょうね」

そのメンタルクリニックが併設している、デイケアに通わせたらどうか、ということになった。

:.*:.'° 。 .:*.:'° ° ' .:*.:'。 .:*.:'° 。 .:*.:'*:

とことんやる、というのはホント、とことんやることなんだけれど……。
自分が受け持った生徒がトラブルを起こしたことは、たくさんあった。
その時のハチャメチャな毎日を思い返すことが多い。

アナログとデジタルの違いかな？
教師は、子ども達を断面で見る。
親は、生まれたときからの連続で見る。
教員時代は、突き放すことができた。
しかし親となって見ると、それができない。
その違いに、今の僕の根本的な迷いや苦しみがある。

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .*:.'° 。.:*...*:

昨日の会合でも、メンバーの積極的な意見を聞いている内に、
「やっちゃられないよ」という気持ちが多少薄らいでいったのも事実。
ゆーたが安心して過ごすことのできる学校をつくるためにも、頑張らなくては……という正論と、「ああ、
もーいいや！やめっ、やめっ！」と何もかも放り出そうとしている自分が、存在している。

今から、小学校に行き来する。
昨日の会合で出した意見を元に、作り直したアンケートを持って……。

早速、メールいただきました。ありがとうございます。
「返事はいいですからね……」という一言が添えられてあったり、何年か前の経験を語ってくれたり
……。救われます。心遣いが身にしみます。ありがとうございます。

体力づくり -1999/10/16(土) Vol.129-

丁度、スポーツジムに通い始めて、一ヶ月になる。
時間があれば、せっせとジムに通って汗を流している。
ひと頃の「健康を金で買う云々」なんてのはどこへやら、今では僕にとってなくてはならない時間になり
つつある。

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .*:.'° 。.:*...*:

一昨年の冬。
女房のスキー実習の下見を兼ねたスキーツアーに参加した。
ウェア等がきついことは、日頃着ている服が、どんどん着られなくなっていくことで、予測はできた。ま
た、運動していないからチョット滑るだけで、しんどくなるだろうとは思っていた。しかし、その「チョッ
ト」が、あまりにも「チョット」過ぎたのに、愕然とした。
最終日、初級者用のコースを降りてきたのだが、少し滑ると、足首、ふくらはぎが言うことをきかなくな
った。転ぶことはないのだが、泣きそうな気持ちで下まで降りていった。

去年の12月。
ゆーたの持久走大会の前に、一緒に散歩をしよということになった。
その時、少し走ったりもしたのだが、これもほんの「チョット」走っただけで息が上がりに、音上げる
ゆーた以上に、こちらが音を上げたくなくなってしまった。

自分の体力が衰えていることは、自覚はしていた。

しかし、その自覚は、単なる衰えの自覚であって、体力づくりをしようという所にまで行き着いてなかった。

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..。：*：*！° 。：*：*...*：

ゆーたが五年生になった当初から、ゆーたのトラブルが、今まで以上に内面的な問題になっていった。その度に、ゆーたがいつになったら自立できるか、ということが僕の悩みの大きな部分を占めるようになってきた。

今までは、「思春期」をどう迎え、どう乗り越えていくか、と言うところが視線の先にあったが、既に思春期の入り口を彷徨い始めているゆーたを前にし、ゆーたの「一生」という問題が浮上してくるのだった。

「自立」には、相当な時間がかかるんだろうなあ……。

ゆーたの場合は、かなりかかるかもしれないなあ……。

そう考えたとき、自分の健康問題も考えないではいられなくなった。

「こんな不健康な生活をしていたら、いつ、ポックリ逝くかもわからないなあ……。」と。

ポックリ逝かないにしても、心臓病だとか、糖尿病だとか……。

う～ん、まだまだポックリ逝くわけにはいかないのだ！（笑）

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..。：*：*！° 。：*：*...*：

スポーツジムに通い始めて1ヶ月。

時間があれば、というよりも時間を作ってせっせと通っている。

その成果もさることながら（笑）、音楽を聴きながらひたすら自転車を漕いだりランニングマシンで汗をかいているとき、しばしば、日常的なイライラを忘れることができる。元来、身体を動かすことが好きだった僕にとっては、思いっきり汗をかいた後の爽快感は何とも言えない。

気分をスッキリさせて、また、家に戻りゆーたと付き合う毎日が繰り広げられている。

メンタルクリニックに行ってきた。

親子は、今までの時間の積み重ねがある。一方、カウンセラーはその断面を切り取る。違った視点で、我が子を見つめること。これが大切だと思ってます。

1999年11月

酸素が吸えない -1999/11/12(金) Vol.130-

昨日、11日は小学校の音楽会だった。

毎年小学校の音楽会を見てきたが、その音響の貧弱さには、「何とかならないか、何とかしてやりたいなあ」と思ってきた。半分から後ろでは、ピアノの音も何もかもがこもってしまって、ほとんど聞こえないのだった。

今年、PTAの役員になったことから、会長や校長に、「もし、なんなら、音響設備を借りてきませんか？」と申し出たところ、「是非」ということになった。

ゆーたは学校には行っていないが、その代わり（笑）僕がこの3日間ほど学校に入り浸っていた。
9日の夜、10時過ぎまで、マイクやスピーカーなどのセッティング。
10日は、朝の八時過ぎから、夜の9時まで子ども達の総練習のおつきあい。
そして昨日は、午前中発表会。

結果的には、体育館の隅々まで音がきれいに聞こえ、大変好評だった。
まあ、僕が今まで関わってきた、文化祭を初めとした色々なコンサートの音響(PA)に比べれば楽な方だったが、喜んでもらったことは嬉しかった。

:.*:.'° 。 .:*.:'° ° '.*:.. .:*.:'° 。 .:*.:'*:

普通、親や外部の人間が学校に入っていくのは、発表会の当日だから、練習風景などは、まず見る機会がない。ホントそうだ。

しかし、前日のリハーサルに一日つきあって、学校の姿は、本番を見るよりも、何倍も何十倍もよく見えるんだということを痛感した。

明日が本番だ、ということでどの先生達もピリピリしていた。

きつい言葉が、よく飛んだ。

「あんな言い方するのかあ〜」

「あんなに怒鳴らなくても良いのに……」と何人もの先生に驚かされた。

僕たち父母と接しているときとは、全く異なり子ども達の日常的な接し方が、よおおおおおおおおおつく、わかってしまうのだった。

せっぱ詰まった時にこそ、その人の本当の姿が見えてくる。

だから、ああ、この先生の姿はこれが本物だなあ、とってしまった。

先生達も、僕がいるのでやりにくい所はあったらう。

練習が終わり、教室に引き上げていくとき、

「ホント、明日の本番が思いやられます」とか「恥ずかしいですよ、これじゃあ」というような言葉を、多くの先生達が口にしていった。

照れ隠しもあろうが、

「アレレレレ？ 恥ずかしいの？ そんならどうでもイイじゃん」

と僕は内心思っていた。

:.*:.'° 。 .:*.:'° ° '.*:.. .:*.:'° 。 .:*.:'*:

「緊張感」とは違うような感じを僕は受けていた。むしろ、重苦しい空気、と言ったらよいだろうか……？

緊張感の高め方にも色々な方法はあるだろう。

思うにまかせない子ども達や演奏への苛立ちが、言葉の端々に感じ取れてしまったのだ。大きな声で注意をするたびに、子ども達の心が離れていくように思ってしまったのだった。

もっとも、日常接しているわけではなく、断片的な見方であろうけれど。

ただ、ゆーたが今まで「学校に行っても何かあるような気がして、酸素を吸えないようなんだよ」と何度も口にしてきたことがあった。

「誰々君」とか「何が」と言った、具体的なものではない、「漠然とした重苦しい空気」のことをゆーたは言いたかったのではなかったのか？

そう思った。

リハーサルを見ていて、ゆーたの言う、学校全体の空気を僕も感じ取れたような気がした。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

ゆーたの好きな先生が、合間によってきて、
「ゆーた君の顔を見ないから、寂しいですよぉ～」
と声をかけてきてくれた。
とても笑顔のステキな穏やかな先生……。

眉間にしわを寄せた顔は、学校には似合わないなあ。
大きな声を出さなくたって、子ども達は静かになるのになあ。
待ってあげればいいんだと。
「待ってあげられる時間がない！」から大きな声を出す。結果として、かえって時間がかかるようになっていく……。
そここのところに、気がつかないのかなあ……？

時速 11km -1999/11/22(月) Vol.131-

昔々のその昔……。
高校時代の体育大会。僕はイヤと言おうが何を言おうが毎年 1500 mに出させられた。
みんなは気楽なものだった。
黙々とトラックを走り続ける僕たちが目の前を通る時になると「おお！頑張れよぉ～」と手を振る。
通り過ぎてしまえば、隣近所のヤツとペチャペチャしゃべくっている。
「全くいい気なもんだ」そう思いつつ、トラックを走った記憶が蘇る。
当時、スポーツテストの 1500 mの記録で、僕のベストタイムは、4分 30 秒だった。時速に直すとぉ……
！！！！！！ なんと 20km/h で走っていた計算になる。(@_@)

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

大学の時も、時々そこらへんを走ったりした。
先輩と二人で、いつかホノルルマラソンに出てみたいなあ、などと話をしたこともあった。
で、少し前ワイドショー番組。
郷ひろみがニューヨークシティマラソンに参加し、4時間 20 分(?)くらいで完走した、ということが話題になった。
時速に直すと 11km/h だそうだ。

郷ひろみ。まあ、ワイドショーとしては、新たな恋人がどうの、ってところで飛びついたわけだが、僕にしてみたら、四四歳という彼の年齢と、フルマラソンということが気にかかった。
もっとも、つい 2、3ヶ月前の自分だったら、すぐにチャンネルを変えていただろうが……。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

スポーツクラブ通いを始めて 2ヶ月が過ぎた。
以前は喫茶店に行ってランチを食べ、その後時間の許す限りマンガを読んでいたのだが、この間、ほとんど喫茶店に行かなくなった。マンガは、コンビニの立ち読みですましている。(--;)

当初は、5分も続けて走ろうものなら(いや、「早歩き」かな?)もう息が上がり、ゼーゼーいっていたものだが、最近では10分、15分は平気で「走り続ける」ことができるようになってきた。

そして新たな欲望が僕の心の中からわき上がってくるのを感じるのだった。

「土の上を走りたい!」

「景色が変わるところを走りたい!」って。(笑)

:.:.:'° 。.:*:.:'° ° '.:*:.:. .:~*:.:'° 。.:*:.:.*:

女房に言った。

「来年あたり、フルマラソンに挑戦してみたいなあ……」

「何言ってるのよ。お金もかかるからダメよ」

「…… (--;)」

ま、とりあえずローカルの2kmとか5kmマラソンから始めようか!

「んじゃ、クリスマスプレゼントに、ジョギングシューズが欲しいなあ」

サンタクロースに、そうお願いした。

ゆっくりゆっくり時間が流れていくのを感じます。

以前だったら、毎日のように、「宿題やったのか!」「明日の仕度は!」という言葉が飛び交っていたのに……。

「次」はまだまだ見えてきませんが、ゆーたの時間同様、僕自身の時間もゆっくり流れていきます。

お邪魔女ドレミ -1999/11/29(月) Vol.132-

全くゆーたときたら、どうして女の子向けの番組が好きなんだろう?

キューティハニー、セーラームーン……。

そして最近はお邪魔女ドレミ。」

「んなあ、女の子の見る番組ばかり~」

「またあ……」

もちろん、ミクロマン、しんちゃん、コナンetcetcと言ったヤツも見る。また、伊東家の食卓、たけしの万物創世記、奇跡体験アンビリバーボー、生き物地球紀行、日本人の質問、ためしてガッテンといった番組も好きだ。

いずれにせよ、生活のかなりの部分はテレビからの知識が増えている。

「は、界面活性剤を使っているから良くないんだよ!」

「は、食塩がかなり含まれているんだよ」

「~をすると、健康にいいんだって!」

新しく仕入れた知識を、ここぞとばかりに言ってくる時は、さすがにこちらも閉口してしまうときがある

……。

:.:.:'° 。.:*:.:'° ° '.:*:.:. .:~*:.:'° 。.:*:.:.*:

さて、お邪魔女ドレミ。

場所は、原発のある町、浜岡町。

ん？ 田沼意次と何か関係あるのかぁ？……知らんぞい！（^；

距離は20km、10km、5km、2km……。

20km、10kmはとんでもないから、パス！

……5km……制限時間40分以内で走れる方。

お、これだったら何とかなりそうぞ……。

興味のない顔をしながらも、その夜、要項をじっくり読んでいた僕だった。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '.:*:.. .*:・'° 。.:*:...*:

「ねえねえ、2kmの親子ファミリーマラソン、ってのがあるから、ゆーたとママの二人で出てみたら？パパは5kmに出ようかなあ、って思ってるから……。」

「私は、ゆーたが出るならいいよ」と女房

「う～ん………」とゆーた。

しばし沈黙……。

「頑張ったら何かくれる？」

「それはないよ」と女房。

「う～ん、だったらなあ……」

そうは言ったものの、最近、ゆーたは自分の運動不足を気にしている。

「ま、申込みは来年の1月だから、ゆっくり考えたらいいよ」と、結論は保留してある。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '.:*:.. .*:・'° 。.:*:...*:

学校に行かなくなってから外に出かける機会がホント少なくなったゆーた。

「意識的に働きかけて、身体を動かすようにしないと」と女房。

休日は、可能な限り外に親子で出かけるようにしはいる。

このままだと、ホント深刻な運動不足になるなあ……。

小学校時代、肥満児だった僕の血を半分受け継いでいるのだから…。(--;)

何か「もの」でつるわけにもいかないしなあ……（笑）

いよいよ12月です。今年も残すところ後、一ヶ月。

色々あったなあ……。やっぱりそう思います。

子ども達は無条件に可愛い -1999/12/04(土) Vol.134-

今日は小学校の持久走大会。

僕は、学校から交通整理を頼まれ、もう一人の役員さんと8:30分にはグラウンドに出かけていった。もちろんそこにはゆーたの姿はなかった。

随分と学校との距離を感じるようになってきたし、また、他の子ども達の姿を見て、僕の内面に何らかの変化があるのだろうか……、そんなことを考えていた。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '.:*:.. .*:・'° 。.:*:...*:

8時30分過ぎには、保護者の車が続々とやってきた。

そしてしばらくすると、子ども達が学年毎にグラウンドにやってきた。

「おはよーっ！」

「おはよーございまぁーすっ！」

「元気だねえ～！」「頑張ってるね～！」

そんな声をかけながら、交通整理をしていた。

中には、音楽会のリハーサルの時のことを覚えていた子もいて、「あ、すずきさんだぁ～っ！おはよーっ！」と向こうから声をかけて来る子ども達も何人かいた。

また、音楽会の時、他の役員と「遠い世界に」をバンド形式で、歌ったりしたもんだから、僕の顔を見ながら、「とおい～、せかいにいいー」なんて歌いながら、通りすぎていく子もいたりして、こちらの方が、思わず吹き出してしまった。

中には、体育が苦手なんだろうなぁと思うような子もいたり、緊張した顔つきをしている子どもや、高学年になると何とも言えない不機嫌そうな顔をしている子もいたりして……。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

ゆーたがその場にいる、いないに関係なく、そうした子ども達の姿を見ていると、何とも言えず心がなごんでくる。

そして、つい笑顔がこぼれてくる。

子ども達って、ホント可愛いと思う。

たとえむすっとした顔をしていても……。

実生活の中では、「この子増！」なんて憎たらしく思えるときがあったとしても、子ども達の存在そのものは、可愛いものなのだと思えて改めた。

同時に、こうした子ども達が健やかに育っていく環境を作っていくことこそ大人のつとめなんだろうなぁ、とも……。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

一方、親達……。

車の出入りと、子ども達の出入り。そして駐車スペースの狭さもあり、時には随分と待たせることもあった。

大体の親達は、会釈をしてみたが、中にはこちらをほとんど見ることもなく、無表情でグラウンドに入っていく親も結構いたりした。

年がら年中エヘラエヘラしてる、とは言わない。

誰に対しても愛想笑いをしろなんて言わない。

こっちは寒い中、朝の八時半から立ってるんだぞ！

「お前もやってみろよなぁ～！」

そう言いたくなるような顔だけはしないでくれよな……。(--;)

ゆーたは今日はたって不機嫌。

楽しみにしていた爆ボンバーマンのソフトを昨日購入したのだが、なかなかうまくいかないみたいだ。ほっぼっておいてるから、余計に腹が立つんだろう……。

お買い物...(^^) -1999/12/06(月) Vol.135-

片道1kmチョットの所に、大きなスーパーがある。
昨日、今日とゆーたと二人で夕方歩いて買い物に出かけた。

ゆーたの足で片道15分。往復30分の距離。
買い物の時間を入れると、4,50分と言ったところ。

最近、ゆーたはイライラするときがある。
確かに学校に行かなくなって、他人から受ける精神的な負担はなくなったが、結局家にいてもやることと
いったら、テレビを見ているか、ゲームをしているかといったところ。
毎日毎日が、何の変化もなく、ゴロゴロしている、と言った感じだ。

特に体を動かさなくなったため、ぼっちゃんとしてきた。
「太ったなあ～」とからかうと本気になって怒ってくる。かなり気にしているようだ。

何とかしないといけない。
このままじゃいけない、そんな思いもどこかしらゆーたの中にあるのではないかと思う。でも、何かをし
よう、というところまでいかない。

平日にプールに連れていこうか.....。
そんなことも考えたりもしたが、虫食いの入ってくる僕のスケジュールから、なかなかいけないでい
た。

そんな中、昨日
「オイ、ゆーた！買い物いくか！ストアまで！」
「六甲のおいしい水、買おう！」
「いいよ！ダイエットにもなるぜい！」

風が大分冷たくなってきた中、二人で出かけていった。

:.:.:'° 。 .:.:.:'° ° ' .:.:'. .:.:.:'° 。 .:.:'.:.:':

「これで何グラムくらいやせるかなあ？」
「う～ん、そうだなあ.....、どのくらいかなあ？」
「1kgくらいやせるかなあ？」
「甘い、甘い！そんな簡単には痩せないってば！」
「じゃ、500gくらい？」
「う～ん、もっと少ないかもなあ.....。」
「.....(--;)」
「毎日、少しずつでも歩き続けると効果が出るんだぞ」
「ふ～ん.....」
「これから夕方、買い物に行くか？」
「ウン、そうだね」

家に着く頃は、日はすっかり暮れ、風も冷たくなってきたが、身体は随分と暖まってきた。

:*:・!° 。.:*:・!° ° !・*:..。.:*:・!° 。.:*:...*::

「よし、買い物いくか！」

「ウン、行こう！」

今日も、出かけていった。

「そうだね、15日くらい毎に、ゆーたの欲しいお菓子を買ったげるわ」

「え、ホント？ 連続15日？」

「ううん、雨の日もあるだろうから、連続じゃなくて良いよ」

「やったあ～！」

今日の買い物は、お米5kgだった.....。

結局、僕が持ってきたのだが、とっても重かった.....。(笑)

さてさて、夕方の買い物、いつまで続くことだろうか？

風が随分強く吹いています。明日はとても寒くなるという予報。
厳しい寒さの中、二人で歩くのもなかなか良いものです。
とりあえず、そう思ってます。

「あ、あの家は今晚カレーだね」 -1999/12/13(月) Vol.136-

昨日の夕方、僕たちは三人でスーパーまで出かけていった。

やはり、同じ歩くにしても女房と一緒にだとゆーたは、とっても嬉しそうだ。

途中、一カ所ある信号機が変わりそうなので、

「ダッシュウ～」

という女房のかけ声で、走ってみたり.....。

買い物を済ませた帰り道、とある家の横を通った時、突然ゆーたが「あ、カレーの臭いがする！ あの家は、今晚はカレーなんだねっ！」と言った。

僕と女房は、思わず吹き出した。

ダイエットがどうのこうの、というよりもこうして三人で歩く時間が、何とも言えずに心地よい。辺りはすっかり暗くなり、冴え渡った空、そして月、そんな中を帰っていった。

:*:・!° 。.:*:・!° ° !・*:..。.:*:・!° 。.:*:...*::

先週から今週にかけ、ずっとおだやかな毎日が続いていたわけではない。

水曜日あたりからゆーたが何とも言えずにイライラし始めた。

木曜日のメンタルクリニックにも、「今日は行かない」と言いだし、結局僕一人で行ってきた。

考えるに、学校からのプリントが来たり、歩き始めたゆーたに周りの大人がはしゃぎすぎたため、途端に「歩くことがとっても期待されていること」といった、プレッシャーを感じたのではなかろうか.....。

また、最近、痩せてきた(以前に比べて!)僕に向かい、女房が「パパ痩せてきたねえ～。ゆーたも痩せないかねっ！」などと言ったりしたものだから、それはとってもショックなことではなかっただろうか、な

どと想像する。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '.:*:.. .*:・'° 。.:*:...*:

ゆーたの内面がわかるわけではない。

イライラしているときは、ホント、たまったものではない。

でも、イライラして、周りの家族に当たり散らしている自分というものも自覚しているのだと思う。

「振幅」……。ゆーたの内面は絶えず揺れ動いているのだろう。

いくら親が「学校に行かなくても良いんだよ」と言ってはみても、学校に行ってい自分自身をどう解釈して良いのか、わからないところもあるのだろう。

右に振れたり、左に振れたりしながら、一つ一つを消化していつてるのだろう。そう思う。

最近いささか寝不足。「爆ボンバーマン2」の予習(笑)を夜中にやっている。なかなか難しく、毎日毎日二人であーだ、こーだと言っている、なかなか埒があかない時が多い。そのための予習なのだが、いつしか...。(^^)

歩いていれば -1999/12/30(木) Vol.137-

今年のママサンタへ僕がお願いしたのは、ジョギングシューズだった。

併せて、防寒用の上下のウェア。(^^)

張りきって早速外に走りに出かけた。

ところが、初日は1kmももたなかった。

.....

足への衝撃が思った以上に激しく、すぐに疲れてしまったのだった。そしてついつい、ペースが早くなってしまっていて、息が切れてしまったのだ。

それなりに体力が付いてきていると、自負していた僕にはいささかショックだった。

すぐにゆっくりゆっくり歩き出し、結局、トロトロと走ってはすぐに歩き、歩いてはまた少し走る、そんな感じだった。(;_;

スポーツジムのランニングマシンは、それなりのクッションもあり、足にはそれほど負担がかからないのだ、ということに気が付いた。そして走る速さもデジタルメーターで、0.1km/h毎に設定できる、最終的にはただ、足を動かすだけ、汗を流すだけになってしまうのだった。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '.:*:.. .*:・'° 。.:*:...*:

昨日、一昨日、いつも以上にストレッチをやって、ゆっくりゆっくりしたペースで走り始めた。そして、前もって決めていたコース、約5kmを何とか走り通すことができた。

嬉しかった...

調子が良いとき、視線は遠くを見つめている。

次の曲がり角が少しずつ近づいてくるのを楽しんでいる。

周りを見渡す余裕もでき、「あれ、こんなところがあったのか？」などと小さな発見に心を躍らせたりする。

次第に疲れてくる。

足取りが重くなると、視線が知らず知らず落ちてしまっている。

あまり遠くを見つめていると、イヤになってしまうからだろう……。

しんどくなるとペースを落とし、思いっきり空気を吸う。

「走れなくなったら、歩けばいいんだから……」

そう思うと気が楽になり、「後、もう少し走ってみよう」という気持ちになっていく。

:*:・!° 。.:*:・!° ° !.:*:.. .!:*:・!° 。.:*:...*::

風ってこんなに強かったんだ…。

車のライトは何て眩しいんだ！

道ってこんなにデコボコしていたんだ。

……色々な事を考えたり、イヤホンから流れてくる音楽に、耳を傾けたり。

ゆっくりでも良いから、そして休み休みでも良いから、足を動かし続けていれば必ず着くんだ。前方に我が家の灯りが目に入ってくるたびに、そう思うのだった。

:*:・!° 。.:*:・!° ° !.:*:.. .!:*:・!° 。.:*:...*::

ゆーたは毎日、毎日同じ繰り返し。

「こんな毎日で良いのだろうか？」という出口の見えない不安もあるのだろうか、相変わらず、些細なことで怒ったりしている。

ま、しょうがないかな。

今、僕たち家族に向けてぶつけているイライラは、今までゆーたが保育園や学校でぶつけられてきた、イヤな思いを吐き出しているように思う。全部、自分の気持ちを吐き出すこと無しには、前に足をかせないでいるのだろうか……。

おまけ ~ランニング用音楽リスト~ こんな聴きながら走ってます。(^^)

- 1.America / Simon & garfunkle
- 2.Desperade / The Eagles
- 3.1999年のドラッグレース / 大滝 詠一
- 4.Get Back in Love / 山下 達郎
- 5.Hotel California / The Eagles
- 6.In The Morning / The Bee Gees
7. 悲しみのジェットプレーン / Jhon denver
- 8.Melody Fair / The Bee Gees
- 9.Morning Island / 渡邊貞夫
- 10.Nice Shot / 渡邊貞夫
- 11.Princess Moon / カシオペア
- 12.Rendezvous / 渡邊貞夫
- 13.Saudade / 高中正義
- 14.Tears in Heaven / Eric Clapton
15. 故郷へ帰りたい / Jhon denver
16. 水曜の朝、午前三時 / Simon & garfunkle

僕にとって今年最大のヒット商品は、MP三のプレーヤー。

MDやCDウォークマンと違い、メモリーにデータを記憶させるから、音飛びがしない！これって凄いなあ～。